

在宅介護実態調査報告書（案）

令和8年7月
宇 治 市

目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の設計.....	1
3 回収状況.....	1
4 報告書の見方.....	2
5 集計・分析における留意点.....	2
第2章 調査項目の集計結果（単純計算結果）	4
1 基本調査項目（A票）	4
2 主な介護者様用の調査項目（B票）	15
3 要介護認定データ	20
第3章 介護保険事業計画の策定に向けた検討（クロス集計結果）	27
1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	27
2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	51
3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	75
4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	88
5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	101
6 サービス未利用の理由など	109

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「宇治市高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画」の策定にあたり、在宅で介護を受けられている方を対象に、在宅生活の継続に必要な支援をはじめ、家族等介護者の就労状況や仕事と介護の両立のための支援やサービスへのニーズなどを把握し、今後の介護サービスのあり方の検討に向けた基礎資料とすることを目的に実施しました。

2 調査の設計

(1) 調査対象

在宅で生活している要支援・要介護者のうち、下記の期間に「要支援・要介護認定の更新申請・区分変更申請」を行った方

(2) 調査期間

令和7（2025）年9月1日から令和8（2026）年3月31日まで

(3) 調査方法

認定調査時に調査票を直接配付し、郵送により回収

3 回収状況

有効回答数 619件

4 報告書の見方

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・クロス集計結果において、サンプル数(回答者数)が少ないものについては、分析コメントを割愛している場合があります。

5 集計・分析における留意点

(1) サービス利用の回数・組み合わせ等に着目した集計・分析に係る用語の定義

本集計・分析では、介護保険サービスの利用回数・利用の組み合わせ等に着目した集計・分析を行うため、介護保険サービスを大きく、「訪問系」、「通所系」、「短期系」の3つに分類して集計しています。なお、介護保険サービスの中には介護予防・日常生活支援総合事業を通じて提供される「介護予防・生活支援サービス」も含まれます。

それぞれ、用語の定義は以下の通りです。

図表 1-5-1 サービス利用の分析に用いた用語の定義

用語		定義
未利用		・「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、未利用として集計しています。
訪問系		・（介護予防）訪問介護、（介護予防）訪問入浴介護、（介護予防）訪問看護、（介護予防）訪問リハビリテーション、（介護予防）居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計しています。
通所系		・（介護予防）通所介護、（介護予防）通所リハビリテーション、（介護予防）認知症対応型通所介護を「通所系」として集計しています。
短期系		・（介護予防）短期入所生活介護、（介護予防）短期入所療養介護を「短期系」として集計しています。
その他	小規模多機能	・（介護予防）小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計しています。
	看護多機能	・看護小規模多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計しています。
	定期巡回	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計しています。

図表 1-5-2 サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義

用語	定義
未利用	・ 上表に同じ
訪問系のみ	・ 上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計しています。
訪問系を含む組み合わせ	・ 上表の「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「短期系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」＋「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計しています。
通所系・短期系のみ	・ 上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」＋「短期系」の利用を集計しています。

(2) 施設等検討の状況に係る用語の定義

本集計・分析では、施設等検討の状況について、「入所・入居は検討していない（検討していない）」、「入所・入居を検討している（検討中）」、「すでに入所・入居申し込みをしている（申請済み）」の3つに分類して集計しています。

ここでの、施設等の定義については、調査票内において「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護医療院、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。」としています。

したがって、ここでの施設等とは、介護保険施設に限定するものではありません。

第2章 調査項目の集計結果（単純計算結果）

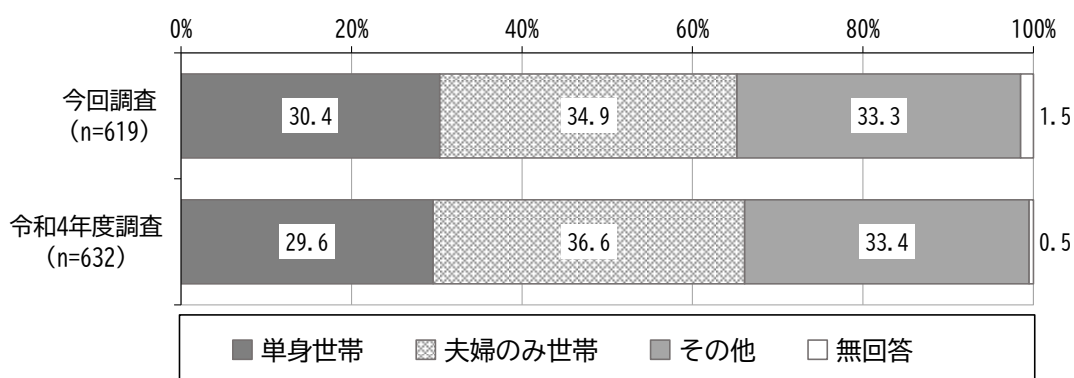
1 基本調査項目（A票）

(1)世帯類型

「夫婦のみ世帯」が34.9%で最も高く、次いで「その他」が33.3%、「単身世帯」が30.4%となっています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-1-1 世帯類型（単数回答）

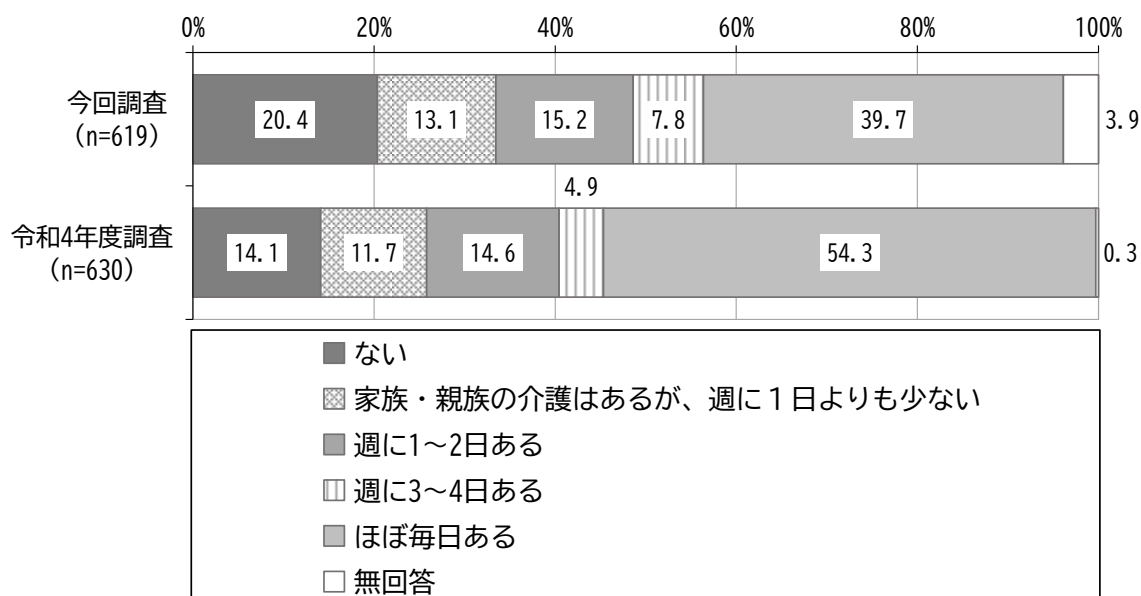


(2)家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日ある」が39.7%で最も高く、次いで「ない」が20.4%、「週に1～2日ある」が15.2%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「ほぼ毎日ある」（39.7%）では、令和4（2022）年度調査（54.3%）より14.6ポイント減少しています。

図表 2-1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）

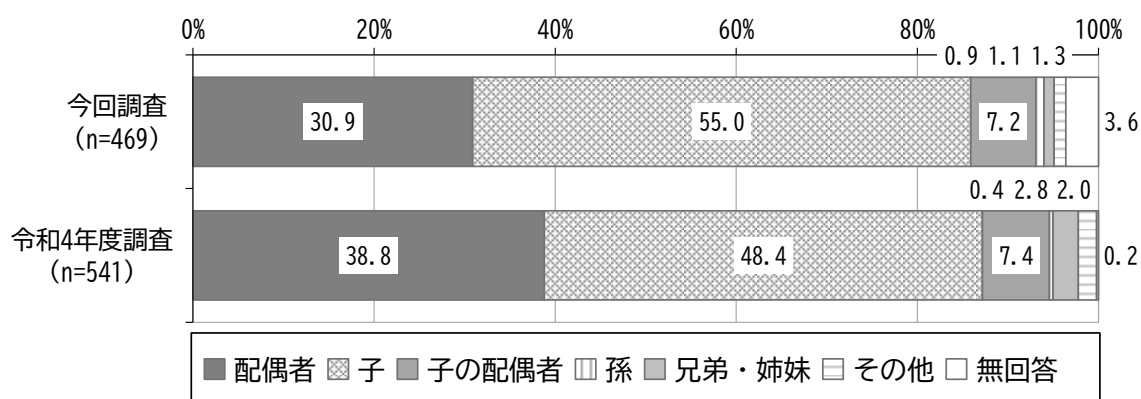


(3)主な介護者の本人との関係

「子」が55.0%で最も高く、次いで「配偶者」が30.9%、「子の配偶者」が7.2%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「子」（55.0%）では、令和4（2022）年度調査（48.4%）より6.6ポイント増加しています。

図表 2-1-3 主な介護者の本人との関係（単数回答）

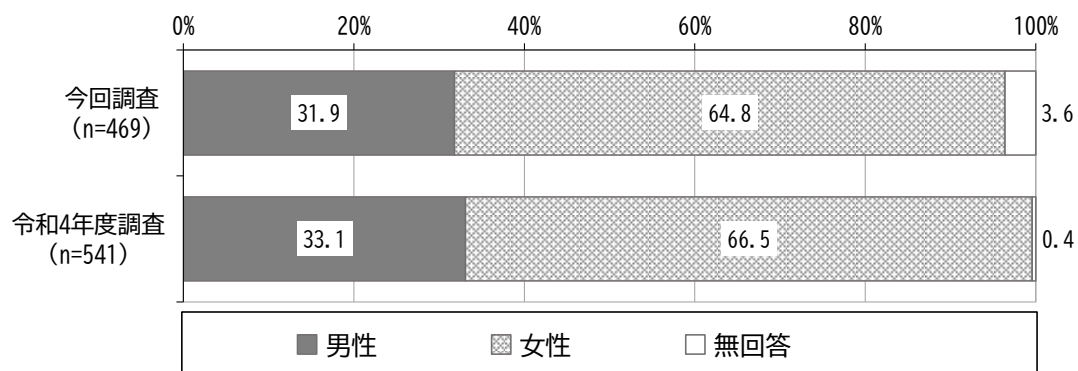


(4)主な介護者の性別

「男性」が31.9%、「女性」が64.8%となっています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

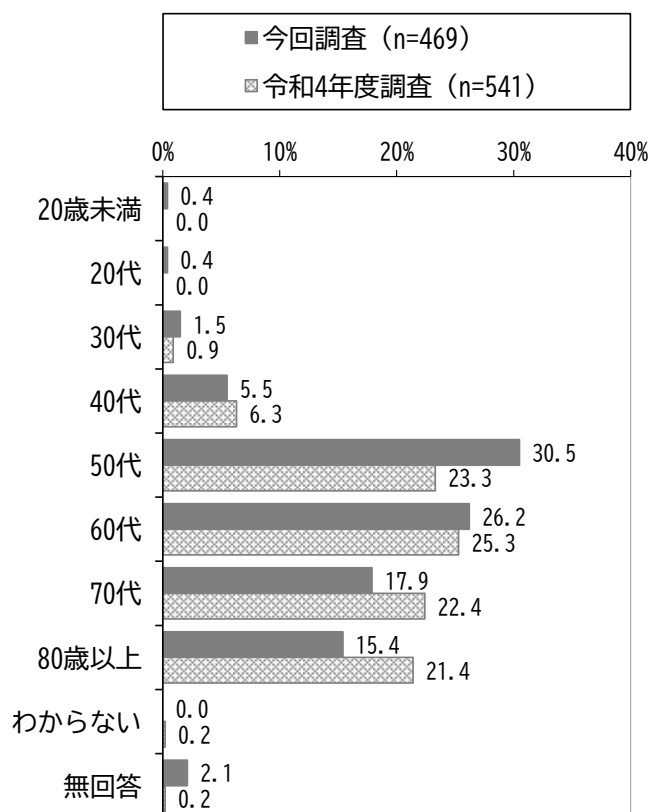
図表 2-1-4 主な介護者の性別（単数回答）



(5)主な介護者の年齢

「50代」が30.5%で最も高く、次いで「60代」が26.2%、「70代」が17.9%と続いています。
令和4(2022)年度調査と比較すると、「50代」(30.5%)では、令和4(2022)年度調査(23.3%)より7.2ポイント増加しています。

図表 2-1-5 主な介護者の年齢（単数回答）

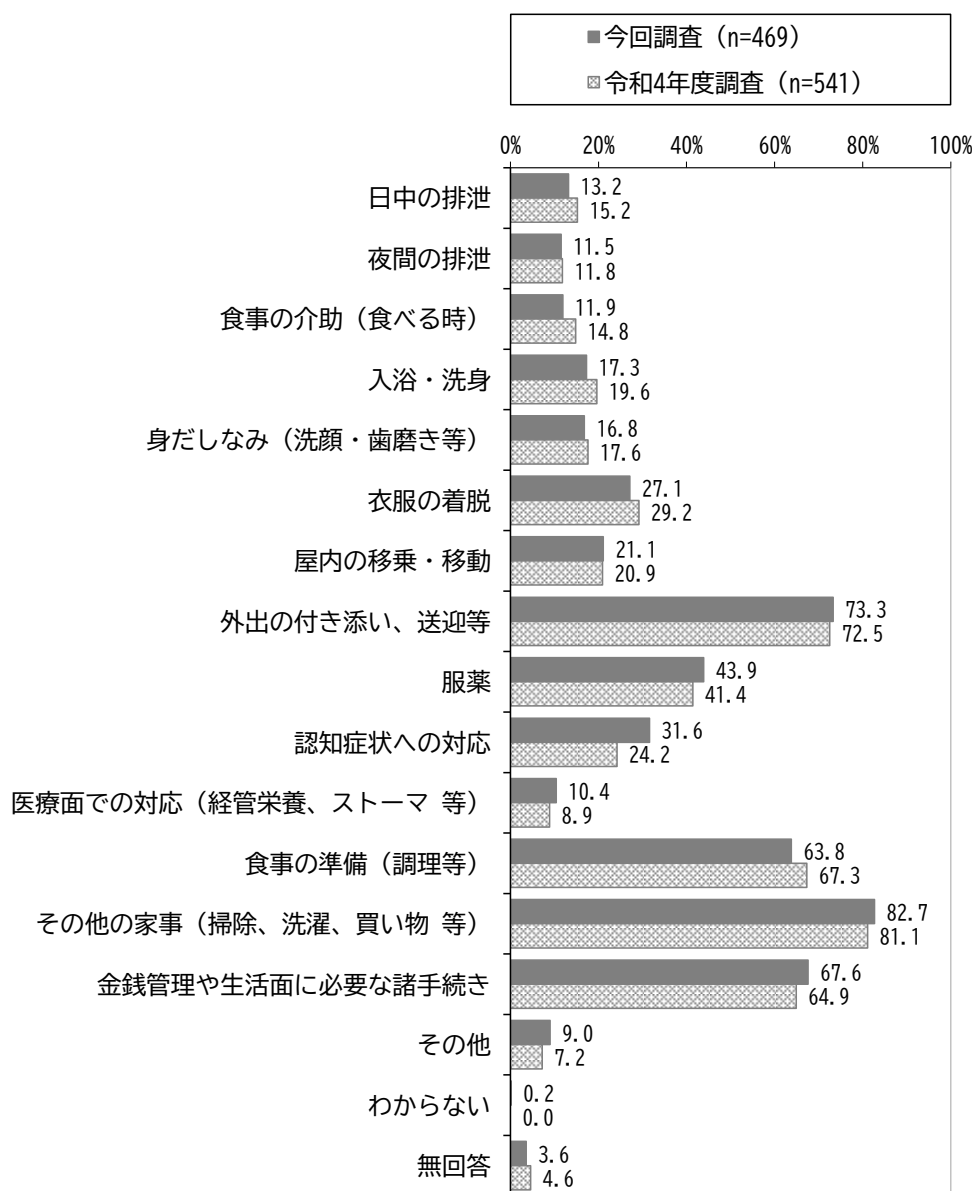


(6)主な介護者が行っている介護

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が82.7%で最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が73.3%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が67.6%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「認知症状への対応」（31.6%）では、令和4（2022）年度調査（24.2%）より7.4ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 2-1-6 主な介護者が行っている介護（複数回答）

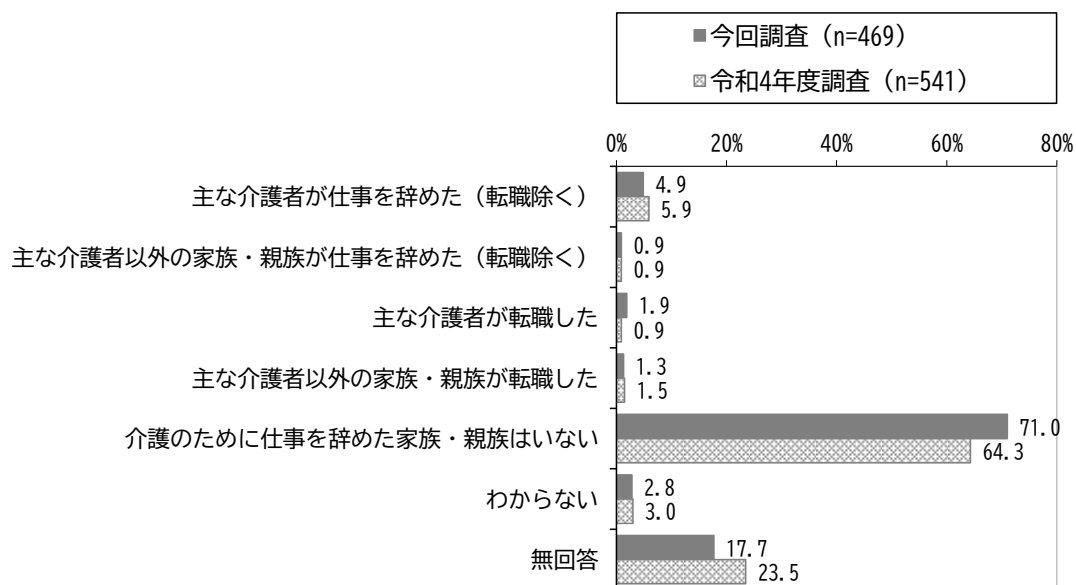


(7)介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 71.0%で最も高く、次いで「無回答」が 17.7%、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が 4.9%と続いています。

令和 4 (2022) 年度調査と比較すると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」(71.0%)では、令和 4 (2022) 年度調査 (64.3%) より 6.7 ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 2-1-7 介護のための離職の有無（複数回答）

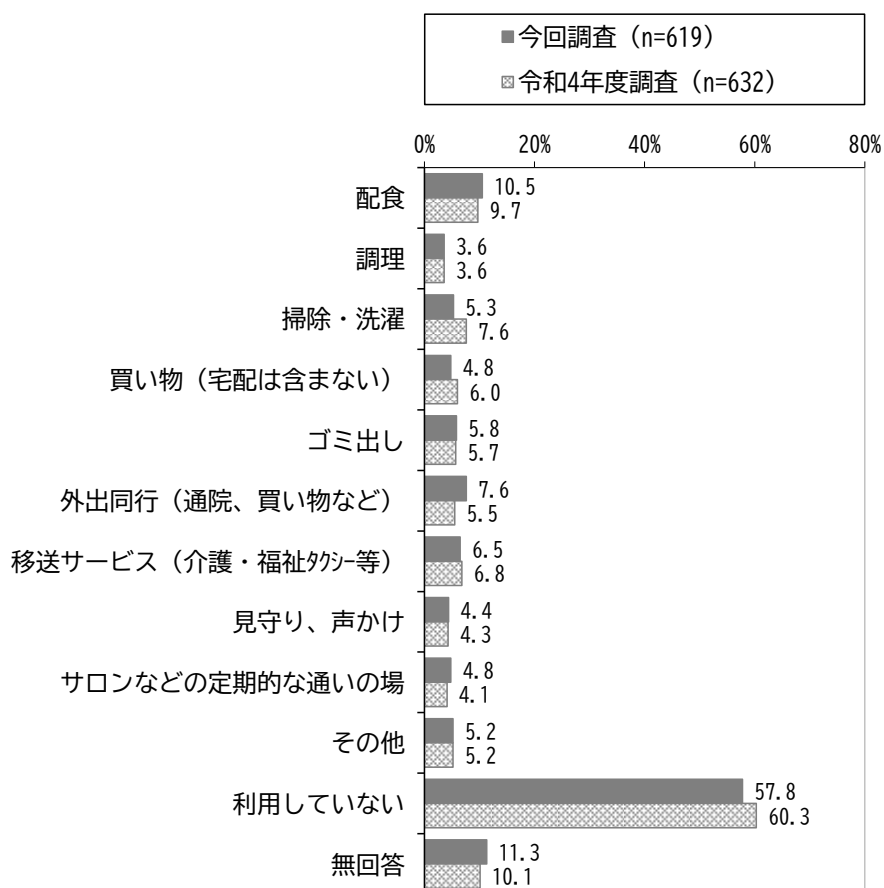


(8)保険外の支援・サービスの利用状況

「利用していない」が57.8%で最も高く、次いで「配食」が10.5%、「外出同行（通院、買い物など）」が7.6%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-1-8 保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）

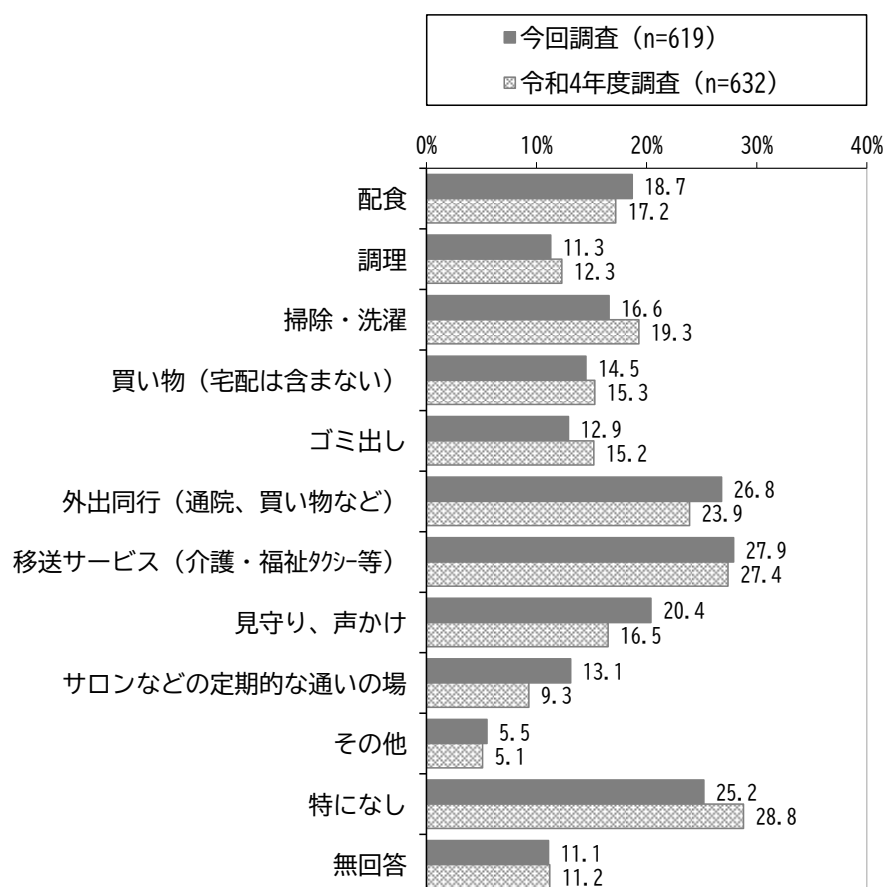


(9)在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が27.9%で最も高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が26.8%、「特になし」が25.2%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「見守り、声かけ」（20.4%）では、令和4（2022）年度調査（16.5%）より3.9ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 2-1-9 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）

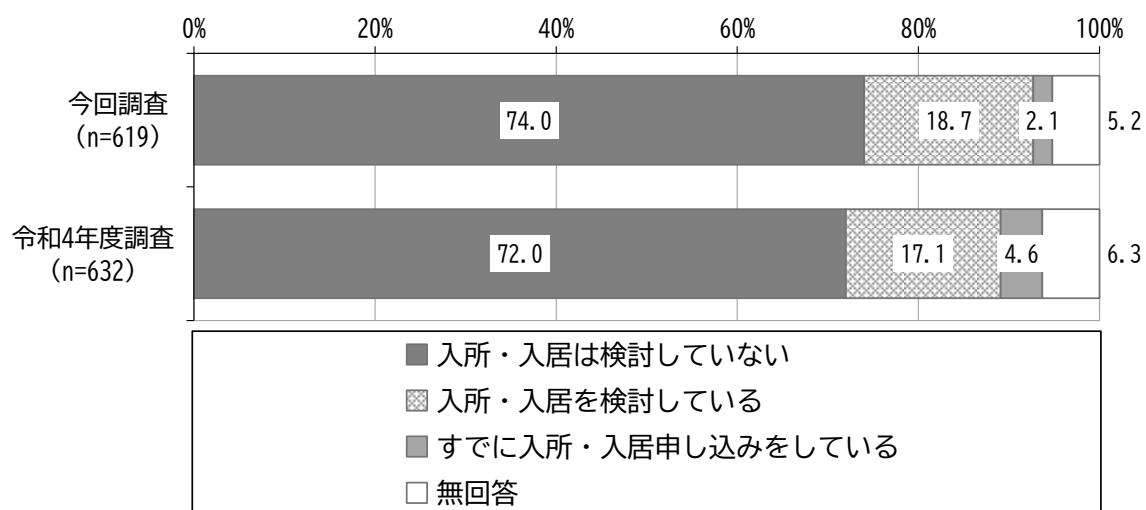


(10)施設等検討の状況

「入所・入居は検討していない」が74.0%で最も高く、次いで「入所・入居を検討している」が18.7%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が2.1%となっています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-1-10 施設等検討の状況（単数回答）

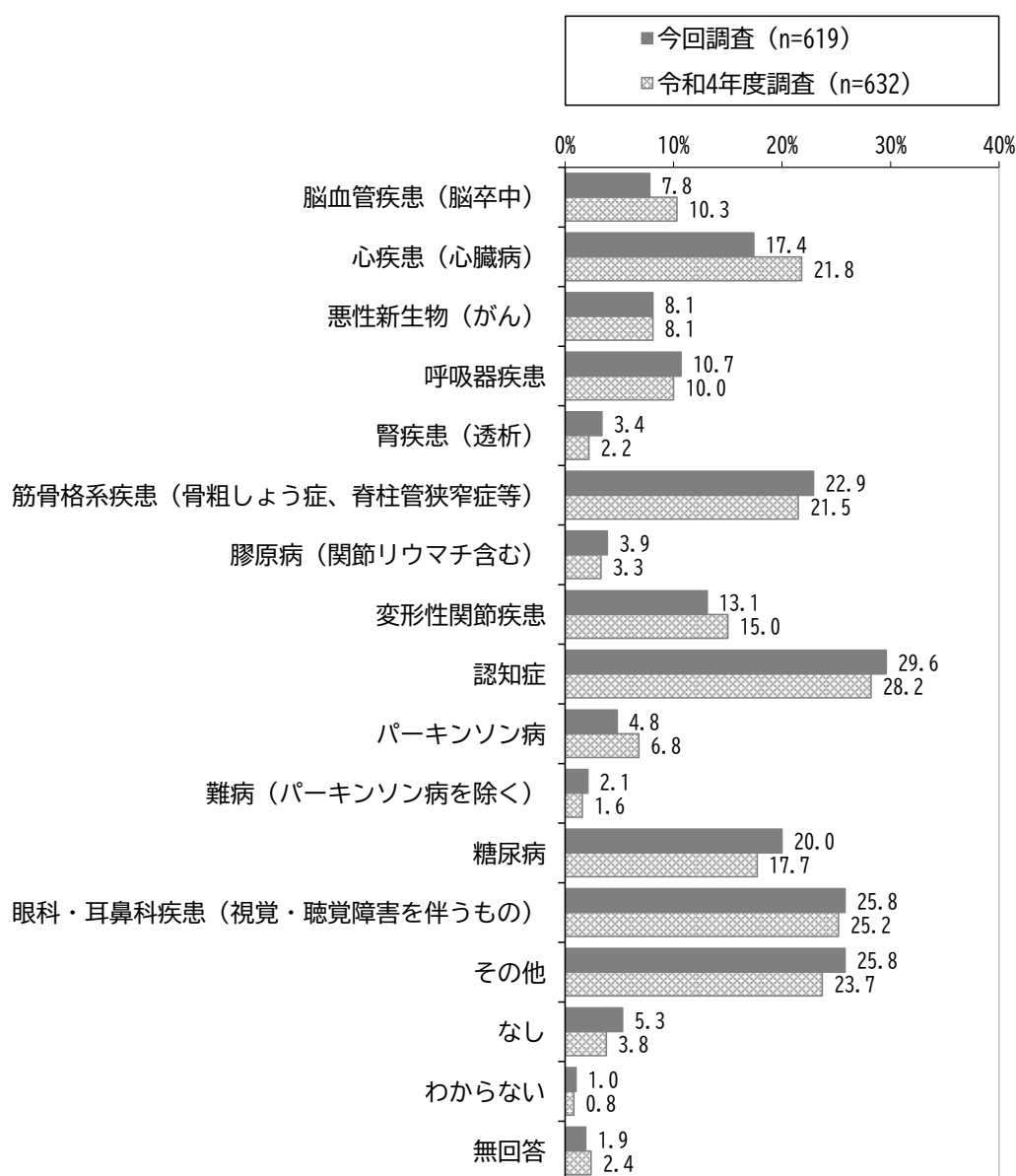


(11)本人が抱えている傷病

「認知症」が29.6%で最も高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」、「その他」がいずれも25.8%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「心疾患（心臓病）」（17.4%）では、令和4（2022）年度調査（21.8%）より4.4ポイント減少し、最も減少した項目となっています。

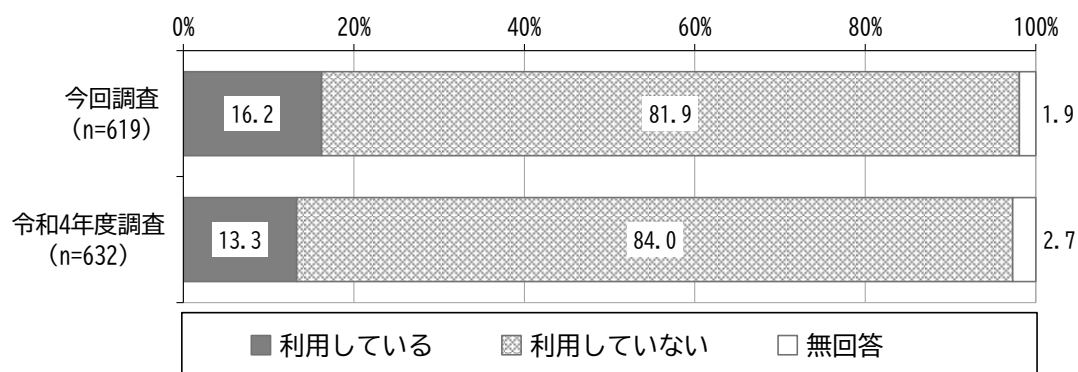
図表 2-1-11 本人が抱えている傷病（複数回答）



(12)訪問診療の利用の有無

「利用している」が16.2%、「利用していない」が81.9%となっています。
令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

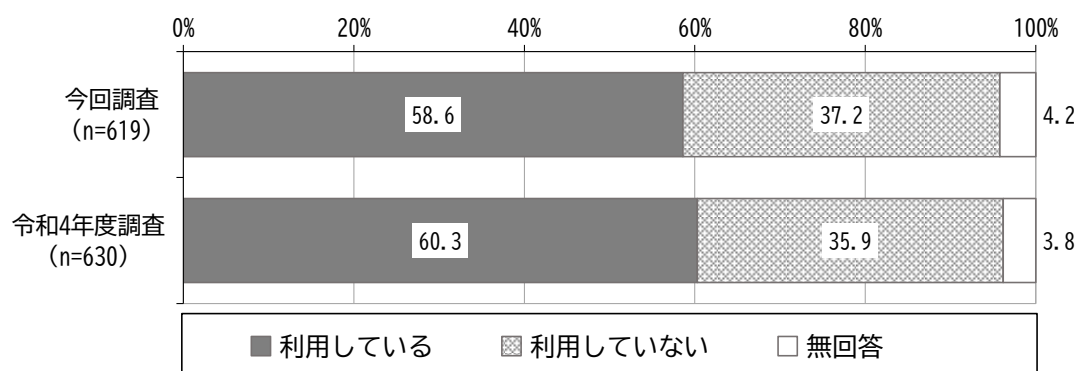
図表 2-1-12 訪問診療の利用の有無（単数回答）



(13)介護保険サービスの利用の有無

「利用している」が58.6%、「利用していない」が37.2%となっています。
令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-1-13 介護保険サービスの利用の有無（単数回答）

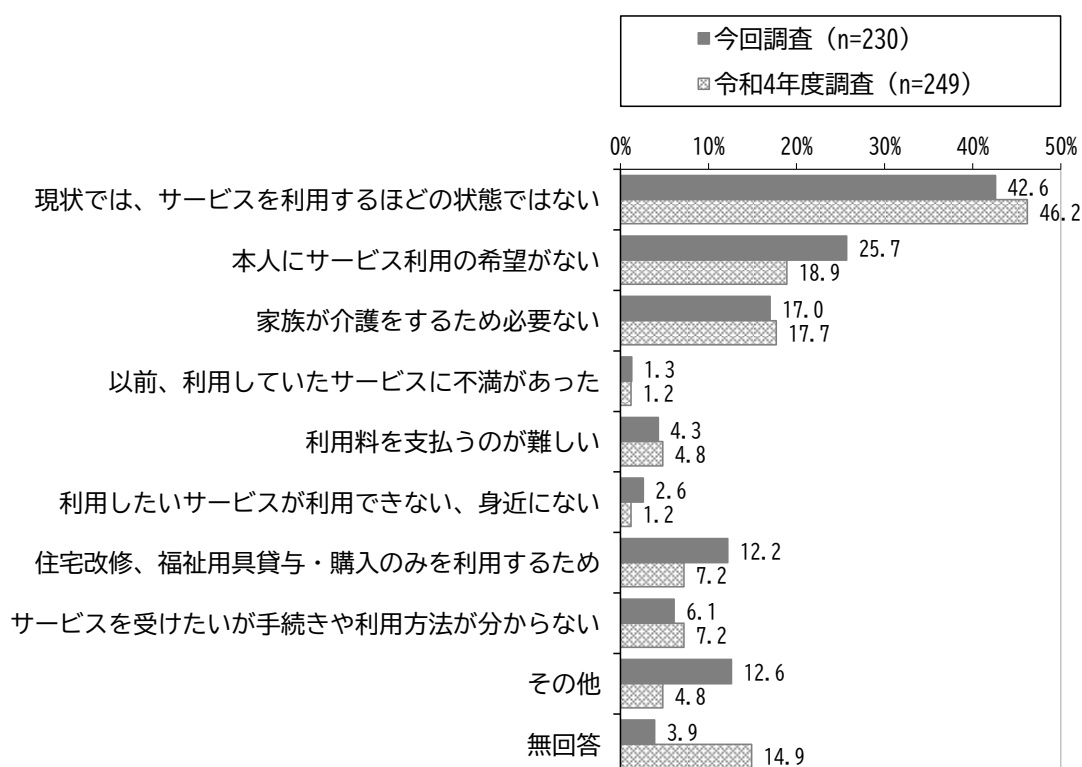


(14)介護保険サービス未利用の理由

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が42.6%で最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が25.7%、「家族が介護をするため必要ない」が17.0%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」（42.6%）では、令和4（2022）年度調査（46.2%）より3.6ポイント減少し、最も減少した項目となっています。

図表 2-1-14 介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）



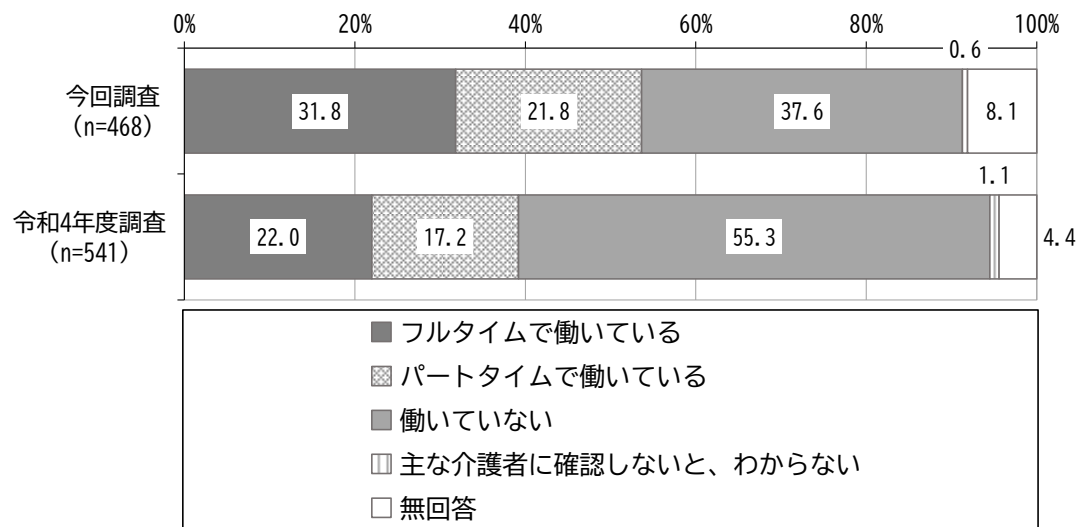
2 主な介護者様用の調査項目（B票）

(1)主な介護者の勤務形態

「働いていない」が37.6%で最も高く、次いで「フルタイムで働いている」が31.8%、「パートタイムで働いている」が21.8%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、『働いている』（「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」の合計）（53.6%）では、令和4（2022）年度調査（39.2%）より14.4ポイント増加しています。

図表 2-2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）

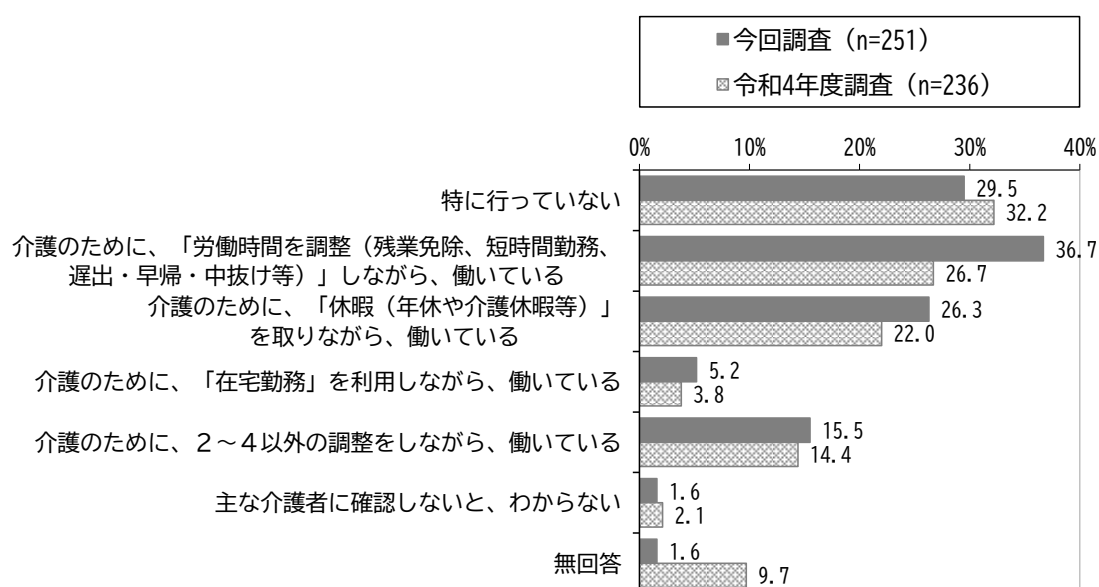


(2)主な介護者の方の働き方の調整の状況

「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が36.7%で最も高く、次いで「特に行っていない」が29.5%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が26.3%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」（36.7%）では、令和4（2022）年度調査（26.7%）より10.0ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 2-2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）

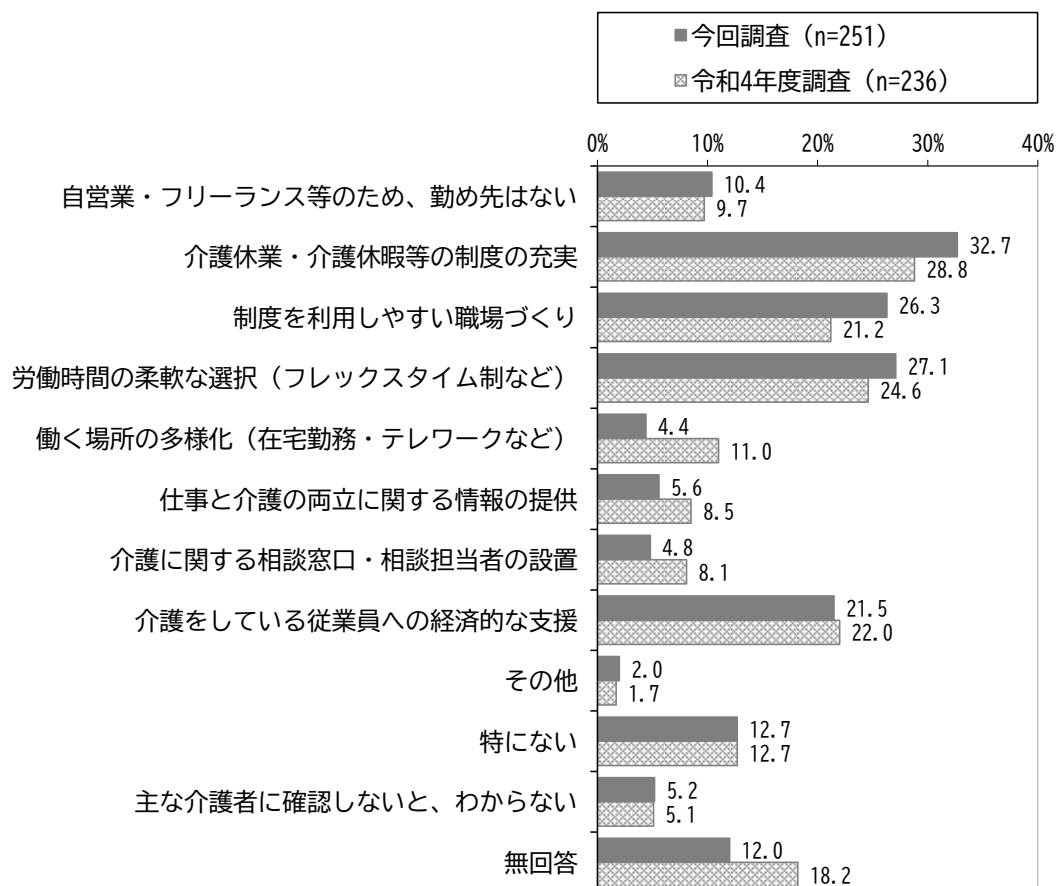


(3)就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が32.7%で最も高く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が27.1%、「制度を利用しやすい職場づくり」が26.3%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「制度を利用しやすい職場づくり」（26.3%）では、令和4（2022）年度調査（21.2%）より5.1ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 2-2-3 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）

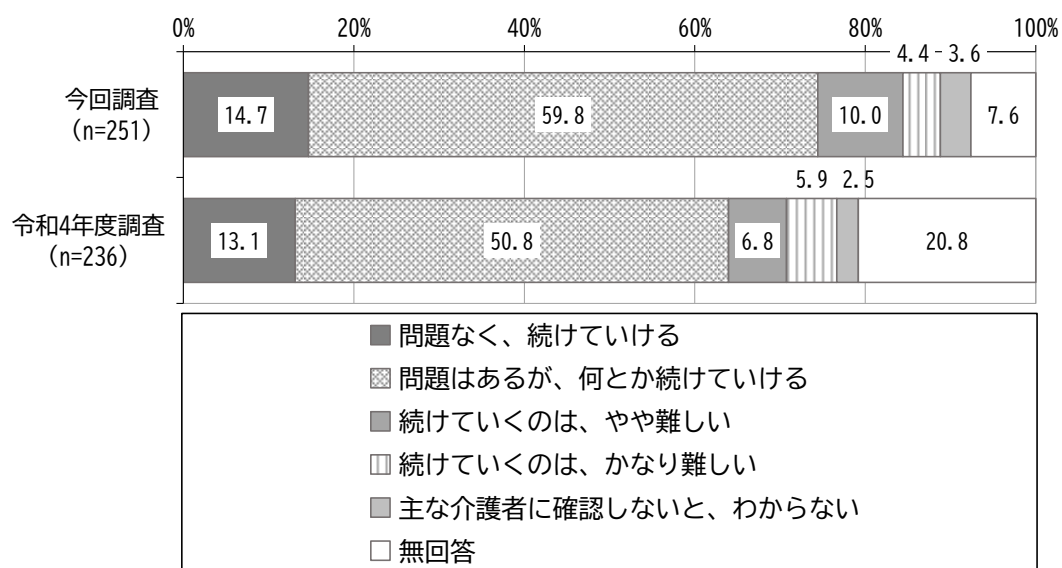


(4)主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題はあるが、何とか続けていける」が59.8%で最も高く、次いで「問題なく、続けていける」が14.7%、「続けていくのは、やや難しい」が10.0%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、『続けていける』（「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」の合計）（74.5%）では、令和4（2022）年度調査（63.9%）より10.6ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

図表 2-2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）

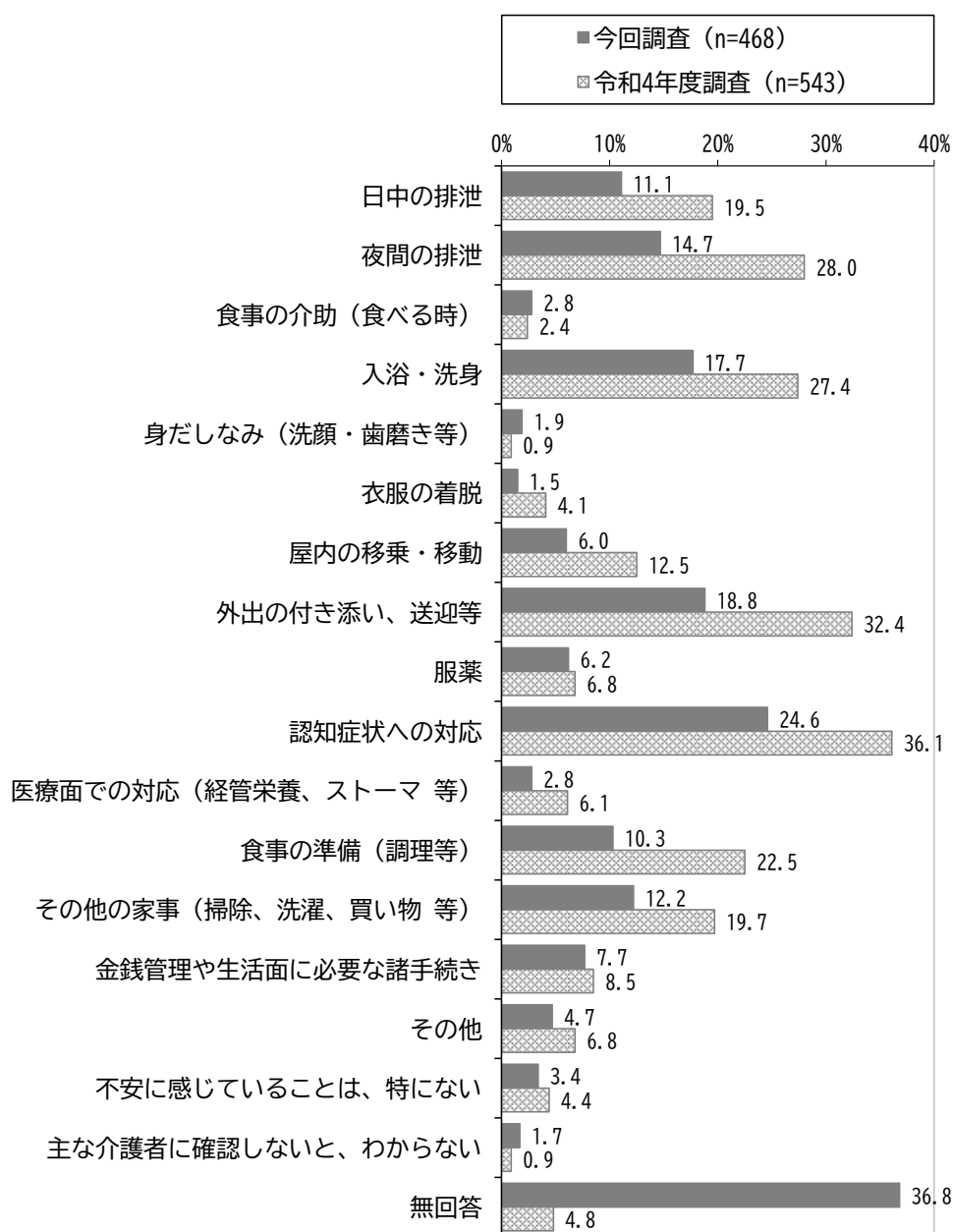


(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

「認知症状への対応」が24.6%で最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が18.8%、「入浴・洗身」が17.7%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、令和4（2022）年度調査と同じく「認知症状への対応」の割合が最も高くなっています。

図表 2-2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）

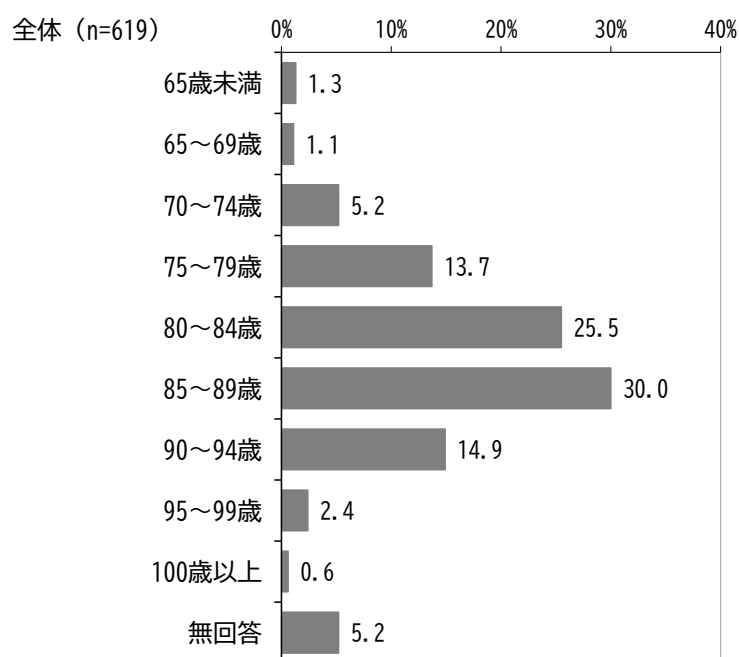


3 要介護認定データ

(1)年齢

「85～89 歳」が 30.0%で最も高く、次いで「80～84 歳」が 25.5%、「90～94 歳」が 14.9%と続いています。

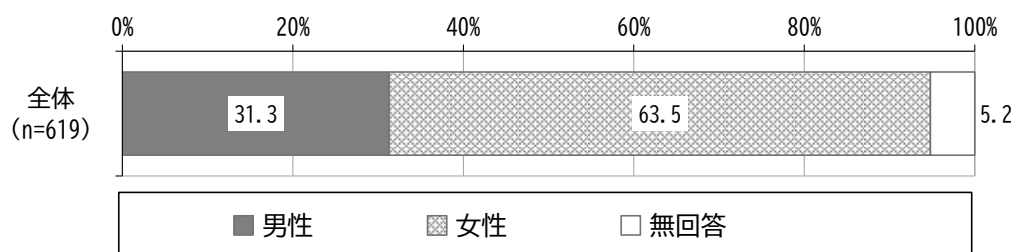
図表 2-3-1 年齢



(2)性別

「男性」が 31.3%、「女性」が 63.5%となっています。

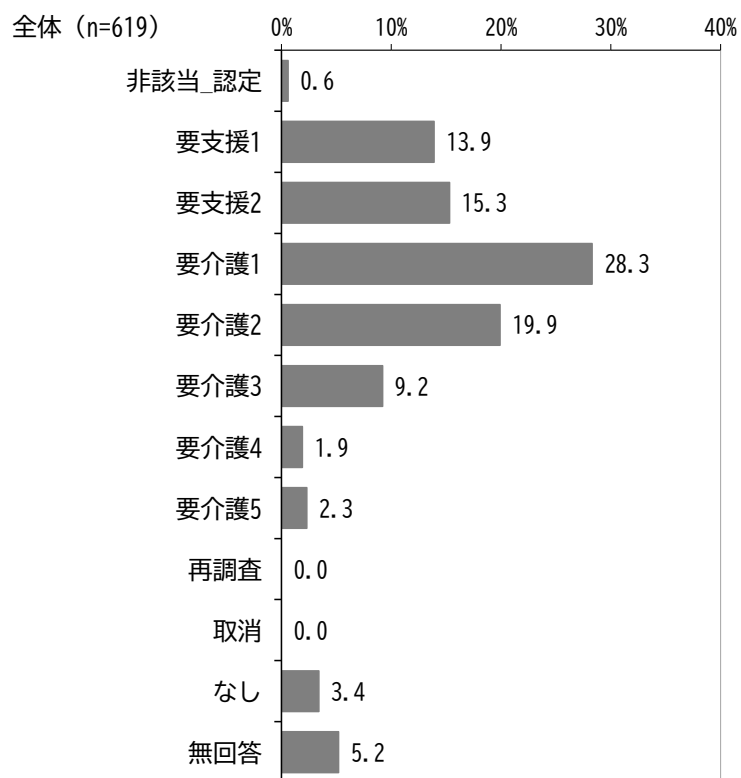
図表 2-3-2 性別



(3)二次判定結果（要介護度）

「要介護 1」が 28.3%で最も高く、次いで「要介護 2」が 19.9%、「要支援 2」が 15.3%と続いています。

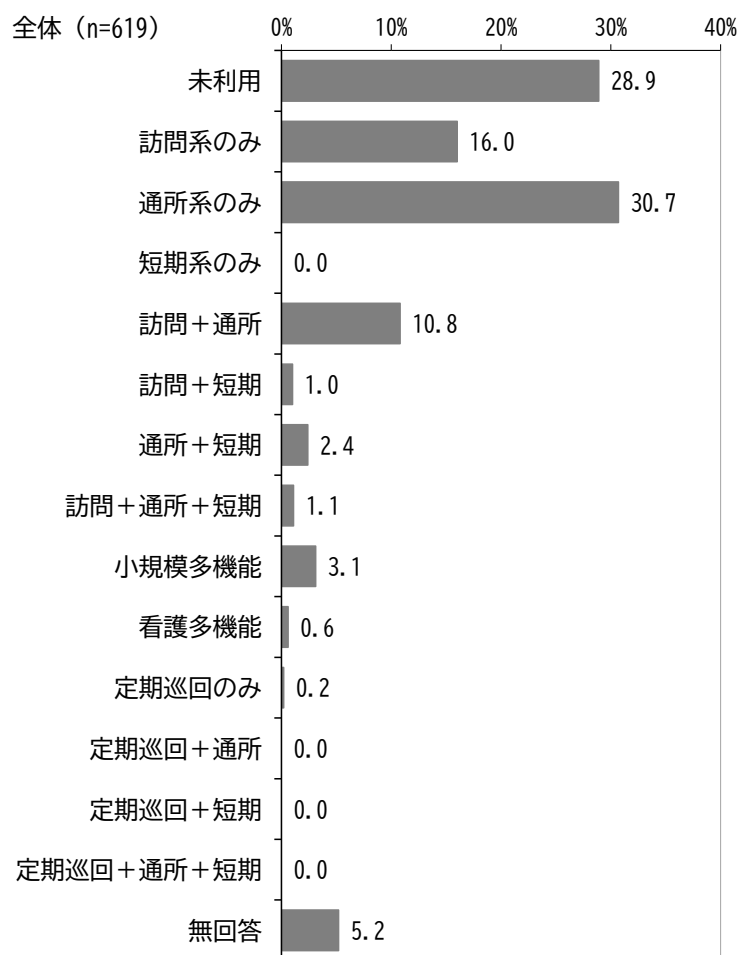
図表 2-3-3 二次判定結果



(4)サービス利用の組み合わせ

「通所系のみ」が30.7%で最も高く、次いで「未利用」が28.9%、「訪問系のみ」が16.0%と続いています。

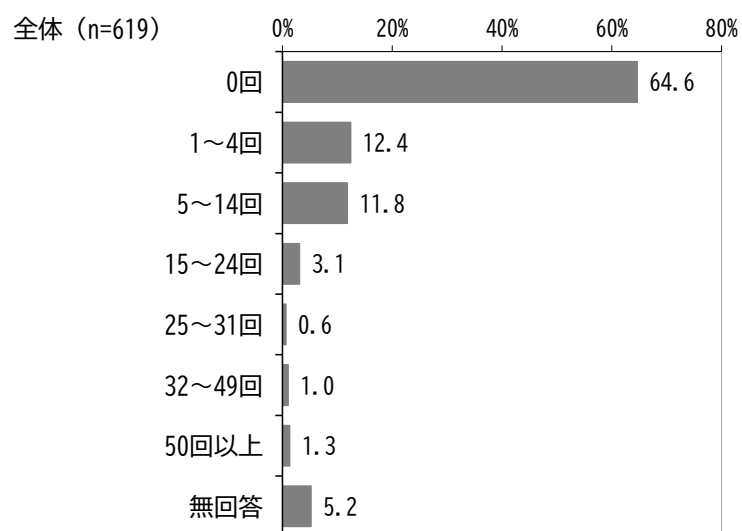
図表 2-3-4 サービス利用の組み合わせ



(5)訪問系サービスの合計利用回数

「0 回」が 64.6%で最も高く、次いで「1～4 回」が 12.4%、「5～14 回」が 11.8%と続いています。

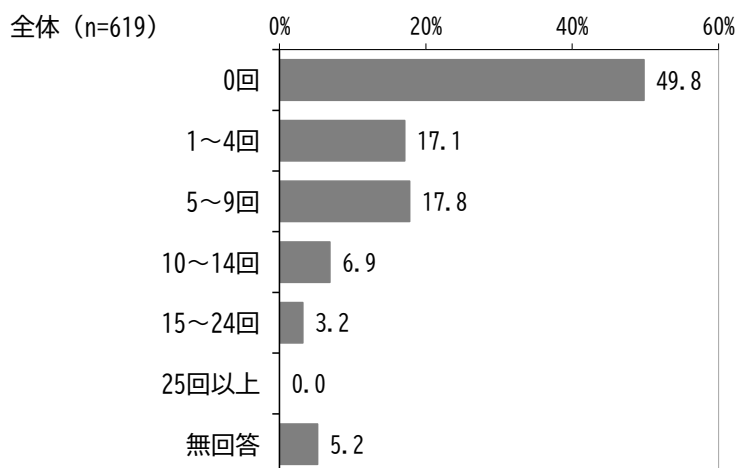
図表 2-3-5 サービスの利用回数（訪問系）



(6)通所系サービスの合計利用回数

「0回」が49.8%で最も高く、次いで「5～9回」が17.8%、「1～4回」が17.1%と続いています。

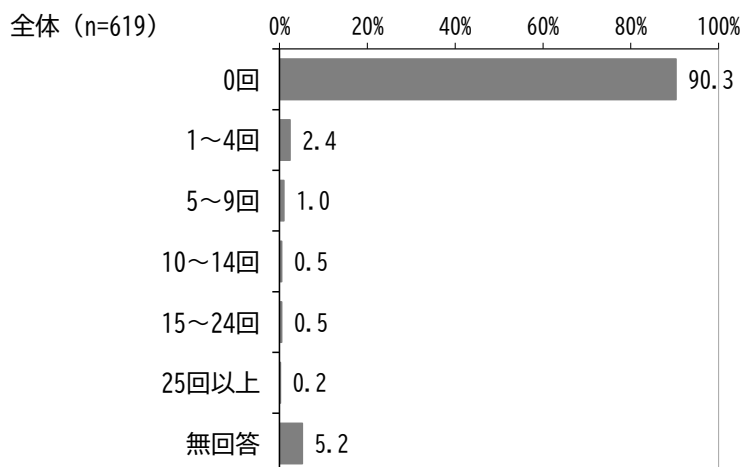
図表 2-3-6 サービスの利用回数（通所系）



(7)短期系サービスの合計利用回数

「0回」が90.3%で最も高く、次いで「1～4回」が2.4%、「5～9回」が1.0%と続いています。

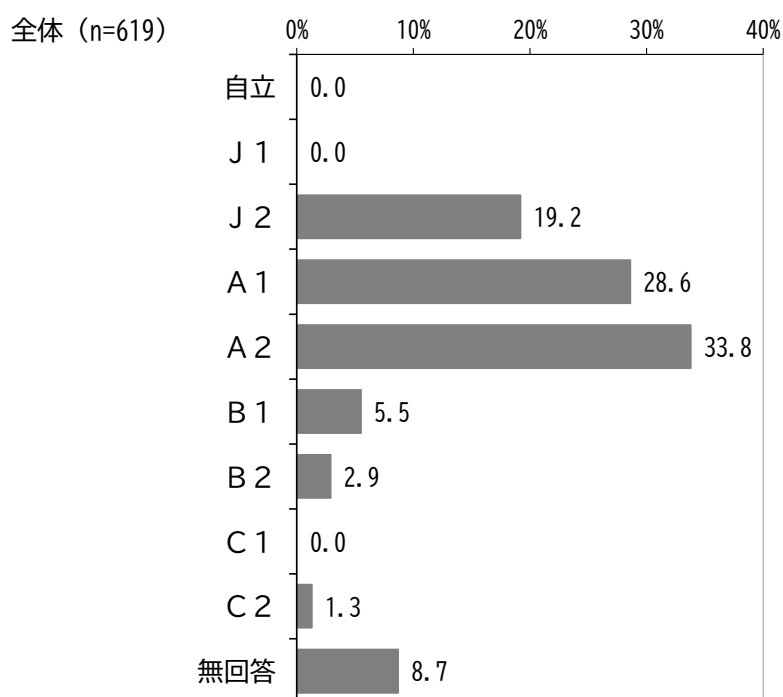
図表 2-3-7 サービスの利用回数（短期系）



(8)障害高齢者の日常生活自立度

「A 2」が33.8%で最も高く、次いで「A 1」が28.6%、「J 2」が19.2%と続いています。

図表 2-3-8 障害高齢者の日常生活自立度



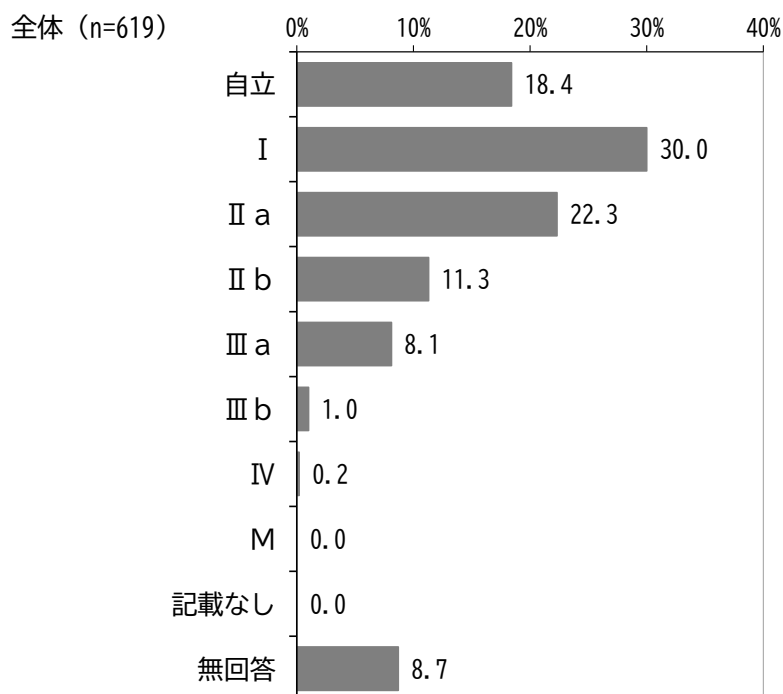
図表 2-3-9 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）判定基準

生活自立	ランク J	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する 1. 交通機関等を利用して外出する 2. 隣近所なら外出する
準寝たきり	ランク A	屋内での生活はおおむね自立しているが、介助なしには外出しない 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	ランク B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ 1. 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う 2. 介助により車いすに移乗する
寝たきり	ランク C	1 日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する 1. 自力で寝返りをうつ 2. 自力では寝返りもうたない

(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

「Ⅰ」が30.0%で最も高く、次いで「Ⅱ a」が22.3%、「自立」が18.4%と続いています。

図表 2-3-10 認知症高齢者の日常生活自立度



図表 2-3-11 認知症高齢者の生活自立度判定基準

ランク	判定基準
Ⅰ	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。
Ⅱ	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。
Ⅱ a	家庭外で上記Ⅱの状態が見られる。
Ⅱ b	家庭内でも上記Ⅱの状態が見られる。
Ⅲ	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。
Ⅲ a	日中を中心として上記Ⅲの状態が見られる。
Ⅲ b	夜間を中心として上記Ⅲの状態が見られる。
Ⅳ	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
M	著しい精神症状や問題行動あるいは、重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

第3章 介護保険事業計画の策定に向けた検討（クロス集計結果）

1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

1.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行っています。
- それぞれ、「どのようなサービス利用パターンの場合」に、「在宅生活を継続することができるのか」、もしくは「介護者の不安が軽減されているのか」を分析するために、「サービス利用パターン」とのクロス集計を行っています。
- なお、「サービス利用パターン」は、「サービス利用の組み合わせ」と「サービス利用の回数」の2つからなります。
- また、在宅限界点についての分析を行うという主旨から、多くの集計は要介護3以上、もしくは認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の方に限定して集計をしています。

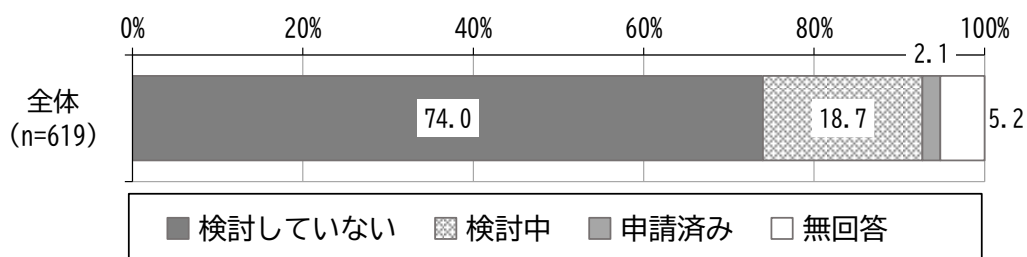
1.2 集計結果

(1) 基礎集計

【施設等検討の状況】

「検討していない」の割合が最も高く 74.0%となっています。次いで、「検討中（18.7%）」、「申請済み（2.1%）」となっています。

図表 3-1-1 施設等検討の状況



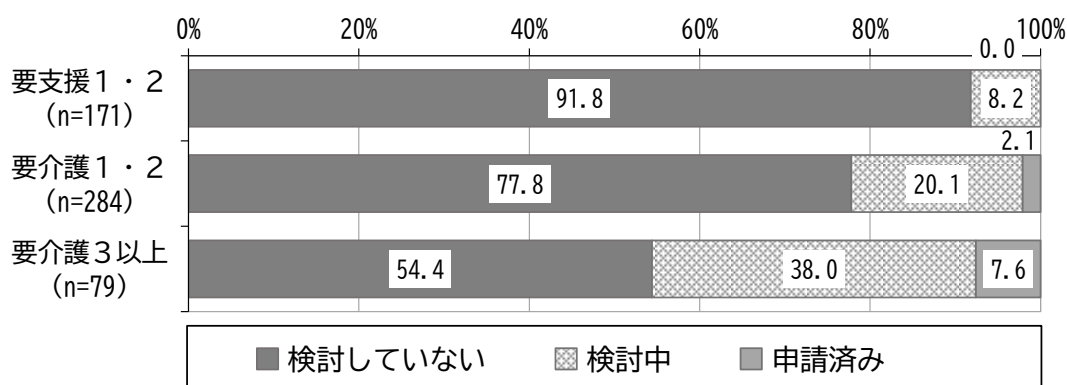
【要介護度別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が91.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が8.2%となっています。

「要介護1・2」では「検討していない」が77.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.1%、「申請済み」が2.1%となっています。

「要介護3以上」では「検討していない」が54.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が38.0%、「申請済み」が7.6%となっています。

図表 3-1-2 要介護度別・施設等検討の状況



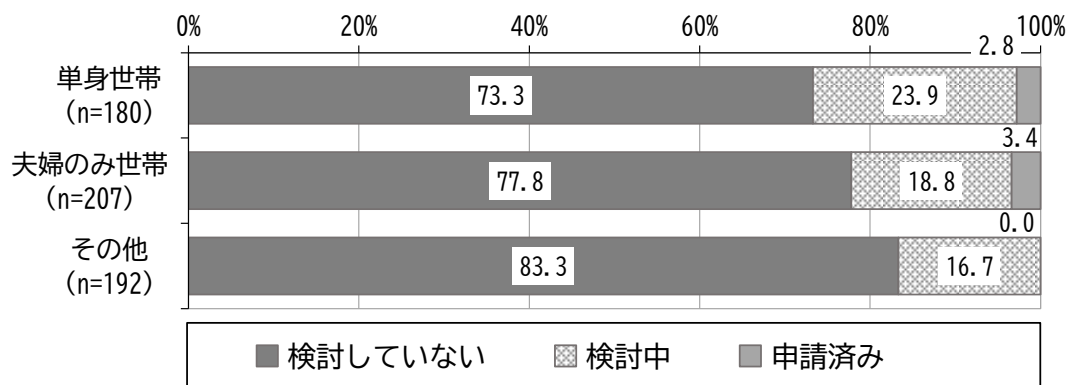
【世帯類型別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が73.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が23.9%、「申請済み」が2.8%となっています。

「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が77.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.8%、「申請済み」が3.4%となっています。

「その他」では「検討していない」が83.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が16.7%となっています。

図表 3-1-3 世帯類型別・施設等検討の状況



(2)要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化

- 要介護度と認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化について、集計分析をしています。

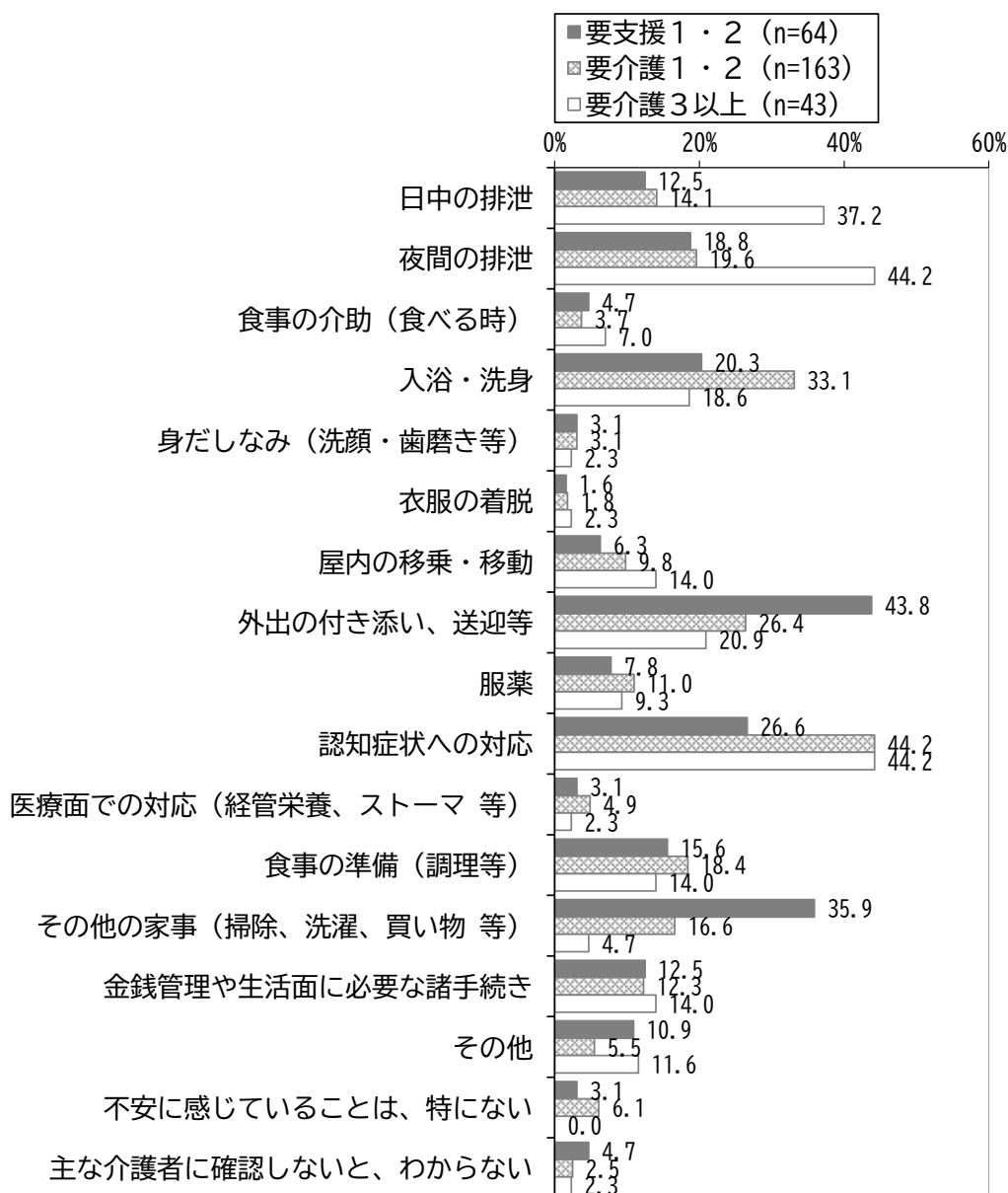
【要介護度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を二次判定結果別にみると、「要支援 1・2」では「外出の付き添い、送迎等」が 43.8%と最も割合が高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 35.9%、「認知症状への対応」が 26.6%となっています。

「要介護 1・2」では「認知症状への対応」が 44.2%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が 33.1%、「外出の付き添い、送迎等」が 26.4%となっています。

「要介護 3 以上」では「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が 44.2%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が 37.2%、「外出の付き添い、送迎等」が 20.9%となっています。

図表 3-1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



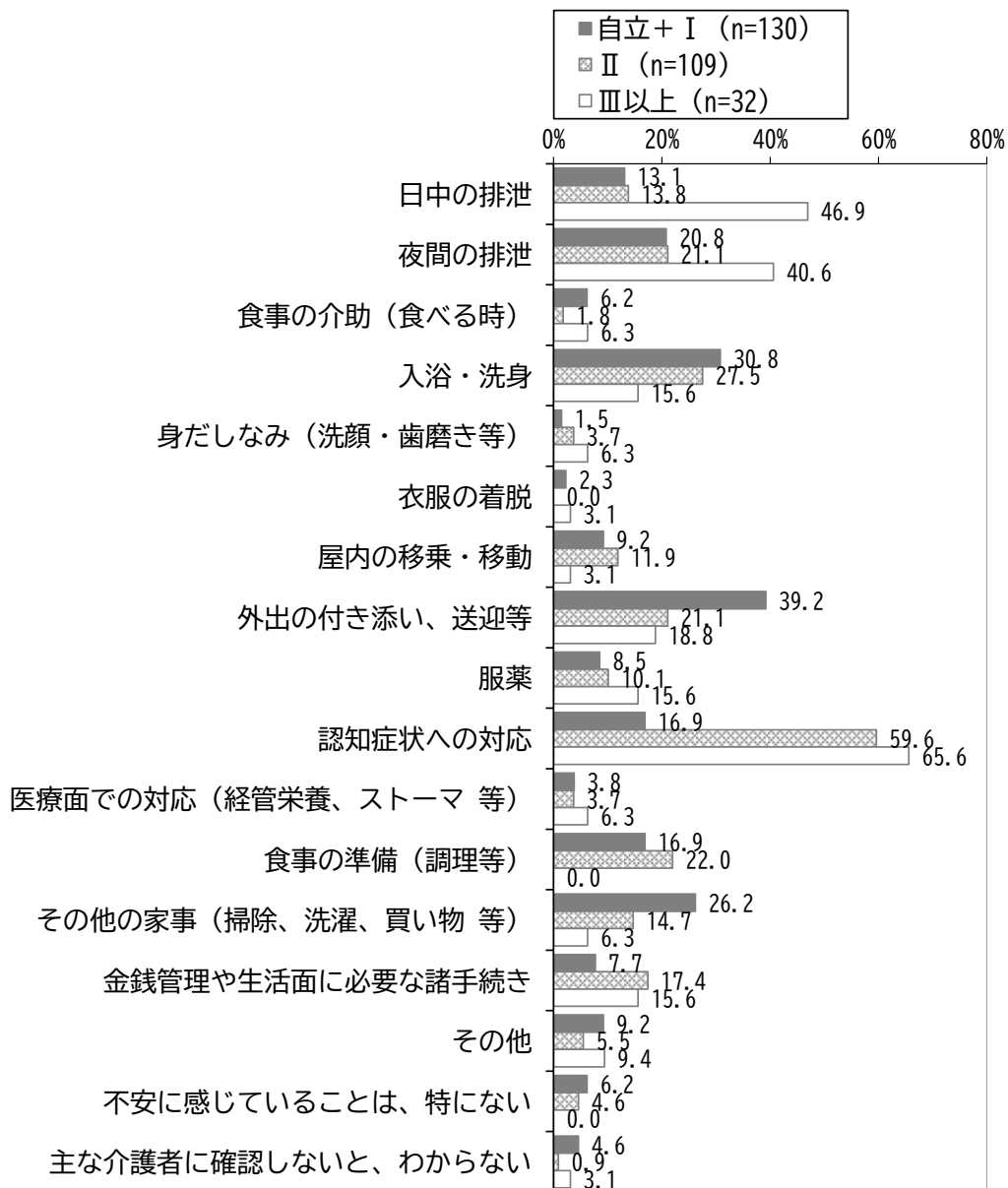
【認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「外出の付き添い、送迎等」が 39.2%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が 30.8%、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 26.2%となっています。

「Ⅱ」では「認知症状への対応」が 59.6%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が 27.5%、「食事の準備（調理等）」が 22.0%となっています。

「Ⅲ以上」では「認知症状への対応」が 65.6%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が 46.9%、「夜間の排泄」が 40.6%となっています。

図表 3-1-5 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護



(3)要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

○ ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています。

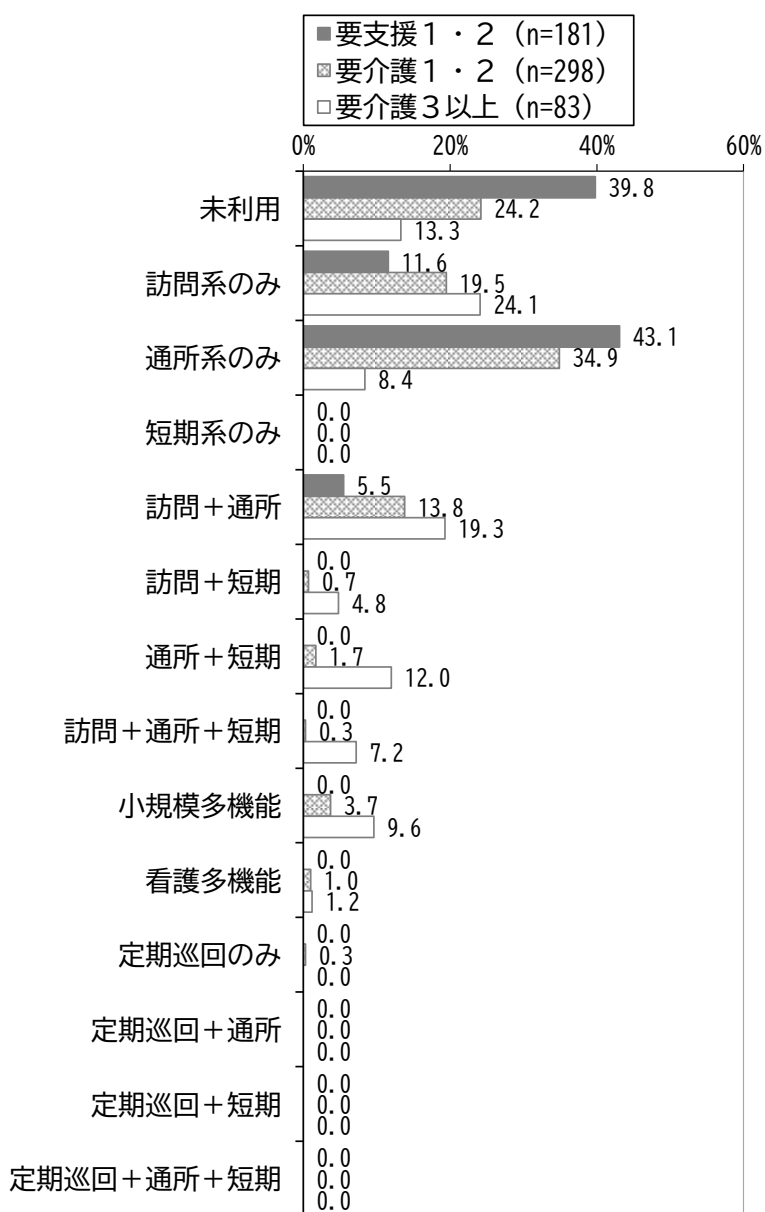
【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援 1・2」では「通所系のみ」が 43.1%と最も割合が高く、次いで「未利用」が 39.8%、「訪問系のみ」が 11.6%となっています。

「要介護 1・2」では「通所系のみ」が 34.9%と最も割合が高く、次いで「未利用」が 24.2%、「訪問系のみ」が 19.5%となっています。

「要介護 3 以上」では「訪問系のみ」が 24.1%と最も割合が高く、次いで「訪問＋通所」が 19.3%、「未利用」が 13.3%となっています。

図表 3-1-6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



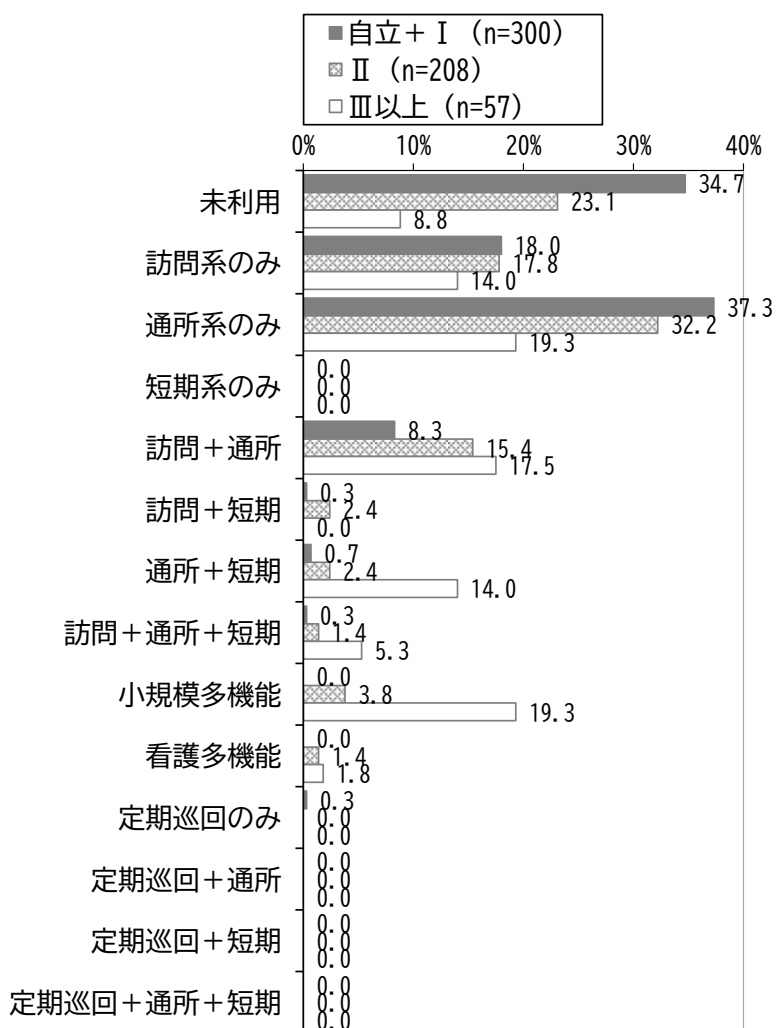
【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「通所系のみ」が37.3%と最も割合が高く、次いで「未利用」が34.7%、「訪問系のみ」が18.0%となっています。

「Ⅱ」では「通所系のみ」が32.2%と最も割合が高く、次いで「未利用」が23.1%、「訪問系のみ」が17.8%となっています。

「Ⅲ以上」では「通所系のみ」、小規模多機能が19.3%と最も割合が高く、次いで「訪問+通所」が17.5%、「訪問系のみ」、通所+短期が14.0%となっています。

図表 3-1-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



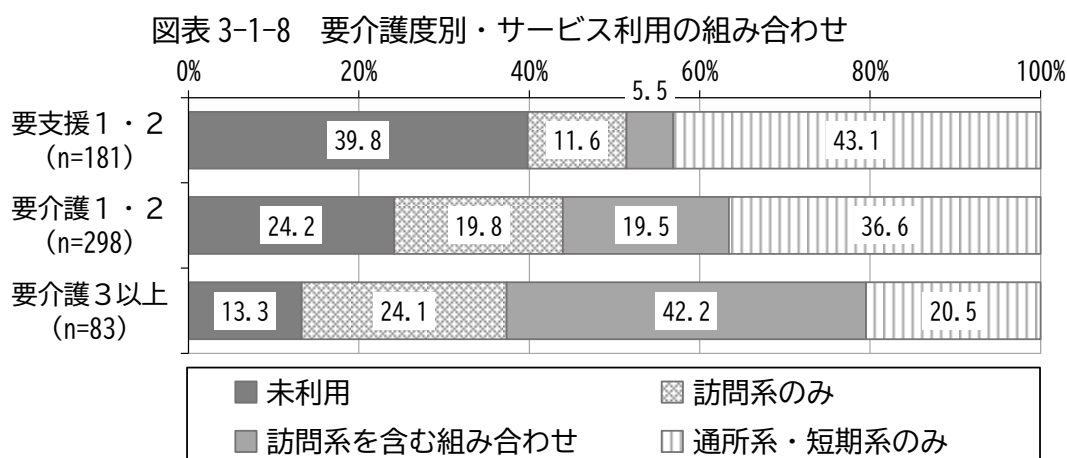
- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化した集計分析をしています。
- 具体的には、サービス利用の組み合わせを、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に分類したものです。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「通所系・短期系のみ」が43.1%と最も割合が高く、次いで「未利用」が39.8%、「訪問系のみ」が11.6%となっています。

「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が36.6%と最も割合が高く、次いで「未利用」が24.2%、「訪問系のみ」が19.8%となっています。

「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が42.2%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が24.1%、「通所系・短期系のみ」が20.5%となっています。

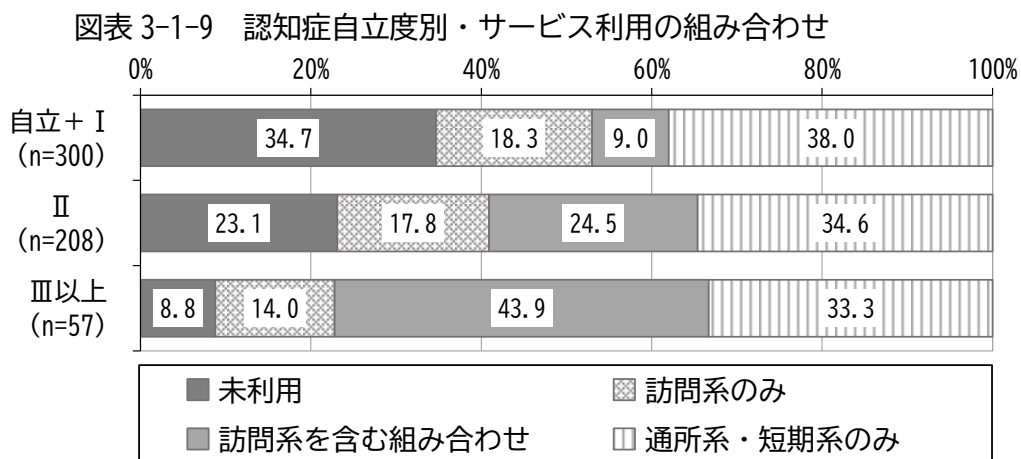


【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が38.0%と最も割合が高く、次いで「未利用」が34.7%、「訪問系のみ」が18.3%となっています。

「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が34.6%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が24.5%、「未利用」が23.1%となっています。

「Ⅲ以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が43.9%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が33.3%、「訪問系のみ」が14.0%となっています。



(4)「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係について、集計分析をしています。それぞれ、要介護3以上と要介護4以上、認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。

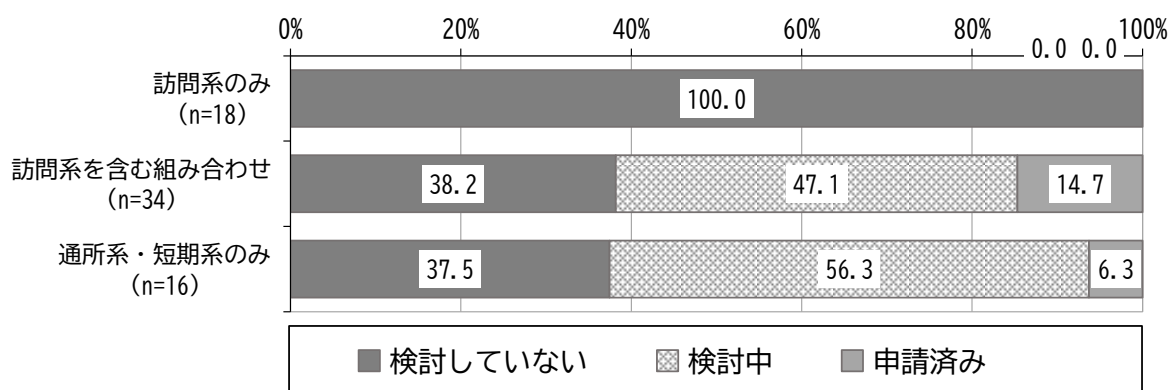
【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっています。

「訪問系を含む組み合わせ」では「検討中」が47.1%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が38.2%、「申請済み」が14.7%となっています。

「通所系・短期系のみ」では「検討中」が56.3%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が37.5%、「申請済み」が6.3%となっています。

図表 3-1-10 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）

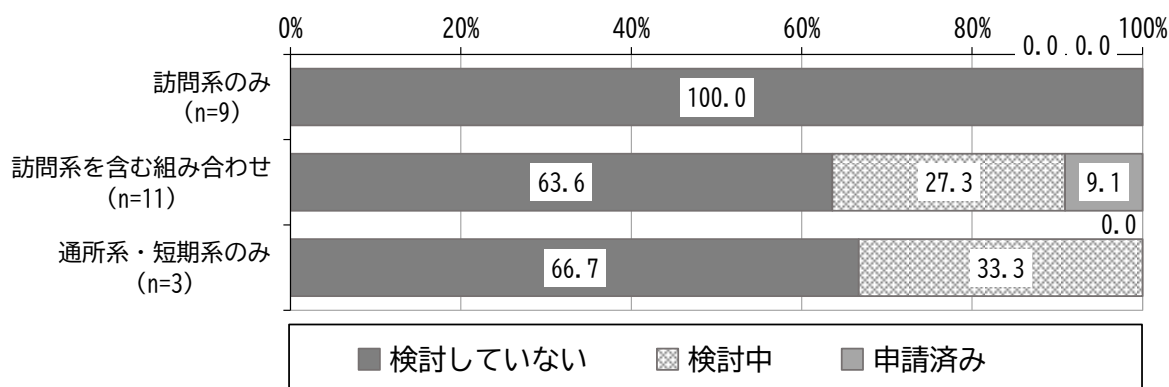


【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっています。

「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が63.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が27.3%、「申請済み」が9.1%となっています。

図表 3-1-11 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



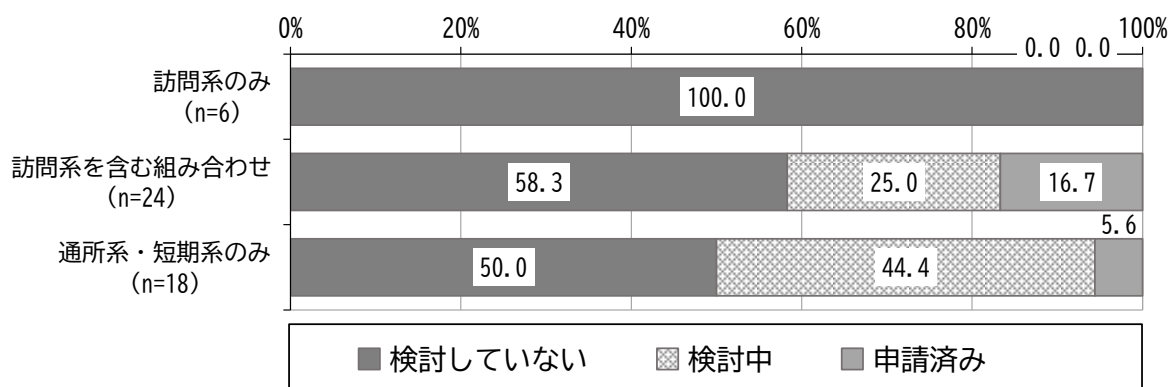
【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっています。

「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が58.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「申請済み」が16.7%となっています。

「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が44.4%、「申請済み」が5.6%となっています。

図表 3-1-12 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



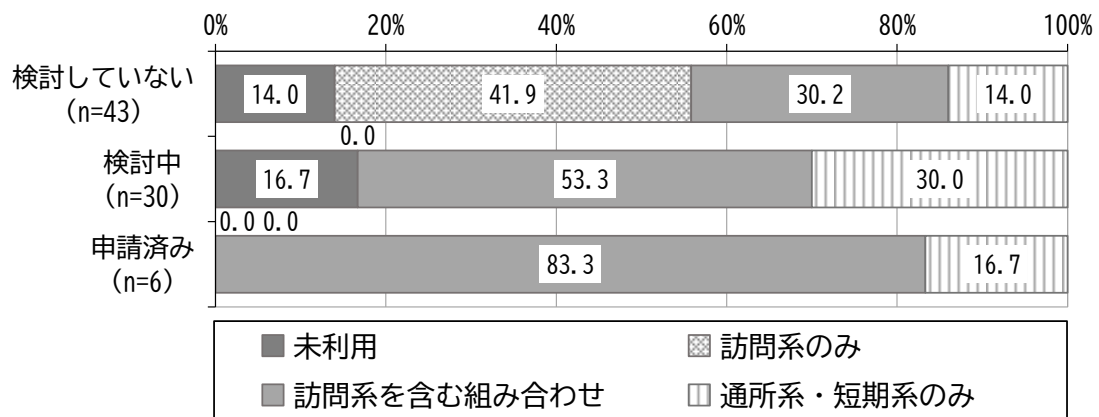
【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系のみ」が41.9%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が30.2%、「未利用」、「通所系・短期系のみ」がいずれも14.0%となっています。

「検討中」では「訪問系を含む組み合わせ」が53.3%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が30.0%、「未利用」が16.7%となっています。

「申請済み」では「訪問系を含む組み合わせ」が83.3%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が16.7%となっています。

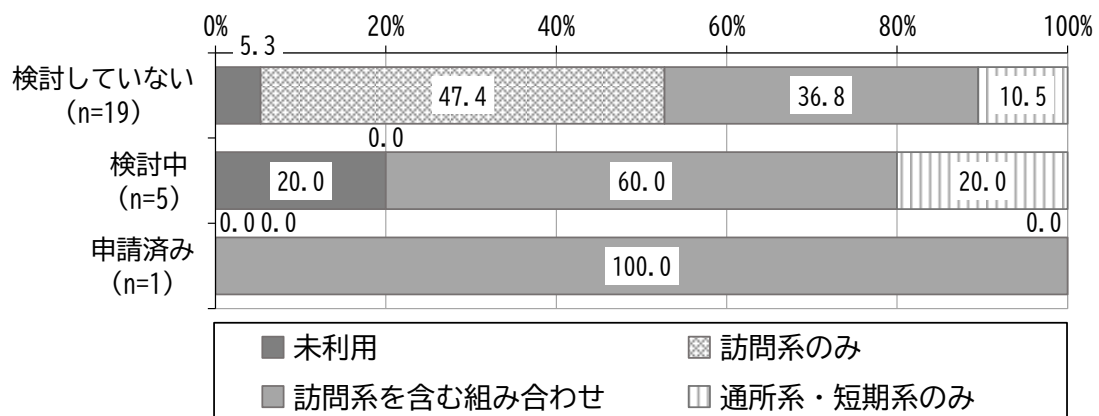
図表 3-1-13 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系のみ」が47.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が36.8%、「通所系・短期系のみ」が10.5%となっています。

図表 3-1-14 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）

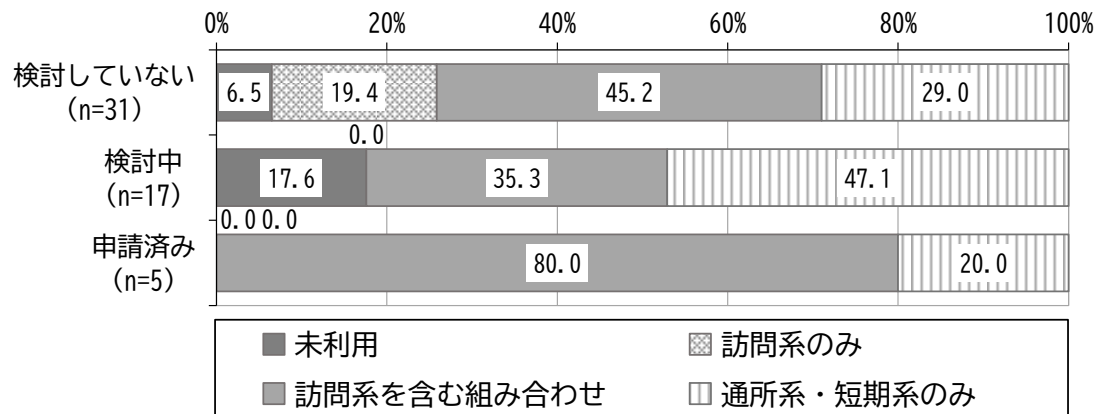


【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系を含む組み合わせ」が45.2%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が29.0%、「訪問系のみ」が19.4%となっています。

「検討中」では「通所系・短期系のみ」が47.1%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が35.3%、「未利用」が17.6%となっています。

図表 3-1-15 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



(5)「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係について、集計分析をしています。

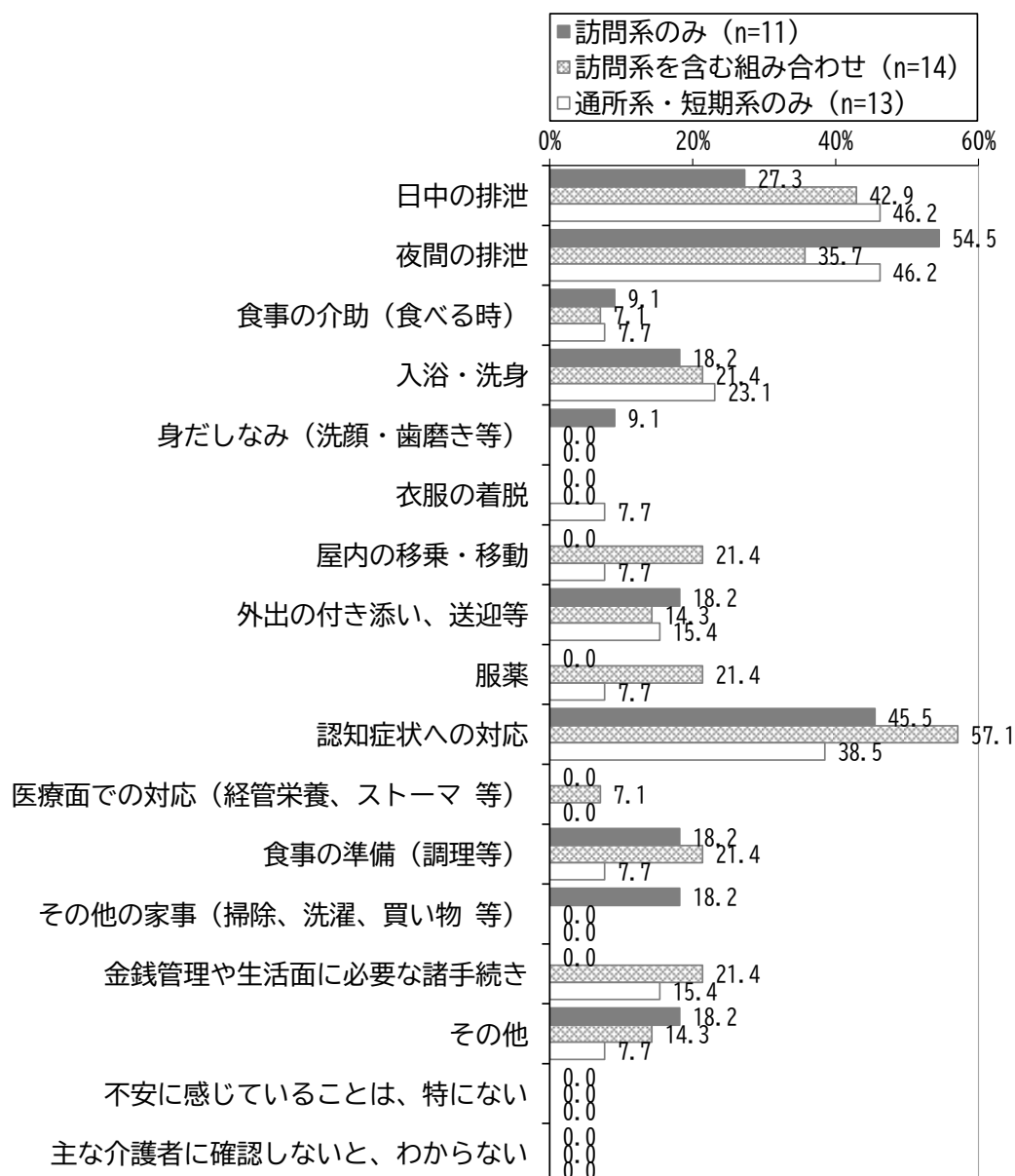
【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）】

介護者が不安に感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「夜間の排泄」が54.5%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が45.5%、「日中の排泄」が27.3%となっています。

「訪問系を含む組み合わせ」では「認知症状への対応」が57.1%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が42.9%、「夜間の排泄」が35.7%となっています。

「通所系・短期系のみ」では「日中の排泄」、「夜間の排泄」が46.2%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が38.5%、「入浴・洗身」が23.1%となっています。

図表 3-1-16 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）

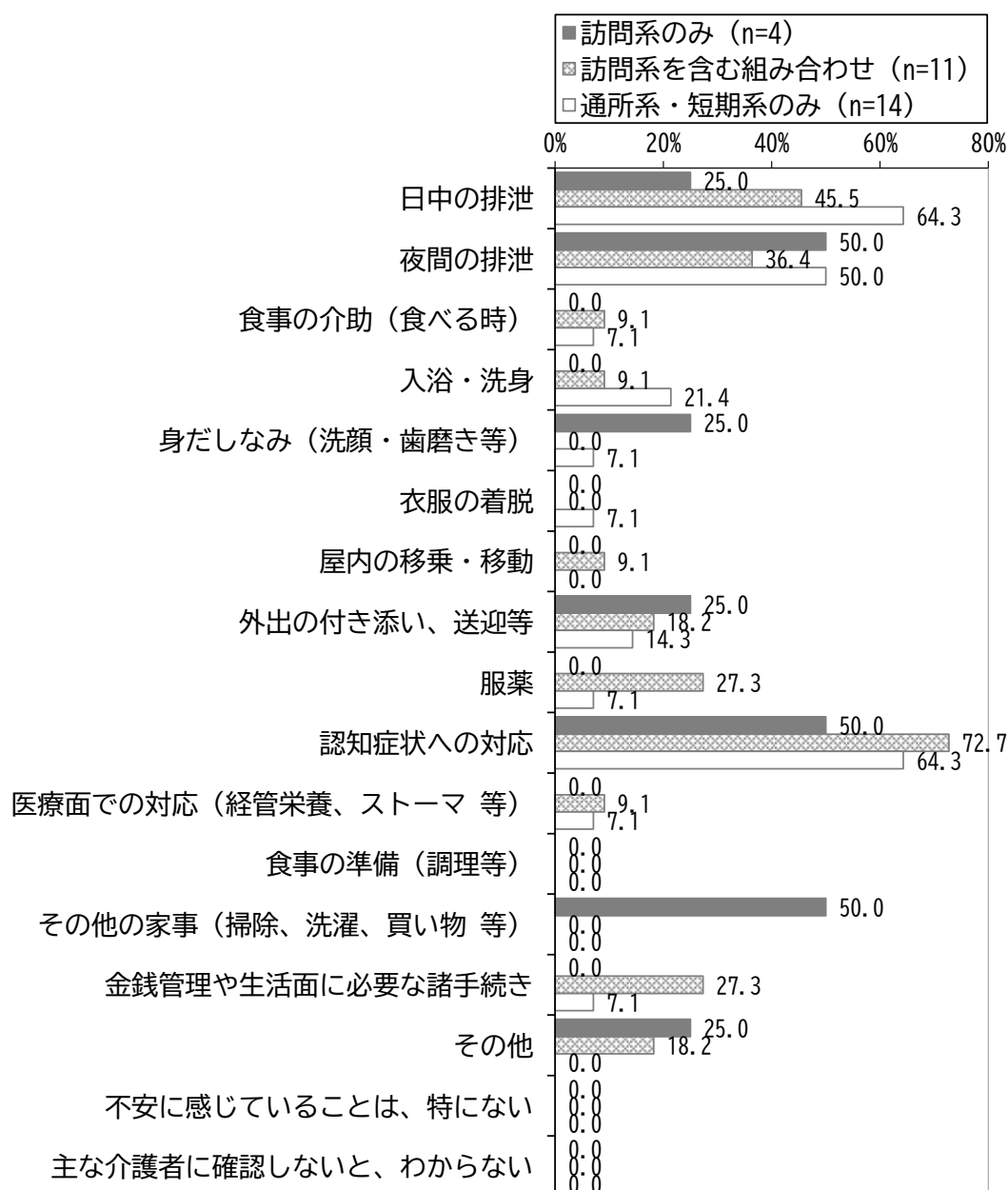


【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系を含む組み合わせ」では「認知症状への対応」が72.7%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が45.5%、「夜間の排泄」が36.4%となっています。

「通所系・短期系のみ」では「日中の排泄」、「認知症状への対応」が64.3%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が50.0%、「入浴・洗身」が21.4%となっています。

図表 3-1-17 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）



(6)「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

- ここでは「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」について、集計分析を行っています。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。

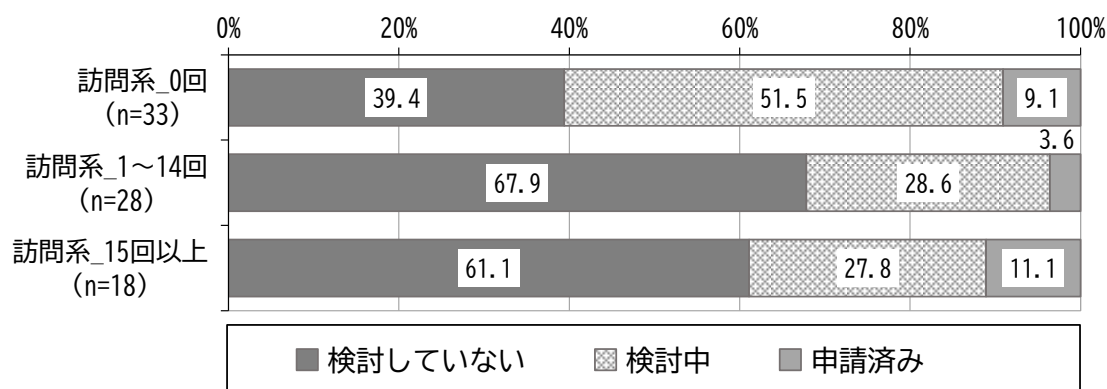
【サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「検討中」が51.5%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が39.4%、「申請済み」が9.1%となっています。

「訪問系_1～14回」では「検討していない」が67.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が28.6%、「申請済み」が3.6%となっています。

「訪問系_15回以上」では「検討していない」が61.1%と最も割合が高く、次いで「検討中」が27.8%、「申請済み」が11.1%となっています。

図表 3-1-18 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）



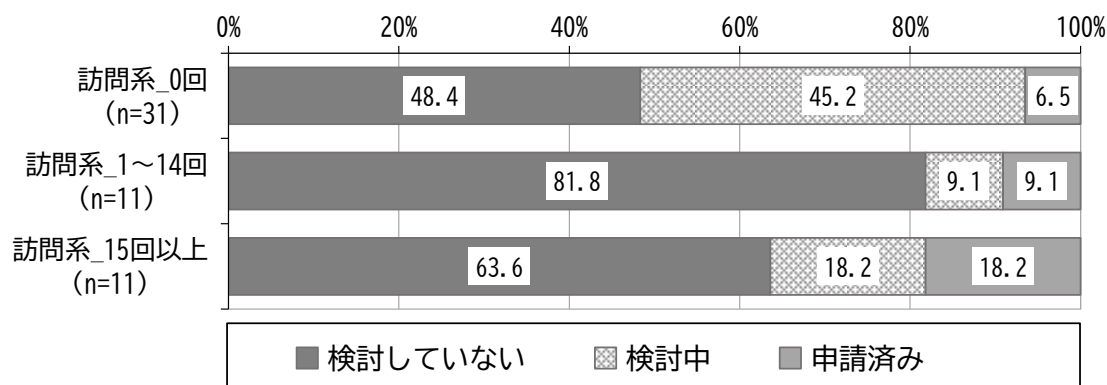
【サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「検討していない」が48.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が45.2%、「申請済み」が6.5%となっています。

「訪問系_1～14回」では「検討していない」が81.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が9.1%となっています。

「訪問系_15回以上」では「検討していない」が63.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」がいずれも18.2%となっています。

図表 3-1-19 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）



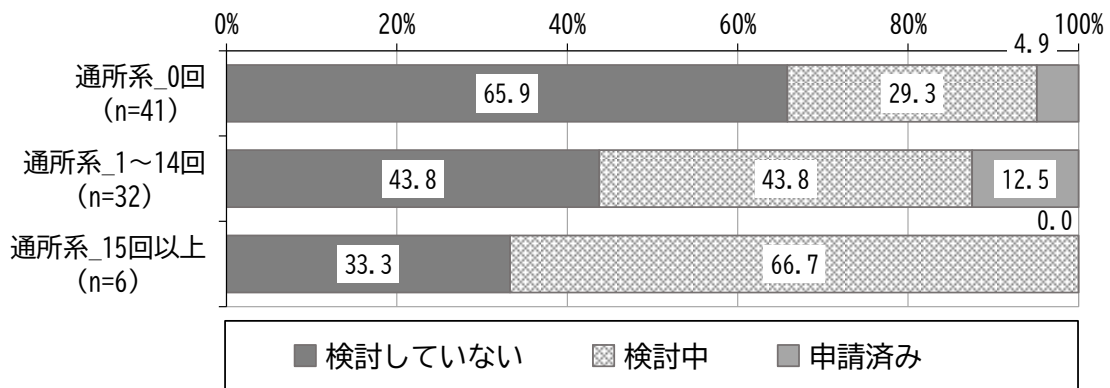
【サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「検討していない」が65.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が29.3%、「申請済み」が4.9%となっています。

「通所系_1～14回」では「検討していない」、「検討中」がいずれも43.8%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が12.5%となっています。

「通所系_15回以上」では「検討中」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が33.3%となっています。

図表 3-1-20 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）



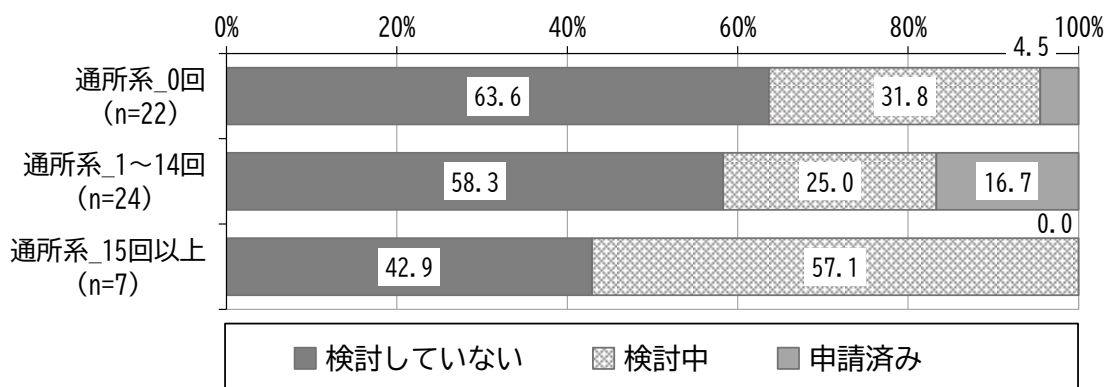
【サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「検討していない」が63.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が31.8%、「申請済み」が4.5%となっています。

「通所系_1～14回」では「検討していない」が58.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「申請済み」が16.7%となっています。

「通所系_15回以上」では「検討中」が57.1%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が42.9%となっています。

図表 3-1-21 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）

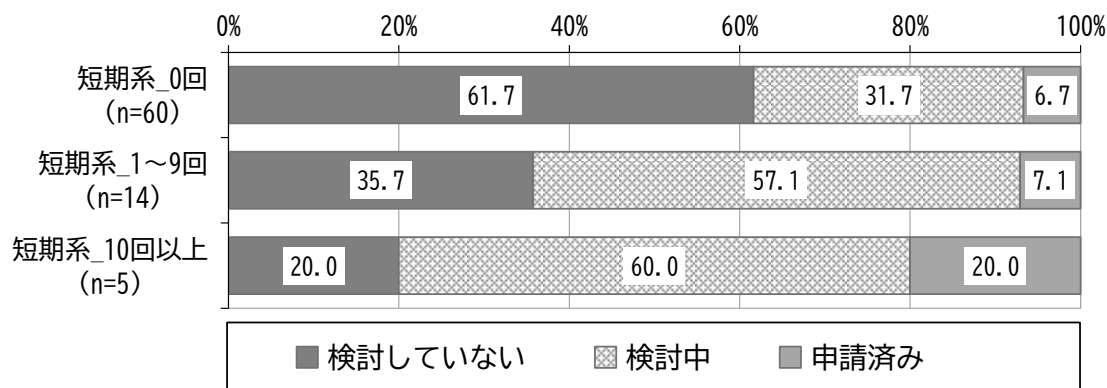


【サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「検討していない」が61.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が31.7%、「申請済み」が6.7%となっています。

「短期系_1～9回」では「検討中」が57.1%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が35.7%、「申請済み」が7.1%となっています。

図表 3-1-22 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）

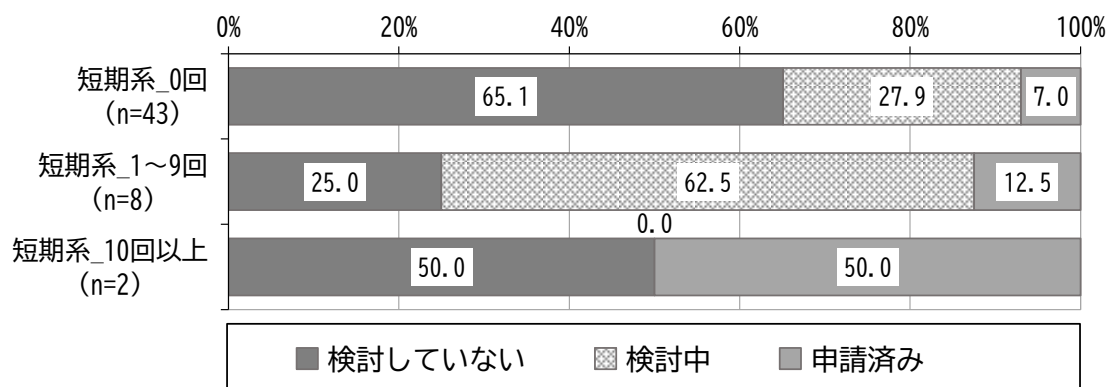


【サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「検討していない」が65.1%と最も割合が高く、次いで「検討中」が27.9%、「申請済み」が7.0%となっています。

「短期系_1～9回」では「検討中」が62.5%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が25.0%、「申請済み」が12.5%となっています。

図表 3-1-23 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）



(7)「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

○ ここでは「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、集計分析を行っています。

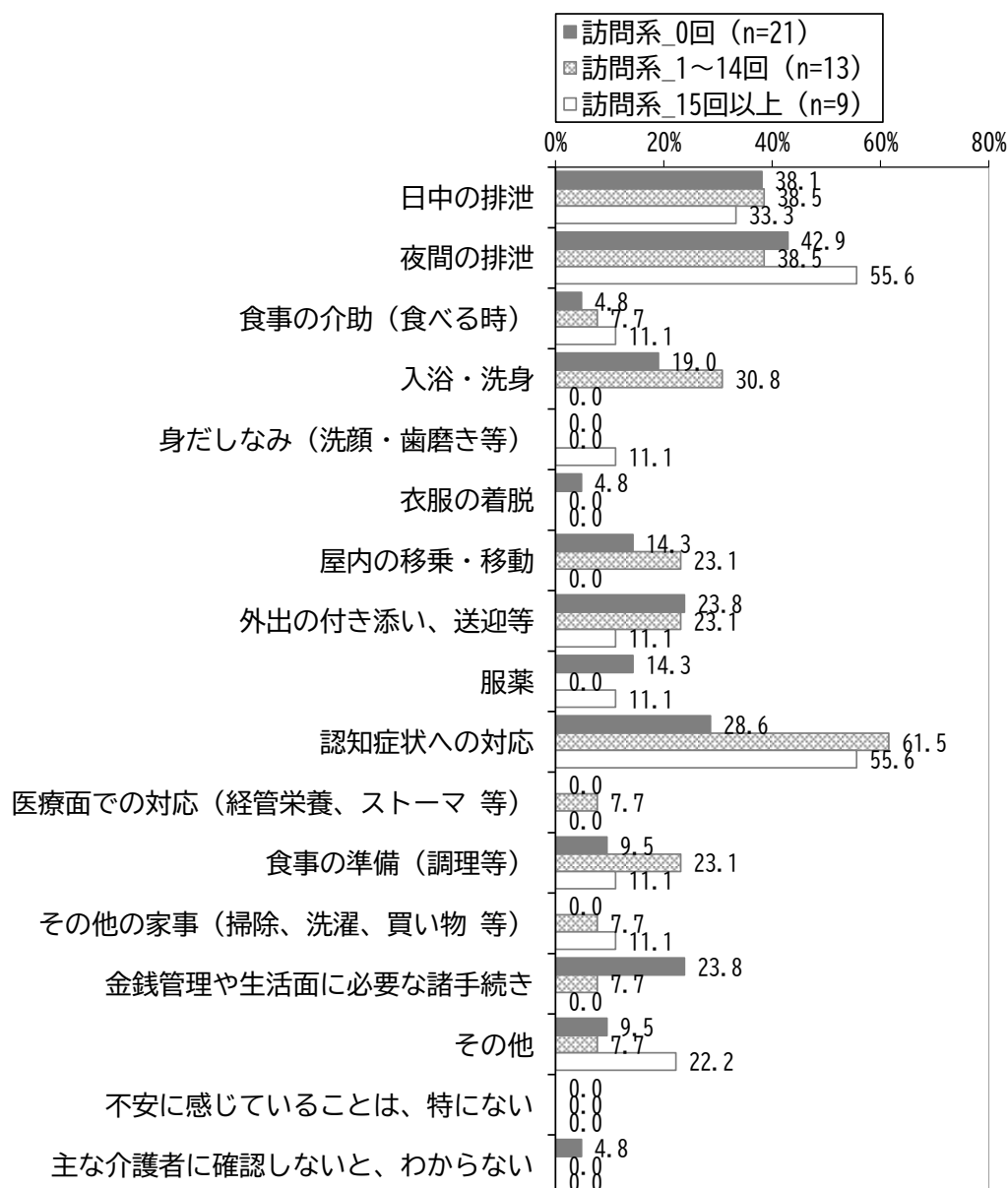
【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）】

介護者が不安に感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「夜間の排泄」が42.9%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が38.1%、「認知症状への対応」が28.6%となっています。

「訪問系_1～14回」では「認知症状への対応」が61.5%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」が38.5%、「入浴・洗身」が30.8%となっています。

「訪問系_15回以上」では「夜間の排泄」、「認知症状への対応」がいずれも55.6%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が33.3%となっています。

図表 3-1-24 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）

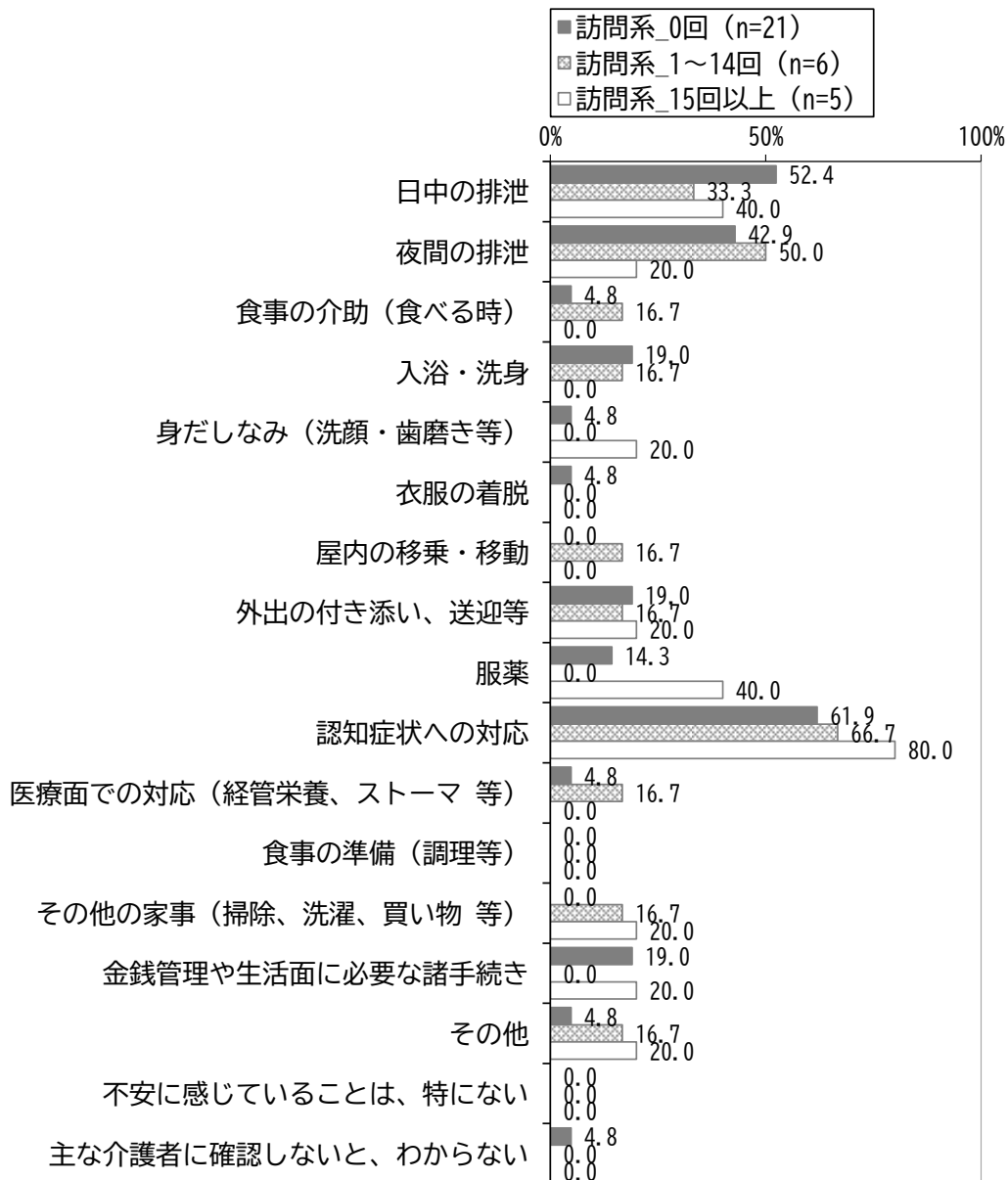


【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「認知症状への対応」が61.9%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が52.4%、「夜間の排泄」が42.9%となっています。

「訪問系_1～14回」では「認知症状への対応」が66.7%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が50.0%、「日中の排泄」が33.3%となっています。

図表 3-1-25 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）

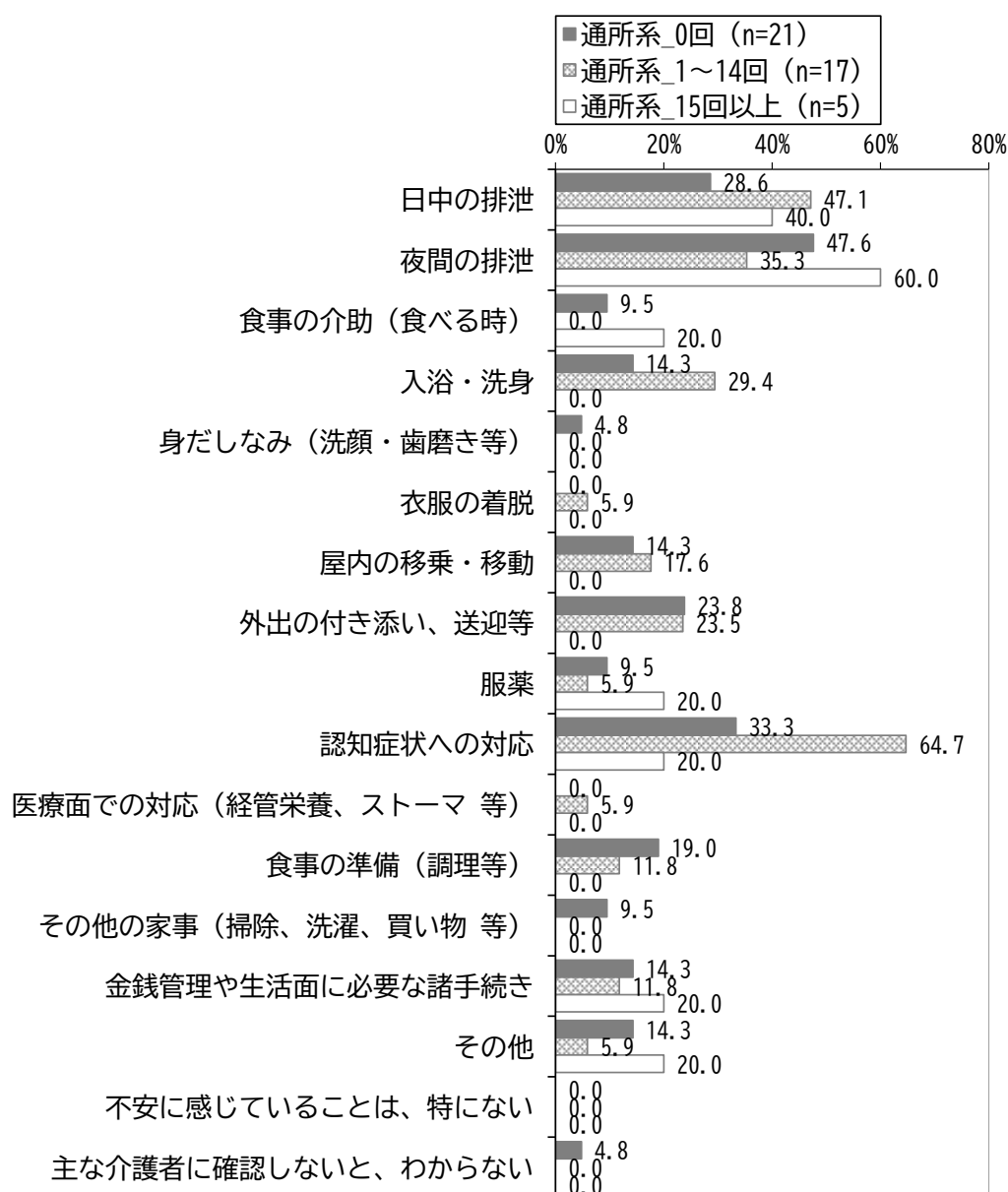


【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「夜間の排泄」が47.6%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が33.3%、「日中の排泄」が28.6%となっています。

「通所系_1～14回」では「認知症状への対応」が64.7%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が47.1%、「夜間の排泄」が35.3%となっています。

図表 3-1-26 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）



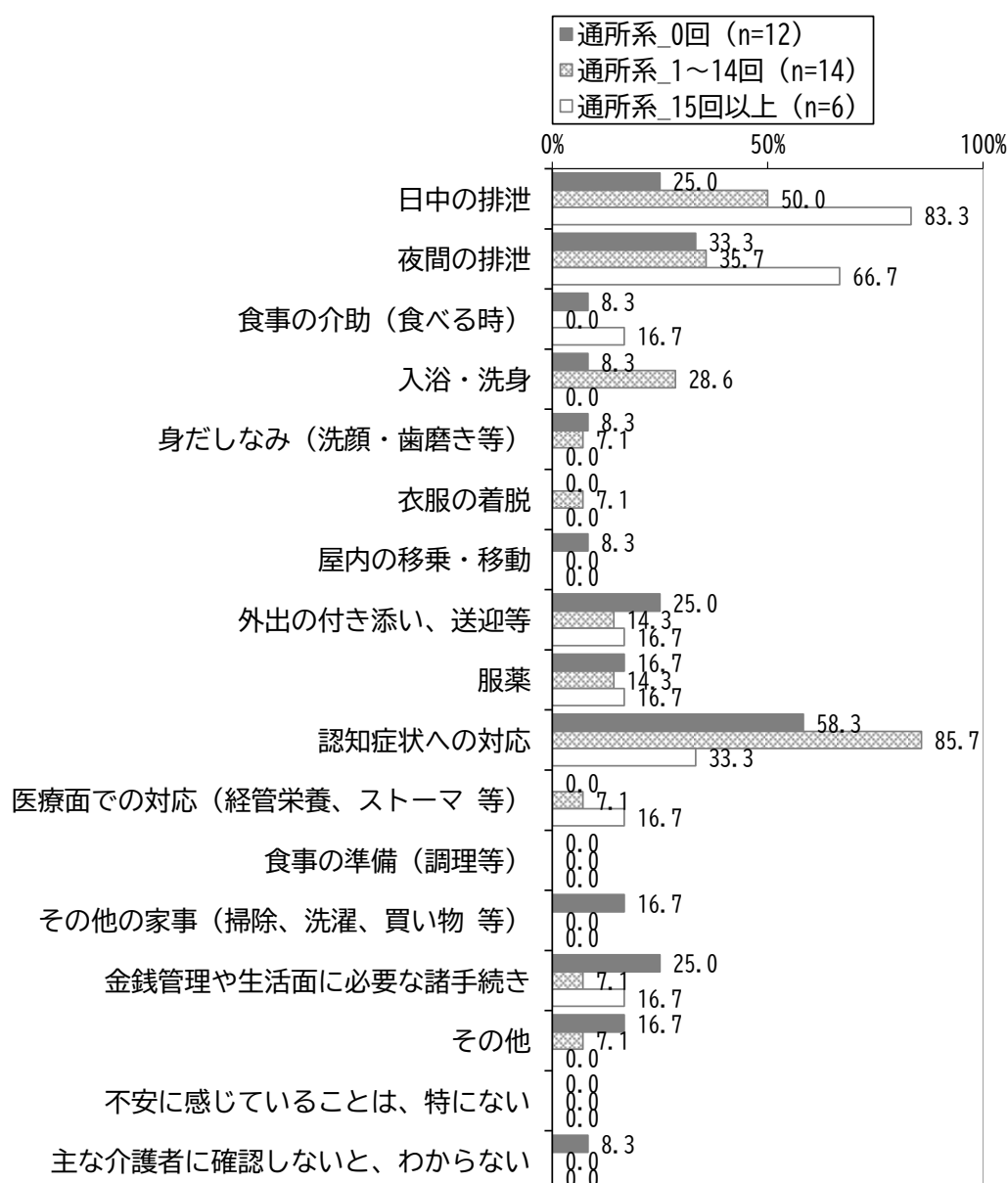
【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「認知症状への対応」が58.3%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が33.3%、「日中の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」がいずれも25.0%となっています。

「通所系_1～14回」では「認知症状への対応」が85.7%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が50.0%、「夜間の排泄」が35.7%となっています。

「通所系_15回以上」では「日中の排泄」が83.3%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が66.7%、「認知症状への対応」が33.3%となっています。

図表 3-1-27 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）

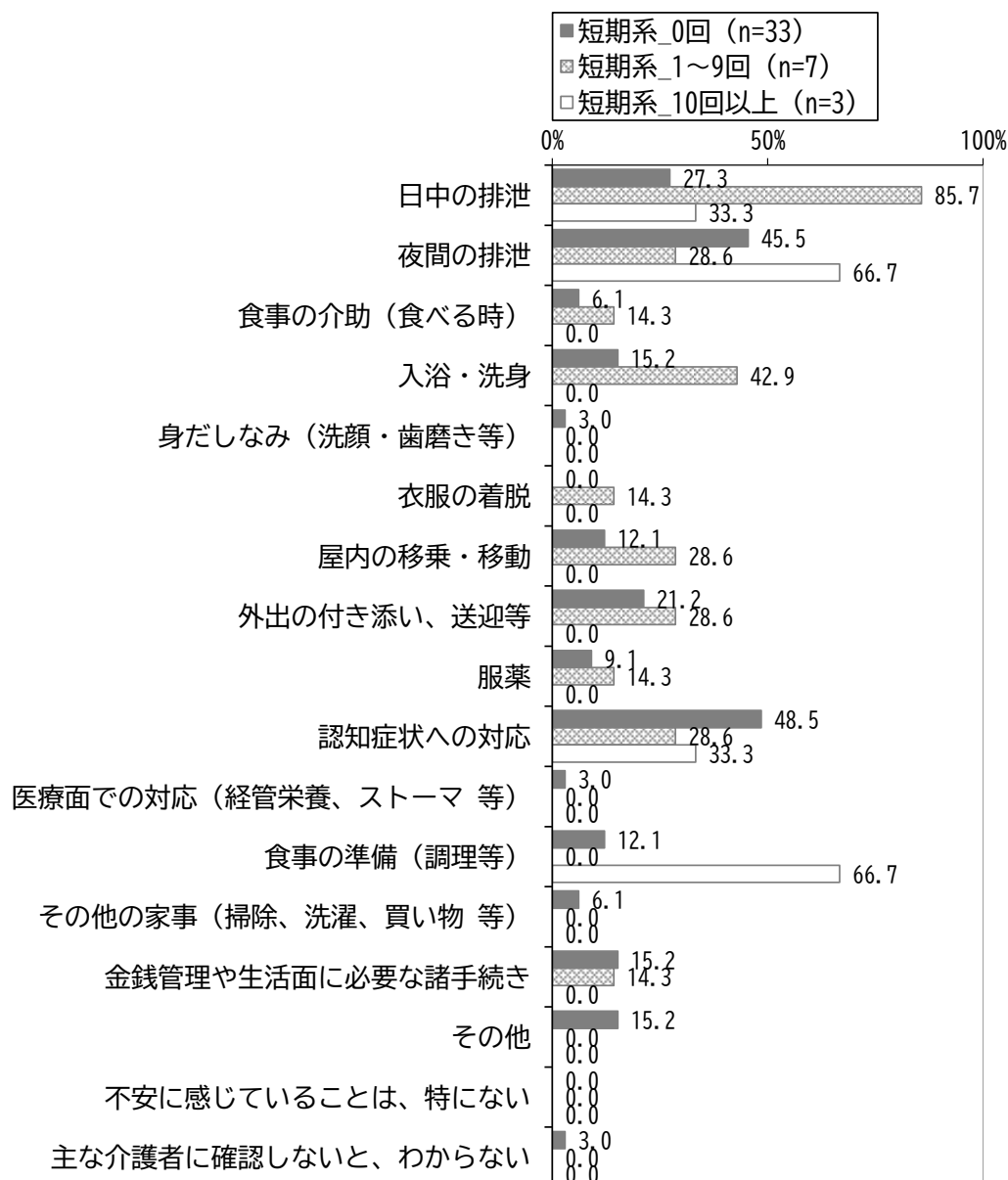


【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「認知症状への対応」が48.5%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が45.5%、「日中の排泄」が27.3%となっています。

「短期系_1～9回」では「日中の排泄」が85.7%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が42.9%、「夜間の排泄」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」がいずれも28.6%となっています。

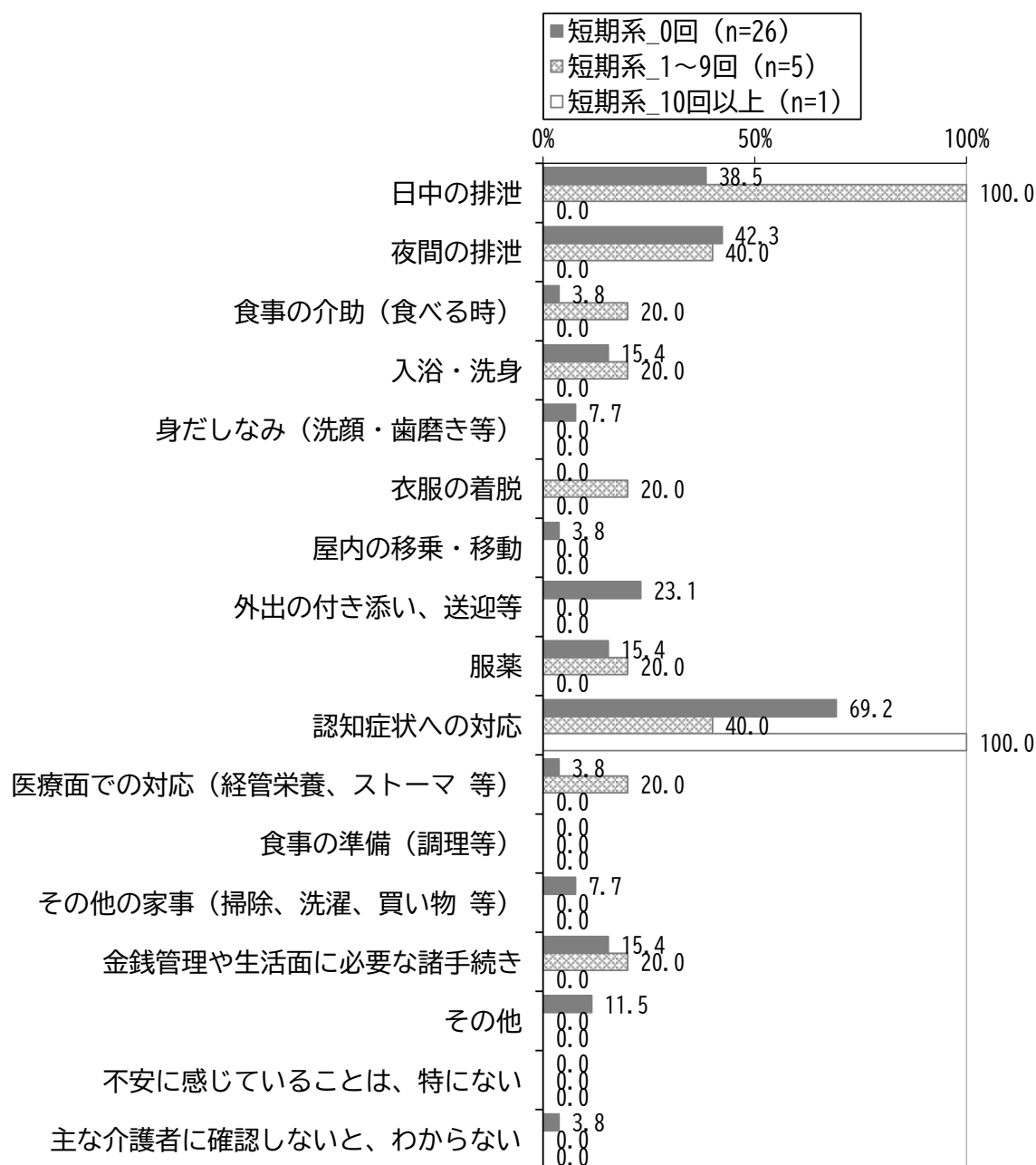
図表 3-1-28 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護3以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「認知症状への対応」が69.2%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」が42.3%、「日中の排泄」が38.5%となっています。

図表 3-1-29 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）



2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

2.1 集計・分析の狙い

- ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行っています。
- 具体的には、「就労している介護者（フルタイム勤務、パートタイム勤務）」と「就労していない介護者」の違いに着目し、就労している介護者の属性や介護状況の特徴別に、必要な支援を集計・分析しています。
- さらに、「どのようなサービス利用」や「働き方の調整・職場の支援」を受けている場合に、「就労を継続することができる」という見込みを持つことができるのかを分析するために、主な介護者の「就労継続見込み」と、「主な介護者が行っている介護」や「介護保険サービスの利用の有無」、「介護のための働き方の調整」などとのクロス集計を行っています。
- 上記の視点からの分析では、要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度といった要介護者の状態別の分析も加え、要介護者の自立度が重くなっても、在宅生活や就労を継続できる支援のあり方を検討しています。

2.2 集計結果

(1)基本集計

- 主な介護者の就労状況（フルタイム勤務・パートタイム勤務・働いていない）別に、世帯や介護者の特徴などの基礎的な集計を行っています。

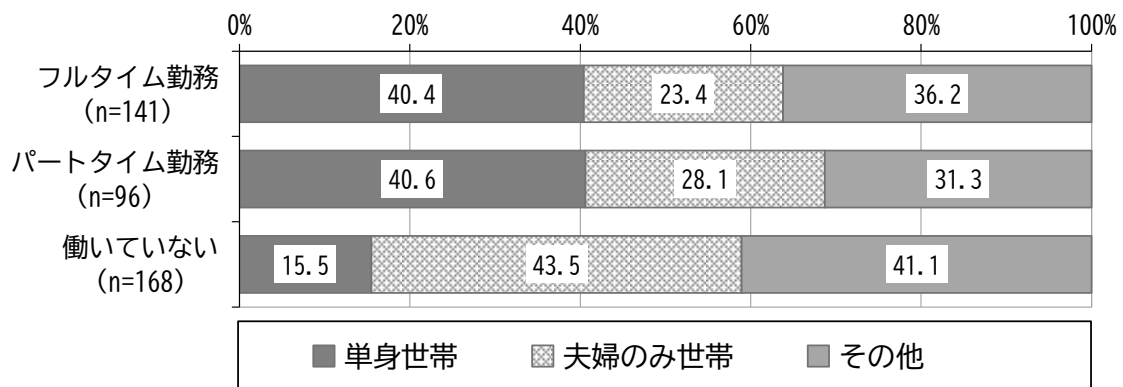
【就労状況別・世帯類型】

世帯類型を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「単身世帯」が40.4%と最も割合が高く、次いで「その他」が36.2%、「夫婦のみ世帯」が23.4%となっています。

「パートタイム勤務」では「単身世帯」が40.6%と最も割合が高く、次いで「その他」が31.3%、「夫婦のみ世帯」が28.1%となっています。

「働いていない」では「夫婦のみ世帯」が43.5%と最も割合が高く、次いで「その他」が41.1%、「単身世帯」が15.5%となっています。

図表 3-2-1 就労状況別・世帯類型



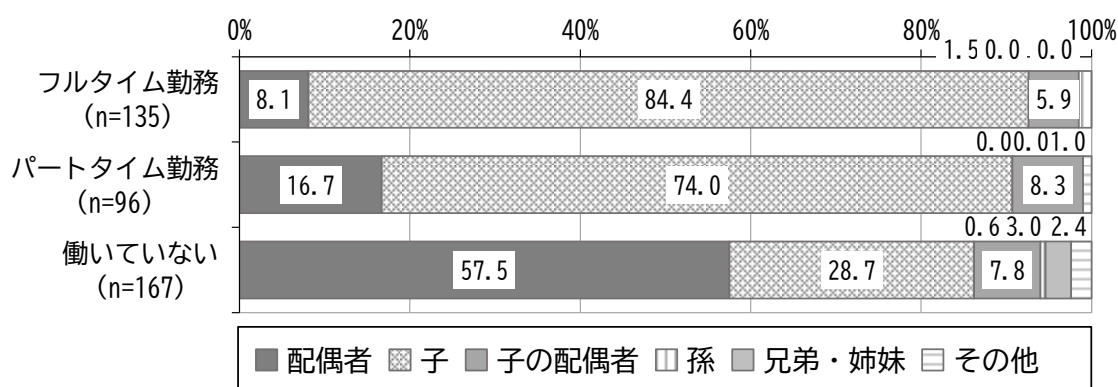
【就労状況別・主な介護者の本人との関係】

主な介護者を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「子」が84.4%と最も割合が高く、次いで「配偶者」が8.1%、「子の配偶者」が5.9%となっています。

「パートタイム勤務」では「子」が74.0%と最も割合が高く、次いで「配偶者」が16.7%、「子の配偶者」が8.3%となっています。

「働いていない」では「配偶者」が57.5%と最も割合が高く、次いで「子」が28.7%、「子の配偶者」が7.8%となっています。

図表 3-2-2 就労状況別・主な介護者の本人との関係



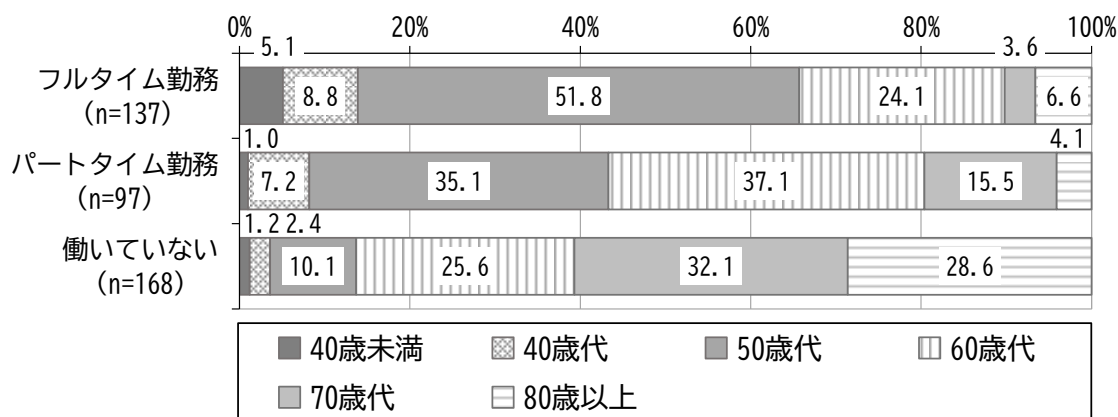
【就労状況別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「50 歳代」が51.8%と最も割合が高く、次いで「60 歳代」が24.1%、「40 歳代」が8.8%となっています。

「パートタイム勤務」では「60 歳代」が37.1%と最も割合が高く、次いで「50 歳代」が35.1%、「70 歳代」が15.5%となっています。

「働いていない」では「70 歳代」が32.1%と最も割合が高く、次いで「80 歳以上」が28.6%、「60 歳代」が25.6%となっています。

図表 3-2-3 就労状況別・主な介護者の年齢



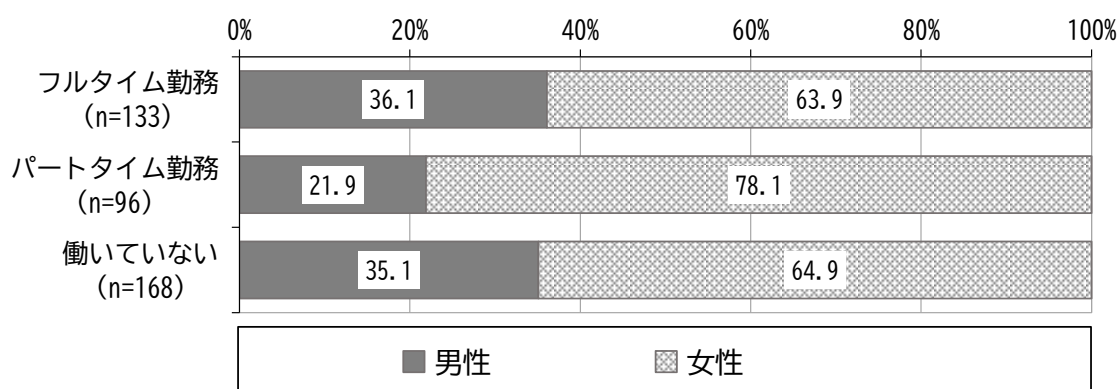
【就労状況別・主な介護者の性別】

介護者の性別を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「女性」が63.9%と最も割合が高く、次いで「男性」が36.1%となっています。

「パートタイム勤務」では「女性」が78.1%と最も割合が高く、次いで「男性」が21.9%となっています。

「働いていない」では「女性」が64.9%と最も割合が高く、次いで「男性」が35.1%となっています。

図表 3-2-4 就労状況別・主な介護者の性別



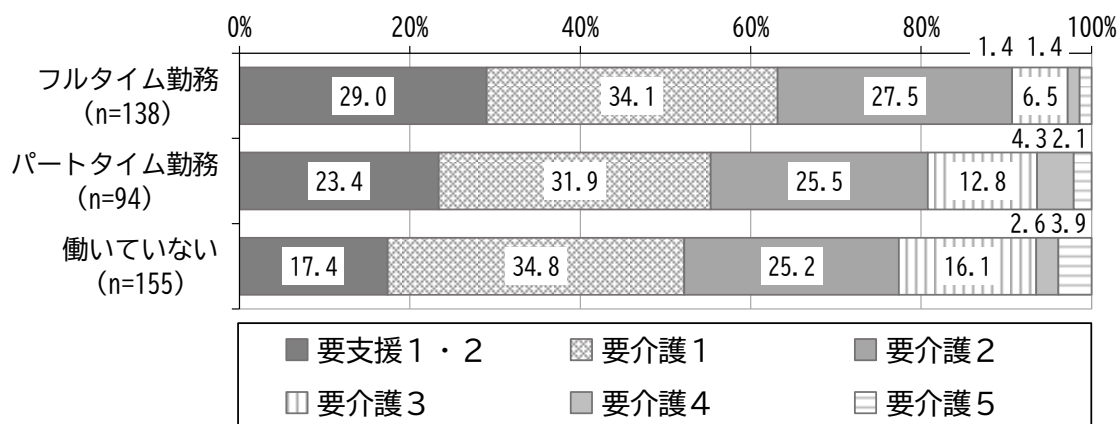
【就労状況別・要介護度】

二次判定結果を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「要介護1」が34.1%と最も割合が高く、次いで「要支援1・2」が29.0%、「要介護2」が27.5%となっています。

「パートタイム勤務」では「要介護1」が31.9%と最も割合が高く、次いで「要介護2」が25.5%、「要支援1・2」が23.4%となっています。

「働いていない」では「要介護1」が34.8%と最も割合が高く、次いで「要介護2」が25.2%、「要支援1・2」が17.4%となっています。

図表 3-2-5 就労状況別・要介護度

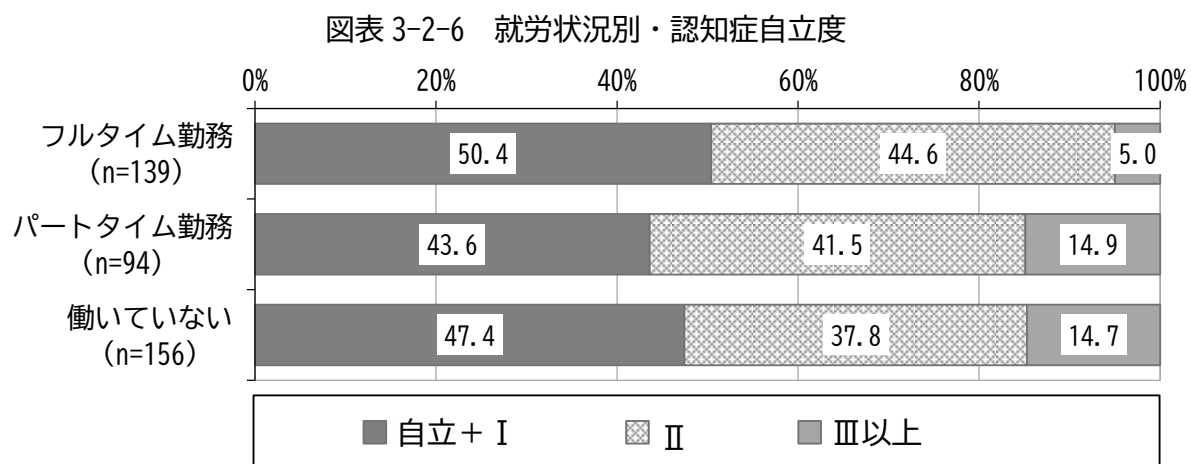


【就労状況別・認知症自立度】

認知症高齢者自立度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「自立+Ⅰ」が50.4%と最も割合が高く、次いで「Ⅱ」が44.6%、「Ⅲ以上」が5.0%となっています。

「パートタイム勤務」では「自立+Ⅰ」が43.6%と最も割合が高く、次いで「Ⅱ」が41.5%、「Ⅲ以上」が14.9%となっています。

「働いていない」では「自立+Ⅰ」が47.4%と最も割合が高く、次いで「Ⅱ」が37.8%、「Ⅲ以上」が14.7%となっています。



(2)就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

○ ここでは、「主な介護者が行っている介護」と「今後の就労継続見込み」について、主な介護者の就労状況別に集計分析をしています。

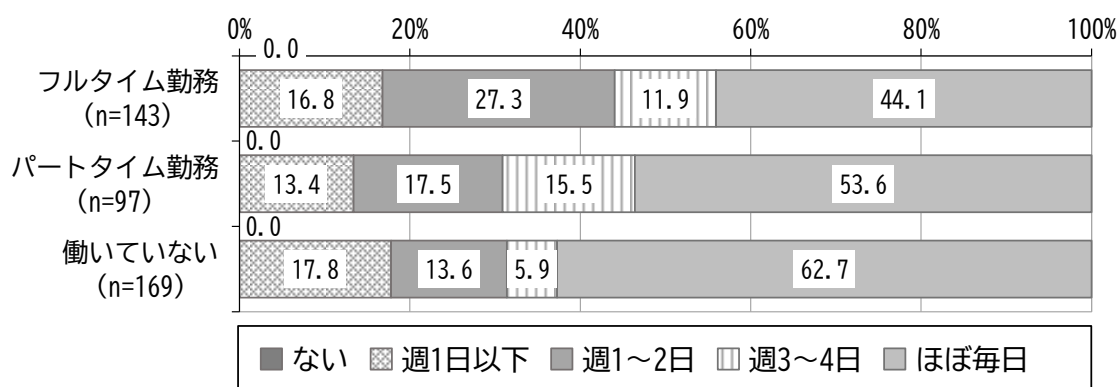
【就労状況別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「ほぼ毎日」が44.1%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が27.3%、「週1日以下」が16.8%となっています。

「パートタイム勤務」では「ほぼ毎日」が53.6%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が17.5%、「週3～4日」が15.5%となっています。

「働いていない」では「ほぼ毎日」が62.7%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」が17.8%、「週1～2日」が13.6%となっています。

図表 3-2-7 就労状況別・家族等による介護の頻度



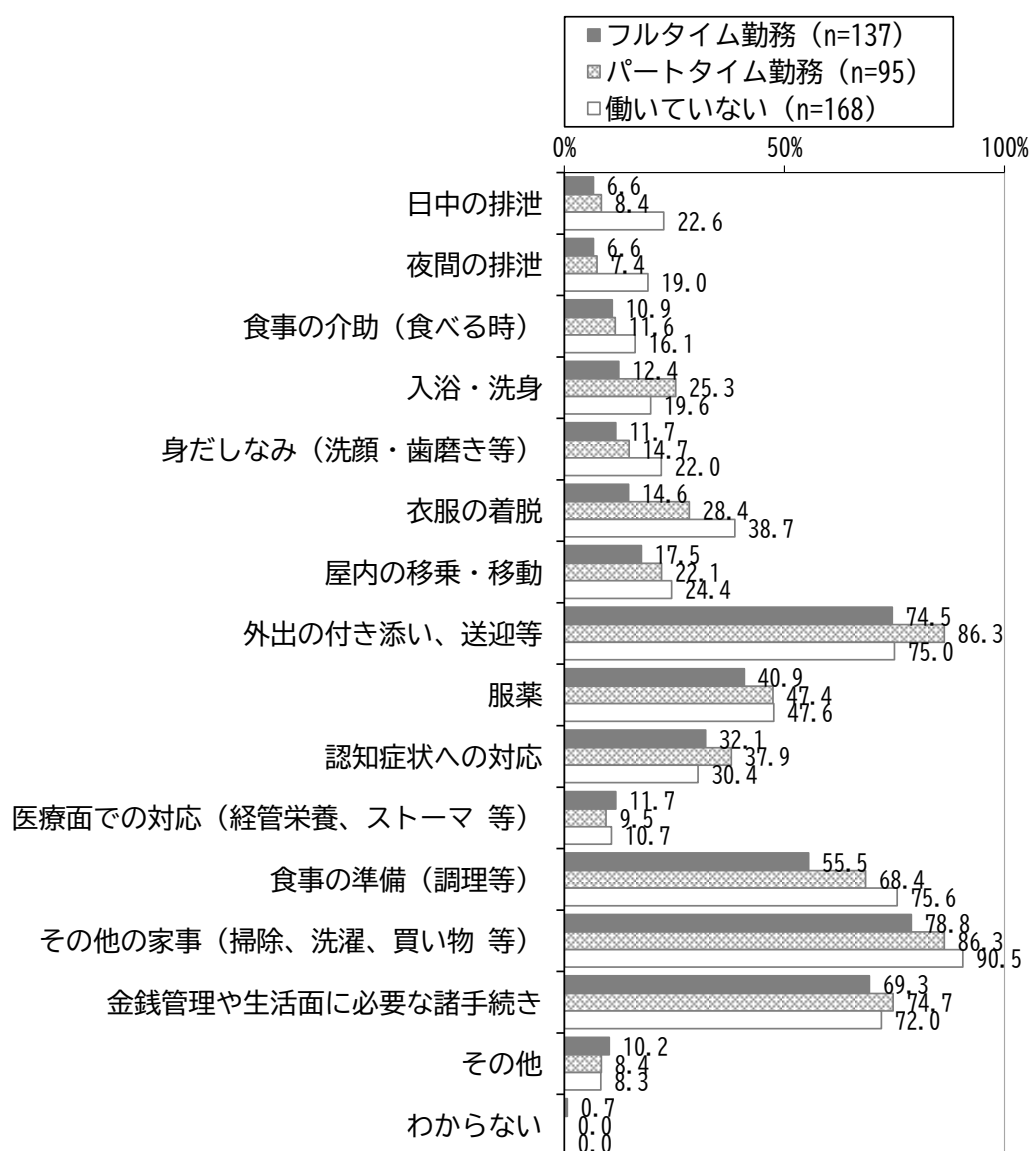
【就労状況別・主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が78.8%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が74.5%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が69.3%となっています。

「パートタイム勤務」では「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」がいずれも86.3%と最も割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が74.7%となっています。

「働いていない」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が90.5%と最も割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が75.6%、「外出の付き添い、送迎等」が75.0%となっています。

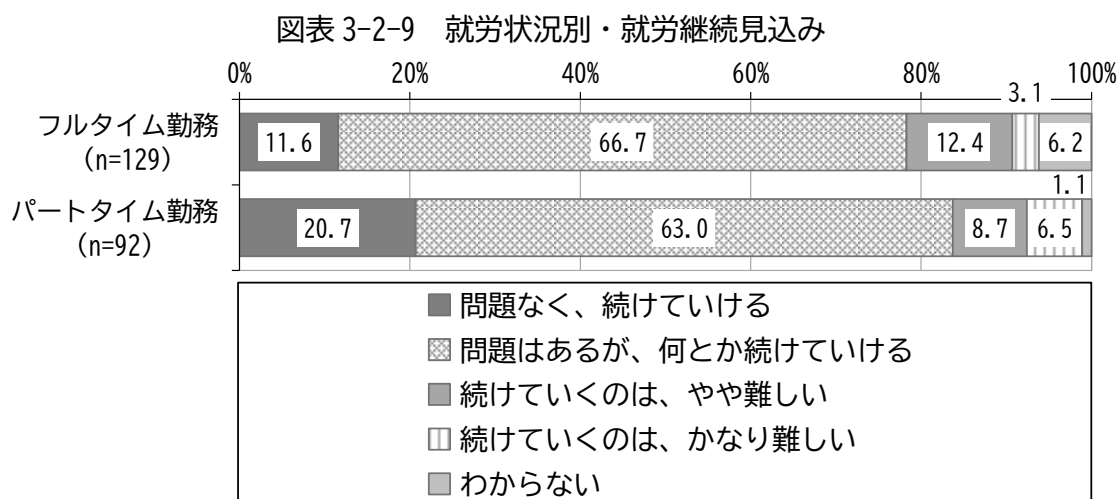
図表 3-2-8 就労状況別・主な介護者が行っている介護



【就労状況別・就労継続見込み】

介護者の就労継続の可否に係る意識を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が66.7%と最も割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が12.4%、「問題なく、続けていける」が11.6%となっています。

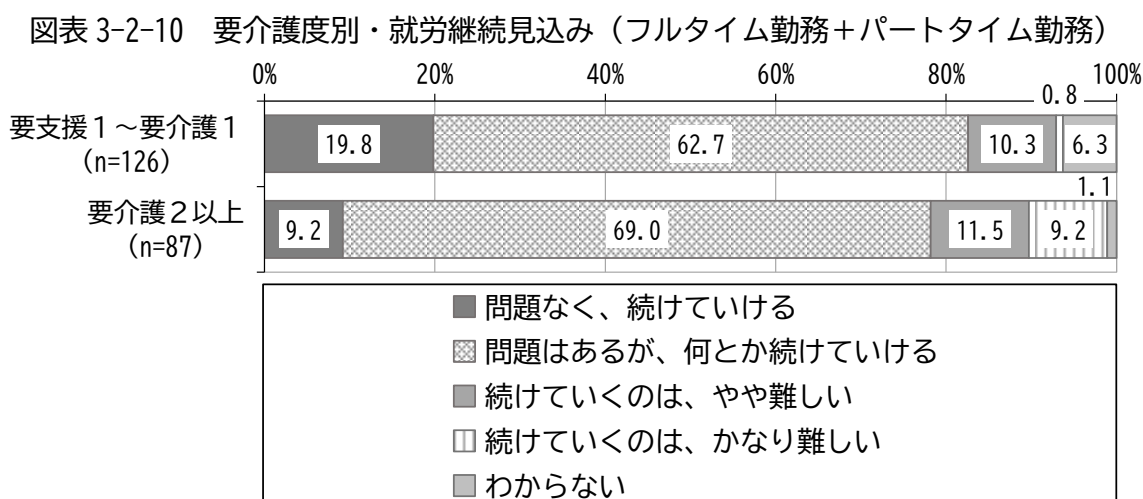
「パートタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が63.0%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が20.7%、「続けていくのは、やや難しい」が8.7%となっています。



【要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を二次判定結果別にみると、「要支援1～要介護1」では「問題はあるが、何とか続けていける」が62.7%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が19.8%、「続けていくのは、やや難しい」が10.3%となっています。

「要介護2以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が69.0%と最も割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が11.5%、「問題なく、続けていける」、「続けていくのは、かなり難しい」がいずれも9.2%となっています。

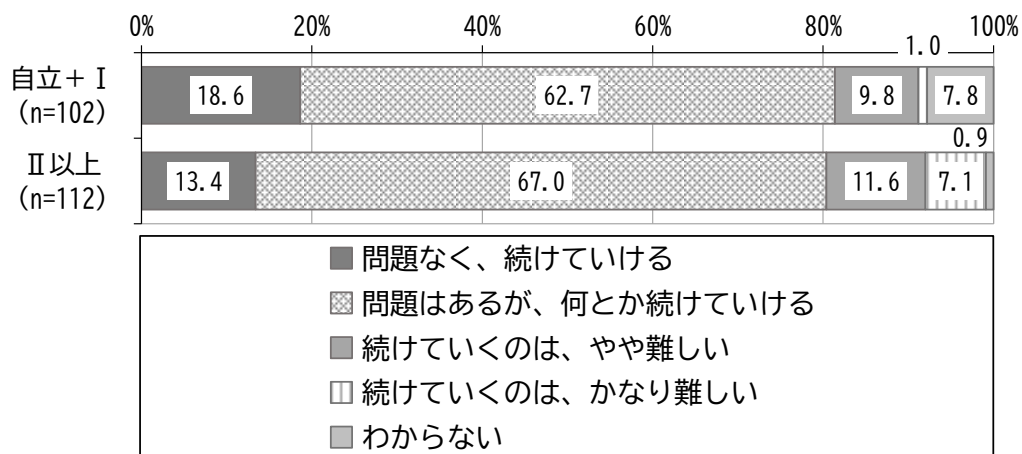


【認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「問題はあるが、何とか続けていける」が62.7%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が18.6%、「続けていくのは、やや難しい」が9.8%となっています。

「Ⅱ以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が67.0%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が13.4%、「続けていくのは、やや難しい」が11.6%となっています。

図表 3-2-11 認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



(3)「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

- ここでは、「介護保険サービスの利用状況」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています。

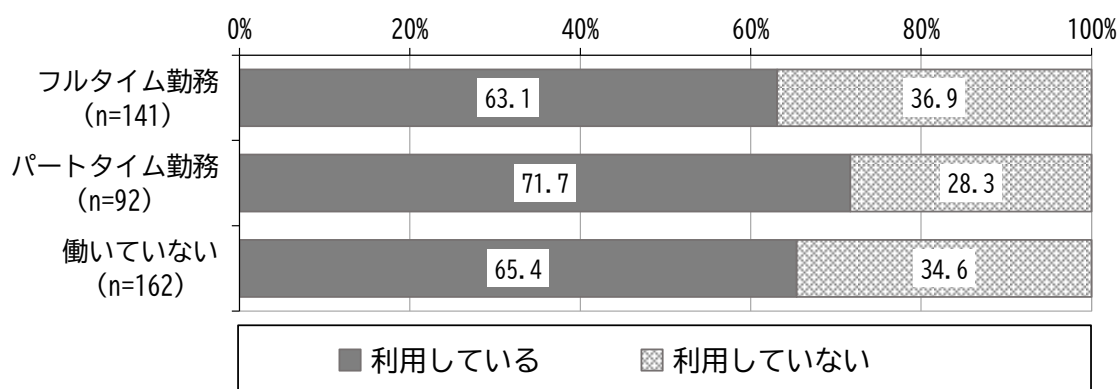
【就労状況別・介護保険サービス利用の有無】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用している」が63.1%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が36.9%となっています。

「パートタイム勤務」では「利用している」が71.7%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が28.3%となっています。

「働いていない」では「利用している」が65.4%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が34.6%となっています。

図表 3-2-12 就労状況別・介護保険サービス利用の有無



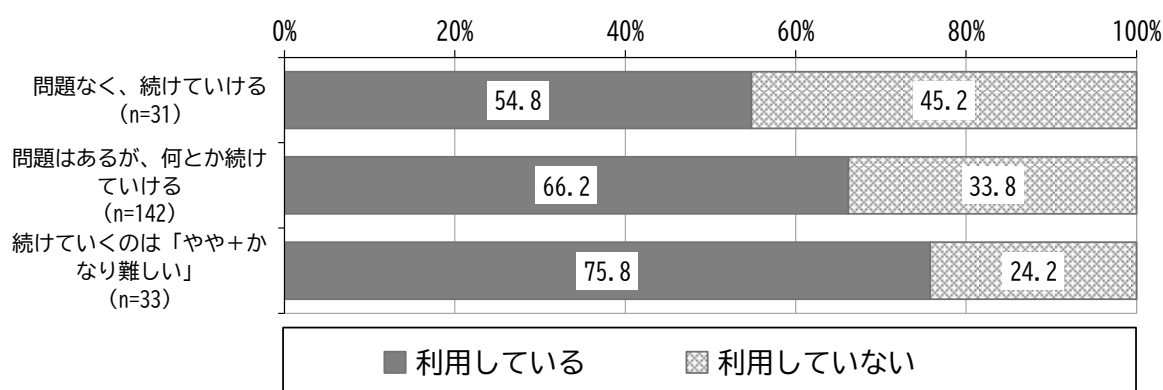
【就労継続見込み別・介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「利用している」が 54.8%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が 45.2%となっています。

「問題はあるが、何とか続けていける」では「利用している」が 66.2%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が 33.8%となっています。

「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「利用している」が 75.8%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が 24.2%となっています。

図表 3-2-13 就労継続見込み別・介護保険サービス利用の有無
（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



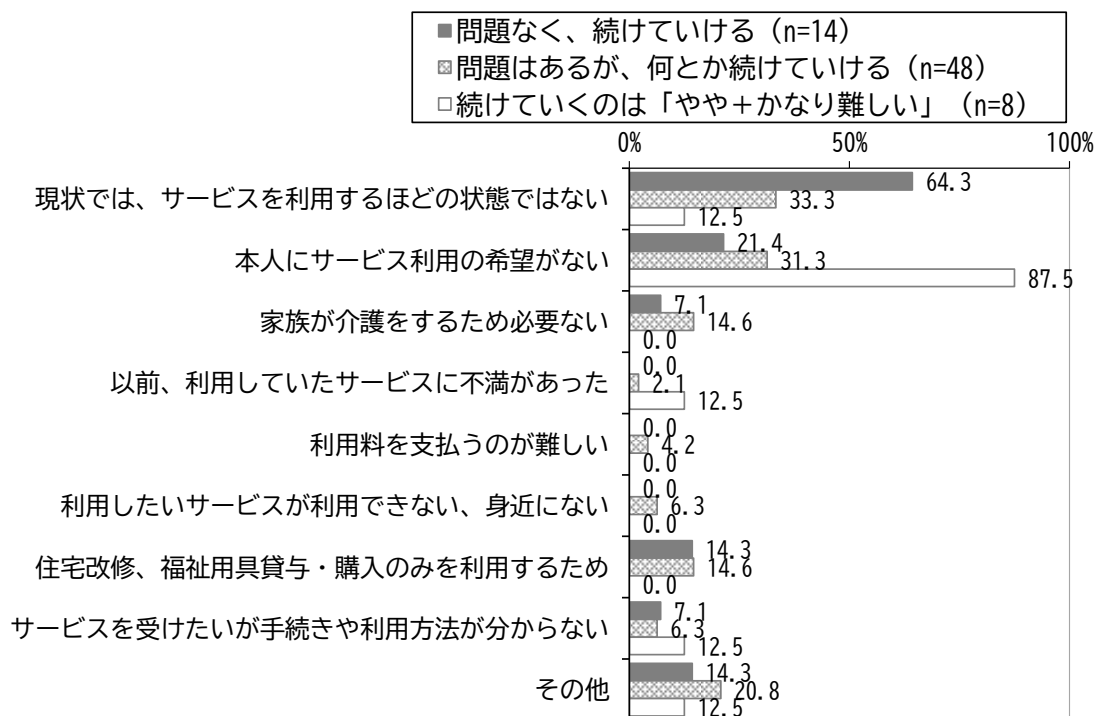
【就労継続見込み別・サービス未利用の理由（フルタイム勤務＋パート勤務）】

未利用の理由を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が64.3%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が21.4%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「その他」が14.3%となっています。

「問題はあるが、何とか続けていける」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が33.3%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が31.3%、「その他」が20.8%となっています。

「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「本人にサービス利用の希望がない」が87.5%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「以前、利用していたサービスに不満があった」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」、「その他」が12.5%となっています。

図表 3-2-14 就労継続見込み別・サービス未利用の理由（フルタイム勤務＋パート勤務）



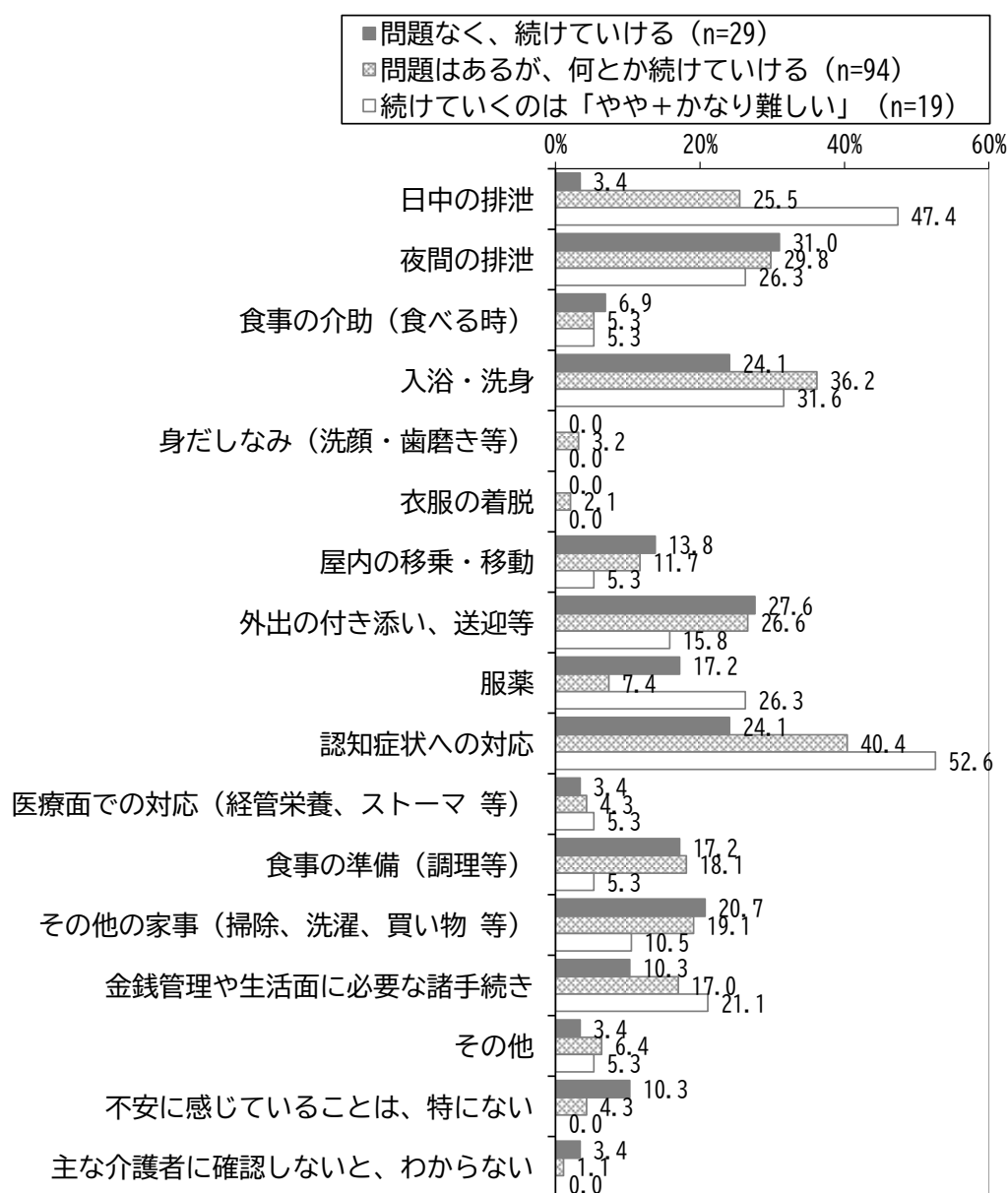
【就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者が不安に感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「夜間の排泄」が31.0%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が27.6%、「入浴・洗身」、「認知症状への対応」が24.1%となっています。

「問題はあるが、何とか続けていける」では「認知症状への対応」が40.4%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が36.2%、「夜間の排泄」が29.8%となっています。

「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「認知症状への対応」が52.6%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が47.4%、「入浴・洗身」が31.6%となっています。

図表 3-2-15 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護
(フルタイム勤務＋パートタイム勤務)



(4)「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

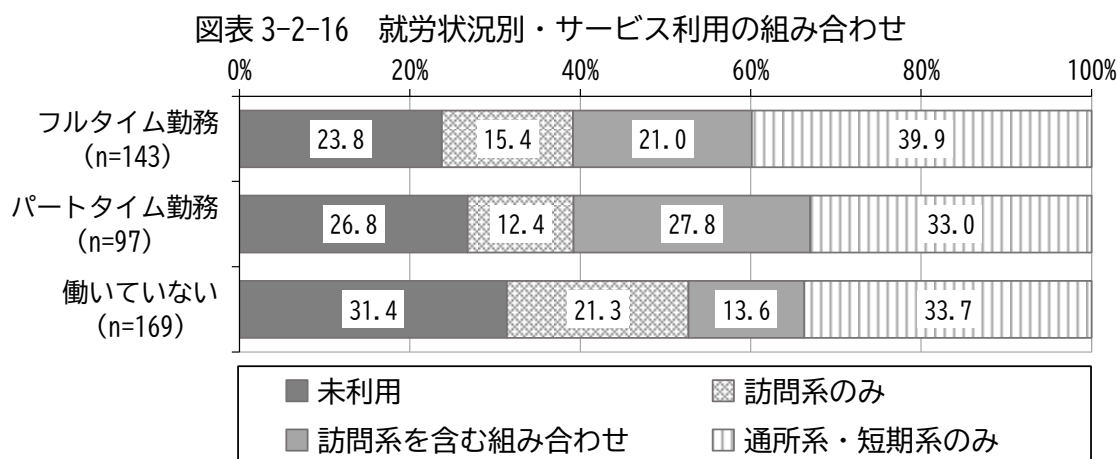
- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化し、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています。さらに、訪問系サービスについては、要介護2以上、認知症自立度Ⅱ以上に分けて集計分析を行っています。

【就労状況別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が39.9%と最も割合が高く、次いで「未利用」が23.8%、「訪問系を含む組み合わせ」が21.0%となっています。

「パートタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が33.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が27.8%、「未利用」が26.8%となっています。

「働いていない」では「通所系・短期系のみ」が33.7%と最も割合が高く、次いで「未利用」が31.4%、「訪問系のみ」が21.3%となっています。

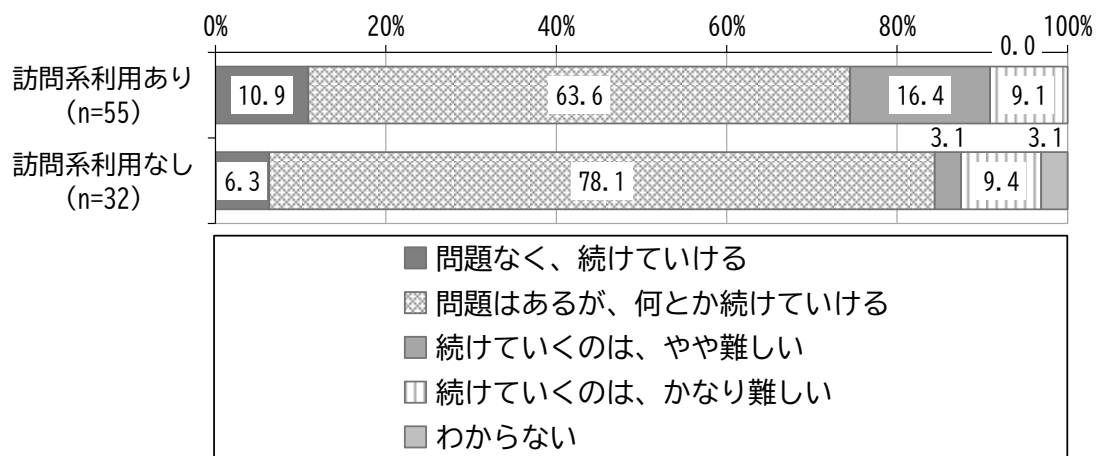


【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が63.6%と最も割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が16.4%、「問題なく、続けていける」が10.9%となっています。

「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が78.1%と最も割合が高く、次いで「続けていくのは、かなり難しい」が9.4%、「問題なく、続けていける」が6.3%となっています。

図表 3-2-17 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み
(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)



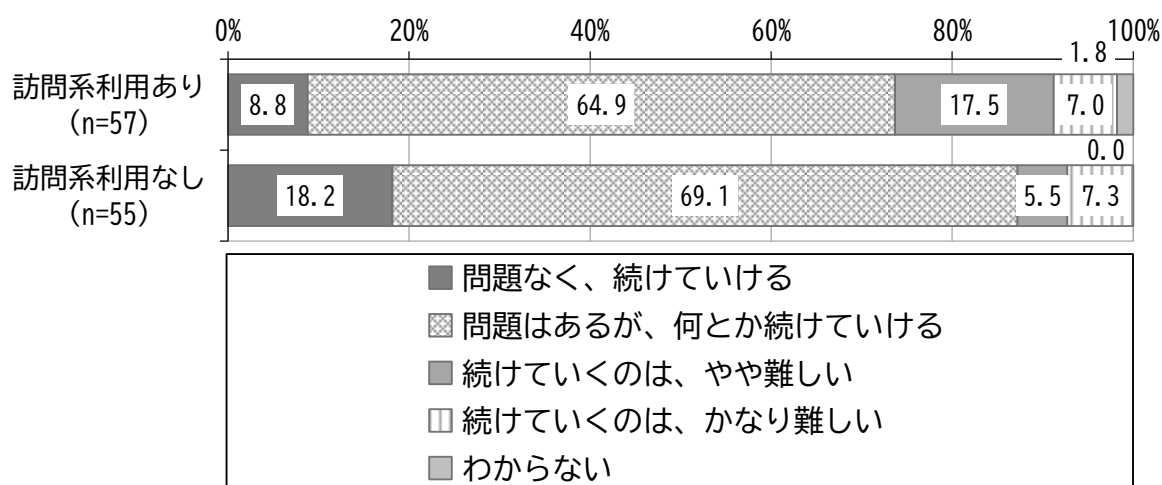
【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み

（認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が64.9%と最も割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が17.5%、「問題なく、続けていける」が8.8%となっています。

「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が69.1%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が18.2%、「続けていくのは、かなり難しい」が7.3%となっています。

図表 3-2-18 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み
（認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



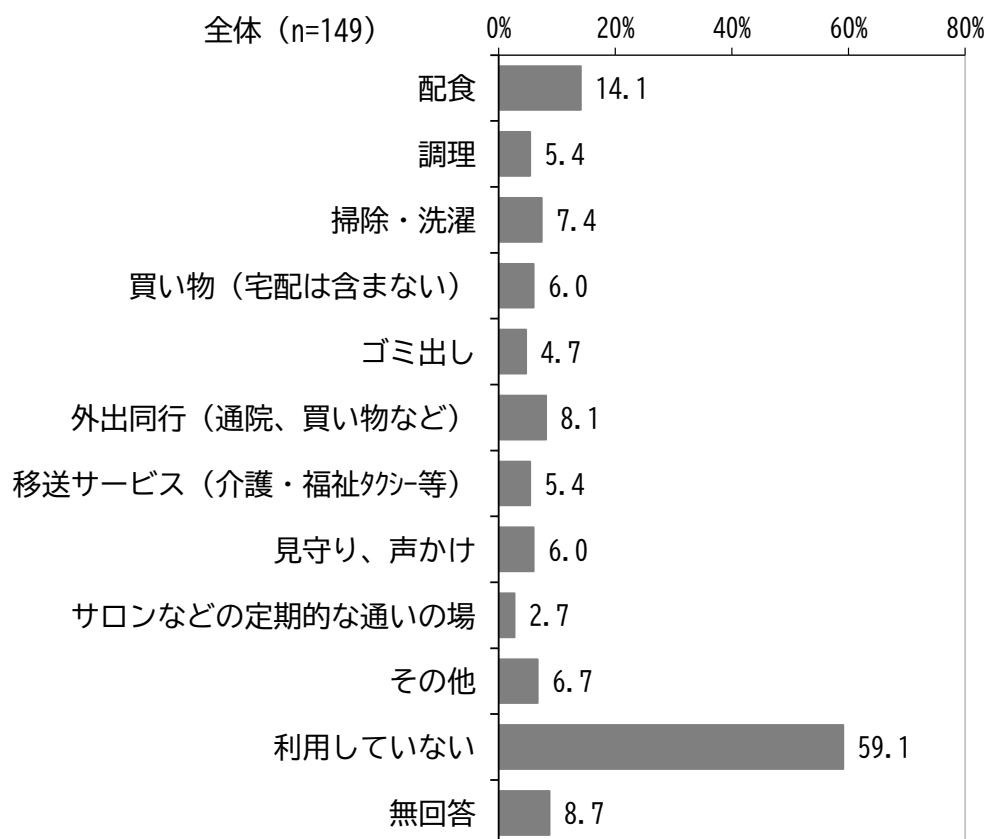
(5)就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

- ここでは、「保険外の支援・サービスの利用状況」、「訪問診療の利用の有無」、「施設等検討の状況」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています。

【利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）】

「利用していない」の割合が最も高く 59.1%となっています。次いで、「配食（14.1%）」、「外出同行（通院、買い物など）（8.1%）」となっています。

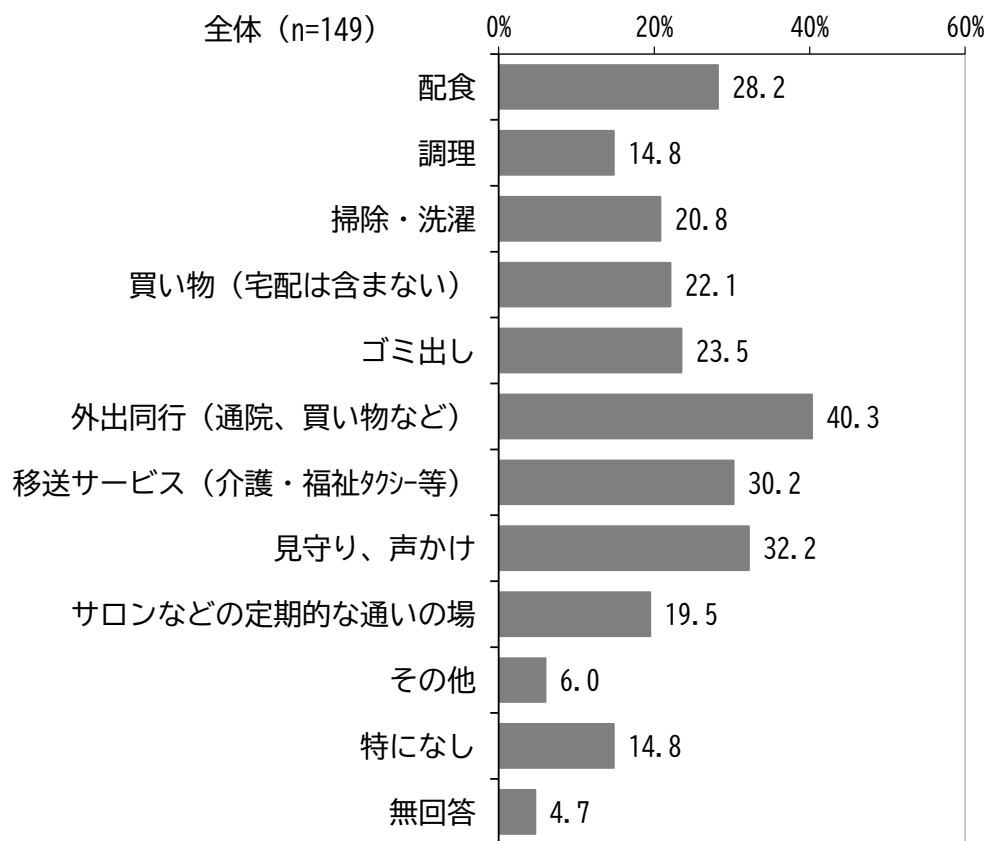
図表 3-2-19 利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）



【在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）】

「外出同行（通院、買い物など）」の割合が最も高く 40.3%となっています。次いで、「見守り、声かけ（32.2%）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（30.2%）」となっています。

図表 3-2-20 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）



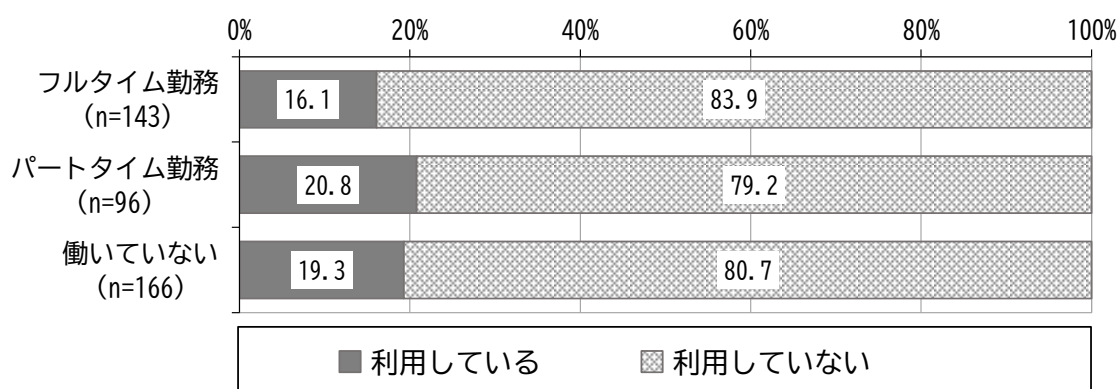
【就労状況別・訪問診療の利用の有無】

訪問診療の利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用していない」が83.9%と最も割合が高く、次いで「利用している」が16.1%となっています。

「パートタイム勤務」では「利用していない」が79.2%と最も割合が高く、次いで「利用している」が20.8%となっています。

「働いていない」では「利用していない」が80.7%と最も割合が高く、次いで「利用している」が19.3%となっています。

図表 3-2-21 就労状況別・訪問診療の利用の有無



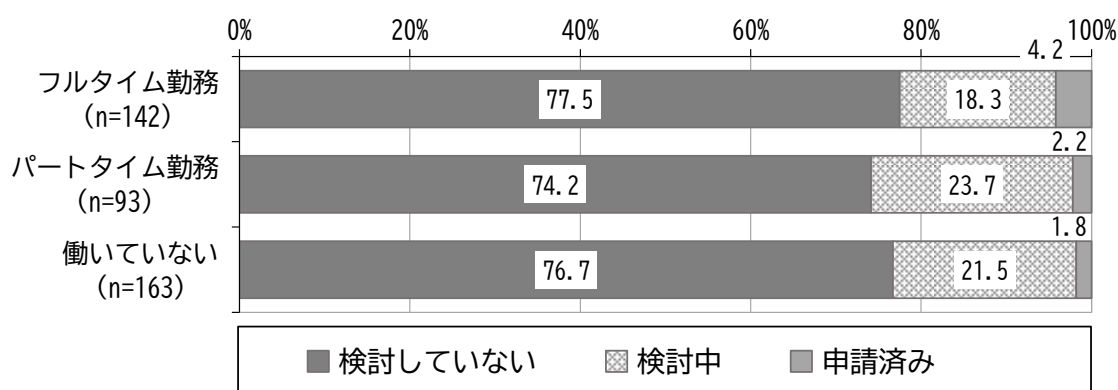
【就労状況別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「検討していない」が77.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.3%、「申請済み」が4.2%となっています。

「パートタイム勤務」では「検討していない」が74.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」が23.7%、「申請済み」が2.2%となっています。

「働いていない」では「検討していない」が76.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が21.5%、「申請済み」が1.8%となっています。

図表 3-2-22 就労状況別・施設等検討の状況



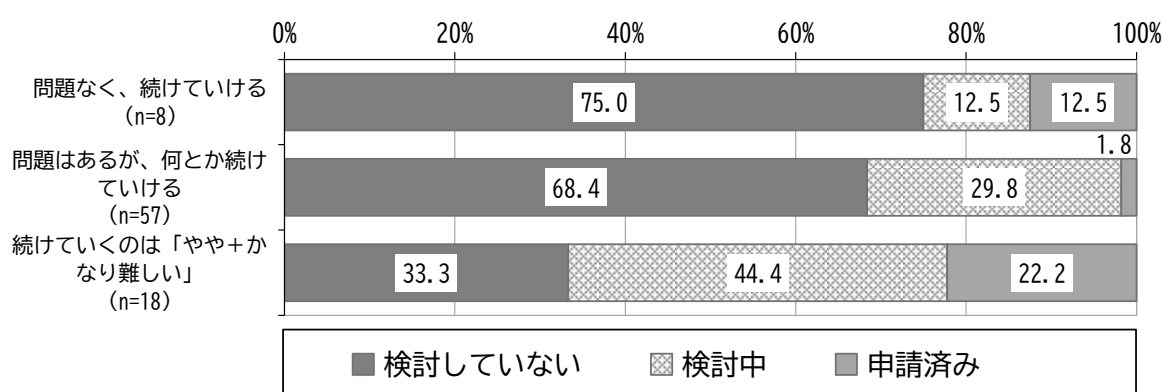
【就労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護２以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

施設等の検討状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「検討していない」が75.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」がいずれも12.5%となっています。

「問題はあるが、何とか続けていける」では「検討していない」が68.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が29.8%、「申請済み」が1.8%となっています。

「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「検討中」が44.4%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が33.3%、「申請済み」が22.2%となっています。

図表 3-2-23 就労継続見込み別・施設等検討の状況
(要介護２以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務)



(6)就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

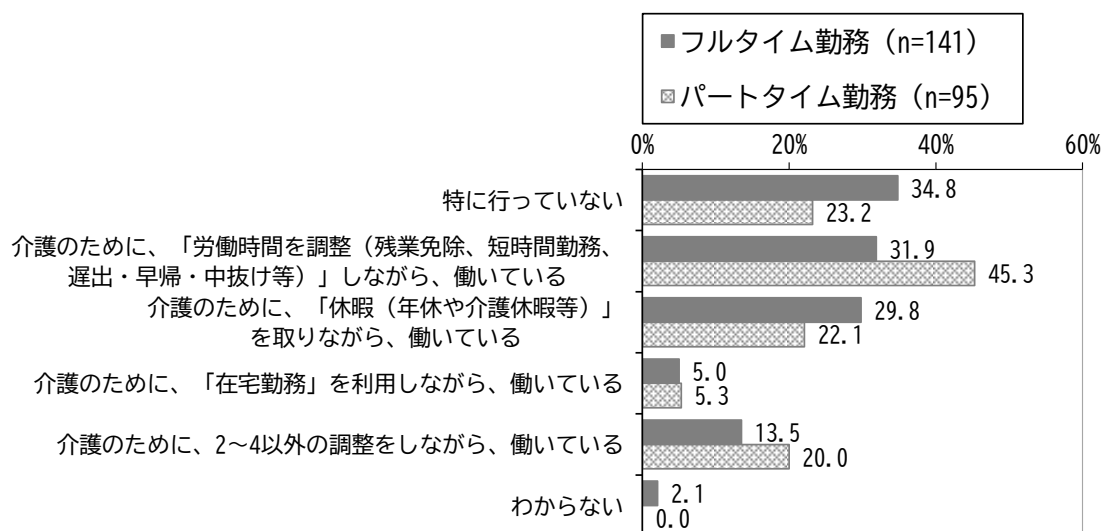
- ここでは、「介護のための働き方の調整」と、「効果的な勤め先からの支援」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています。
- 就労継続見込みによって、介護のために働き方を調整している割合や、効果的と考える勤め先の支援内容がどのように変化するかに着目して集計分析をしています。

【就労状況別・介護のための働き方の調整】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「特に行っていない」が34.8%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が31.9%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が29.8%となっています。

「パートタイム勤務」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が45.3%と最も割合が高く、次いで「特に行っていない」が23.2%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が22.1%となっています。

図表 3-2-24 就労状況別・介護のための働き方の調整



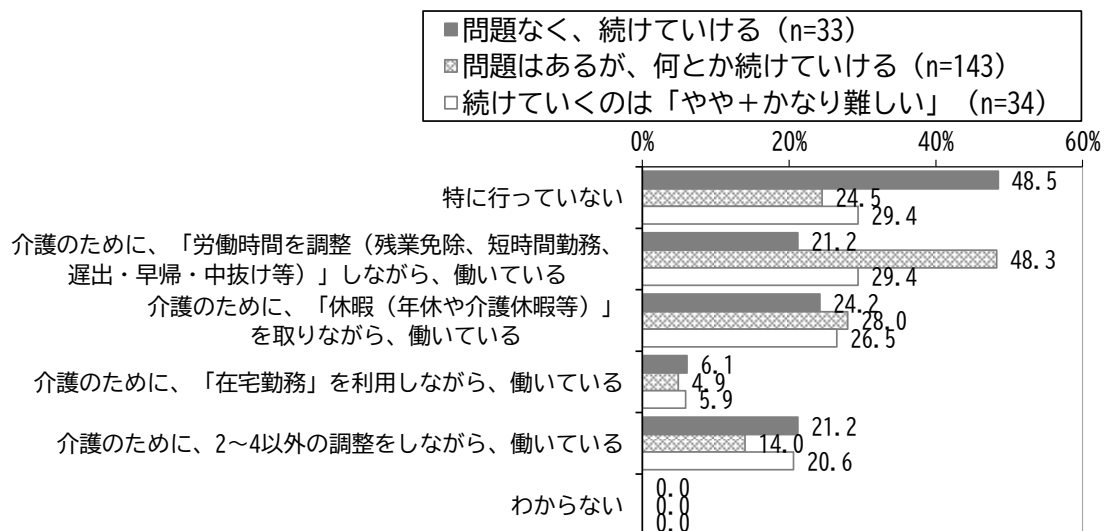
【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」が48.5%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が24.2%、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」、「介護のために、2～4 以外の調整をしながら、働いている」がいずれも 21.2%となっています。

「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が48.3%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が28.0%、「特に行っていない」が24.5%となっています。

「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「特に行っていない」、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が29.4%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が26.5%、「介護のために、2～4 以外の調整をしながら、働いている」が20.6%となっています。

図表 3-2-25 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整
（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）

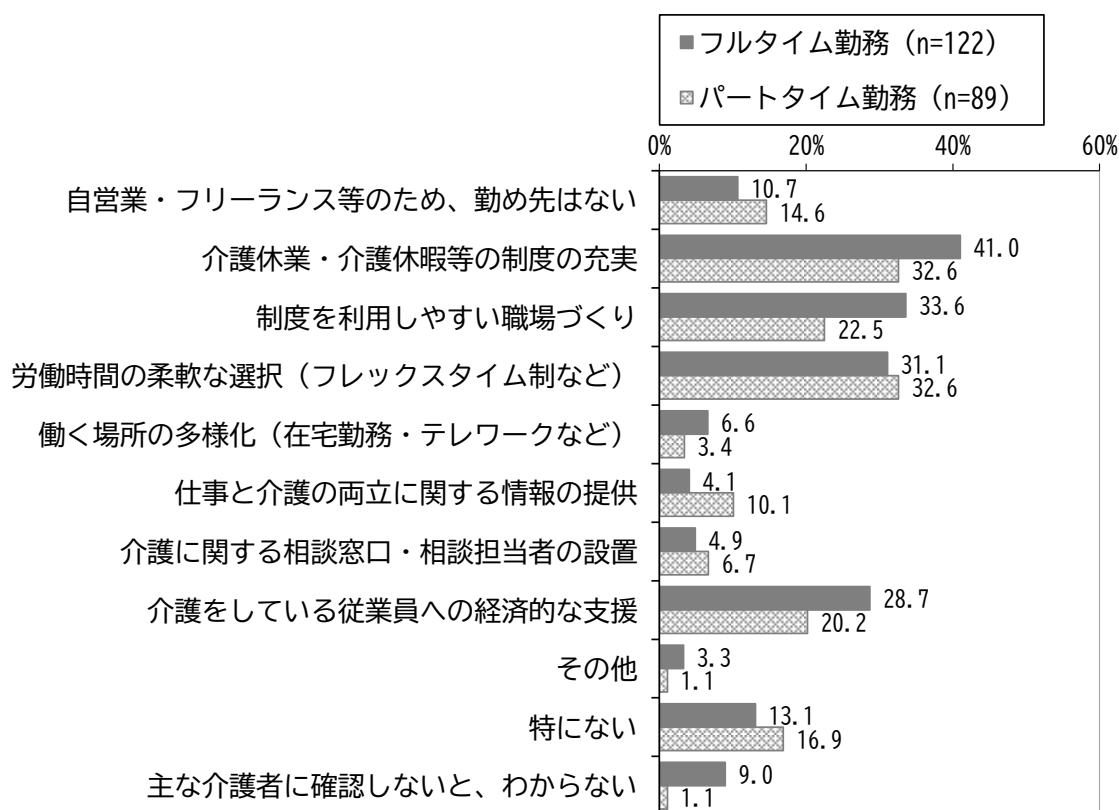


【就労状況別・効果的な勤め先からの支援】

効果的な勤め先からの支援を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が41.0%と最も割合が高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が33.6%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が31.1%となっています。

「パートタイム勤務」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」がいずれも32.6%と最も割合が高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が22.5%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が20.2%となっています。

図表 3-2-26 就労状況別・効果的な勤め先からの支援



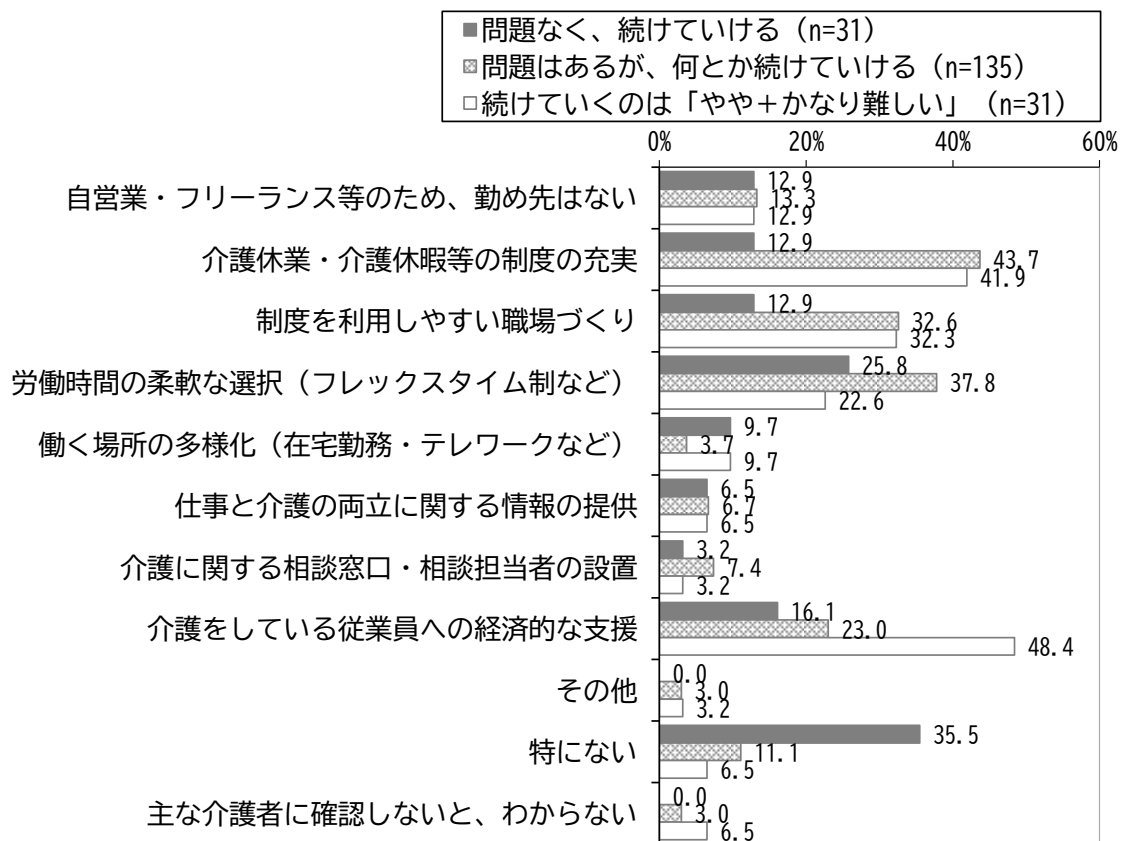
【就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

効果的な勤め先からの支援を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特にない」が35.5%と最も割合が高く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が25.8%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が16.1%となっています。

「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が43.7%と最も割合が高く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が37.8%、「制度を利用しやすい職場づくり」が32.6%となっています。

「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「介護をしている従業員への経済的な支援」が48.4%と最も割合が高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が41.9%、「制度を利用しやすい職場づくり」が32.3%となっています。

図表 3-2-27 就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援
（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

3.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、特に「保険外の支援・サービス」に焦点を当てた集計を行っています。ここで把握された現状やニーズは、生活支援体制整備事業の推進のために活用していくことなどが考えられます。
- 具体的には、「現在利用している保険外の支援・サービス」と「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）」について、要介護度別や世帯類型別のクロス集計を行い、現在の利用状況の把握と今後さらに充実が必要となる支援・サービスについての分析を行います。
- なお、調査の中では、総合事業に基づく支援・サービスは介護保険サービスに含めるとともに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、介護保険サービスか保険外の支援・サービスであるかは区別していません。

3.2 集計結果

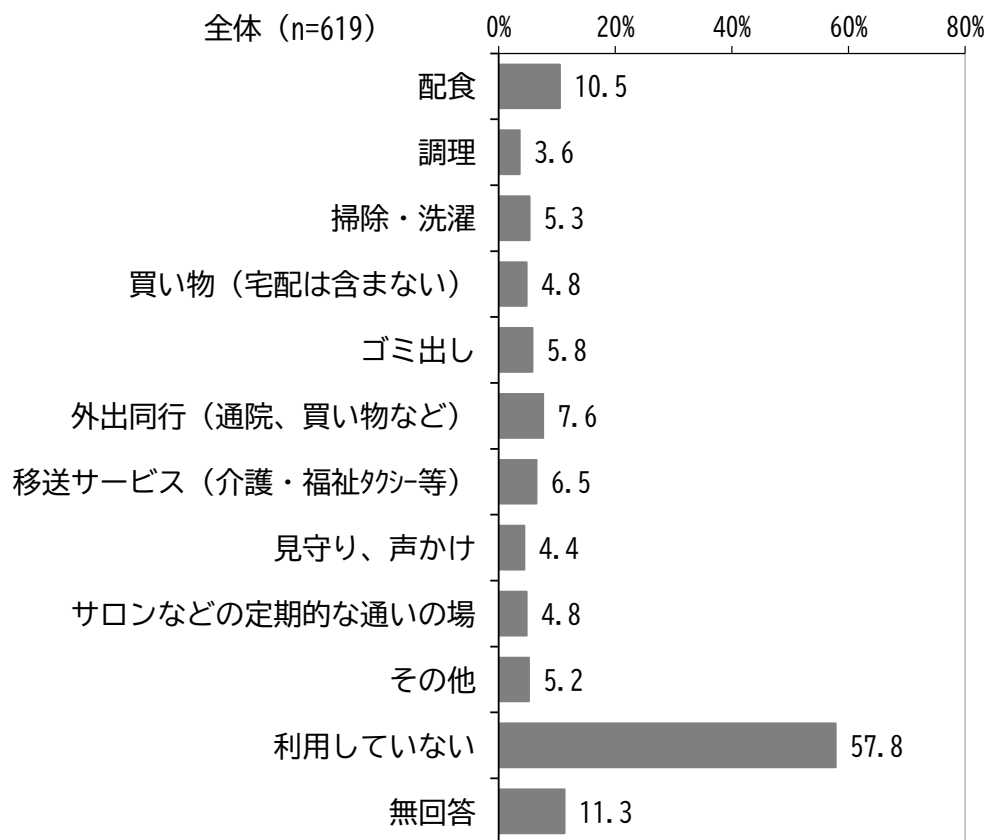
(1)基礎集計

- 「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています。

【保険外の支援・サービスの利用状況】

「利用していない」の割合が最も高く 57.8%となっています。次いで、「配食（10.5%）」、「外出同行（通院、買い物など）（7.6%）」となっています。

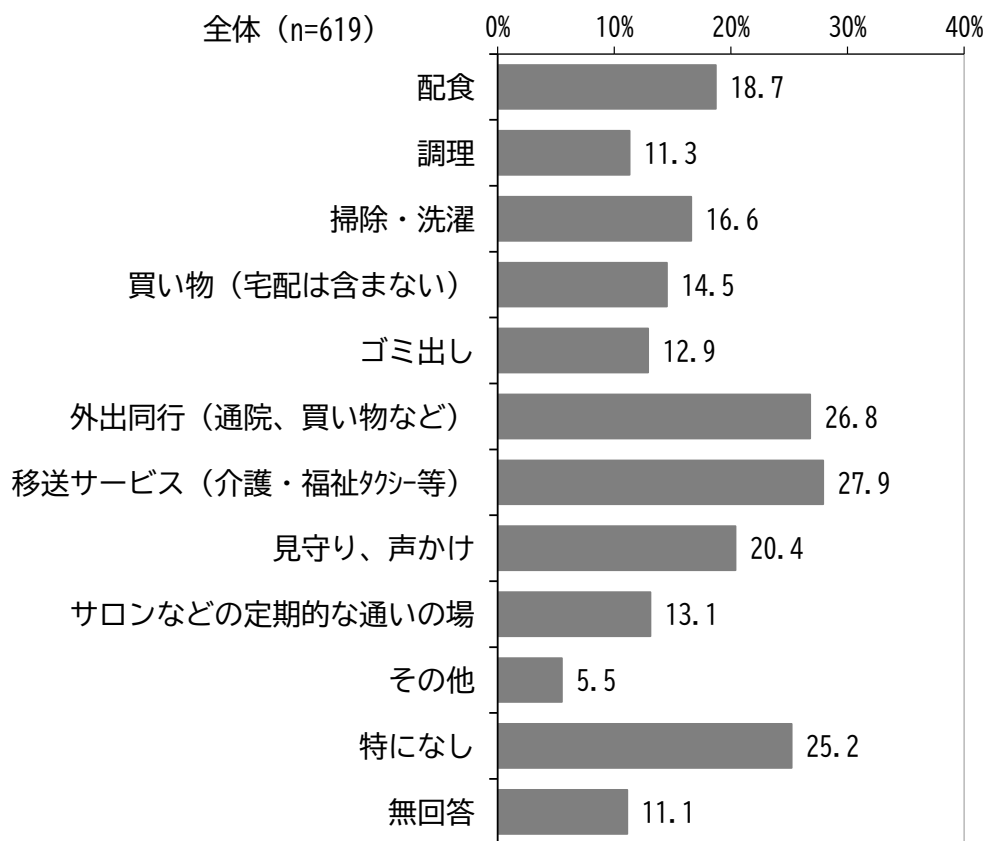
図表 3-3-1 保険外の支援・サービスの利用状況



【在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が最も高く 27.9%となっています。次いで、「外出同行（通院、買い物など）（26.8%）」、「特になし（25.2%）」となっています。

図表 3-3-2 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(2)世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

- 世帯類型別に「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています。

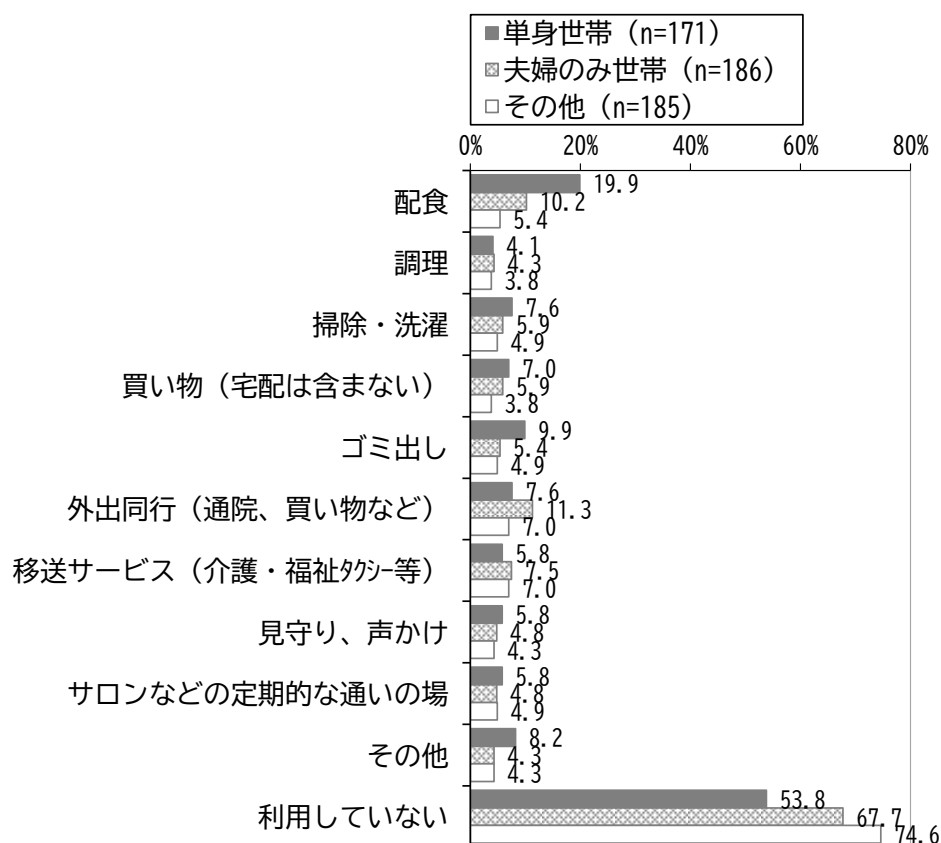
【世帯類型別・保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が53.8%と最も割合が高く、次いで「配食」が19.9%、「ゴミ出し」が9.9%となっています。

「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が67.7%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が11.3%、「配食」が10.2%となっています。

「その他」では「利用していない」が74.6%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が7.0%、「配食」が5.4%となっています。

図表 3-3-3 世帯類型別・保険外の支援・サービスの利用状況



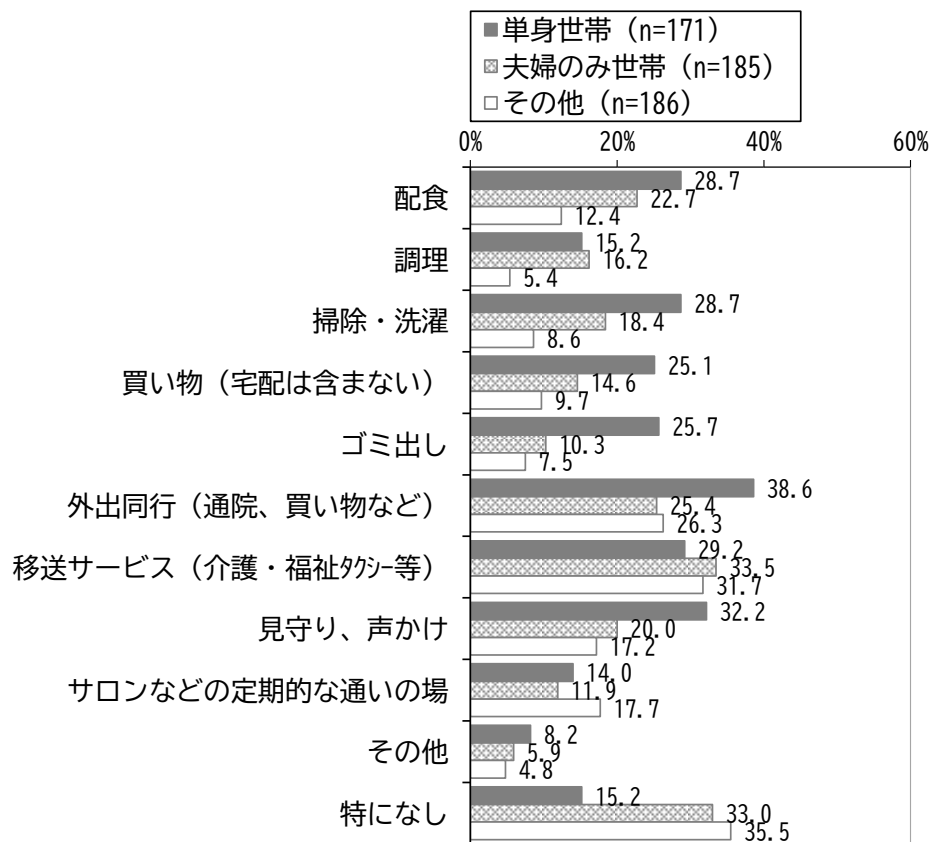
【世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「外出同行（通院、買い物など）」が38.6%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が32.2%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が29.2%となっています。

「夫婦のみ世帯」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が33.5%と最も割合が高く、次いで「特になし」が33.0%、「外出同行（通院、買い物など）」が25.4%となっています。

「その他」では「特になし」が35.5%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が31.7%、「外出同行（通院、買い物など）」が26.3%となっています。

図表 3-3-4 世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(3)「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」

- 世帯類型別・要介護度別に「保険外の支援・サービスの利用状況」について、集計分析をしています。

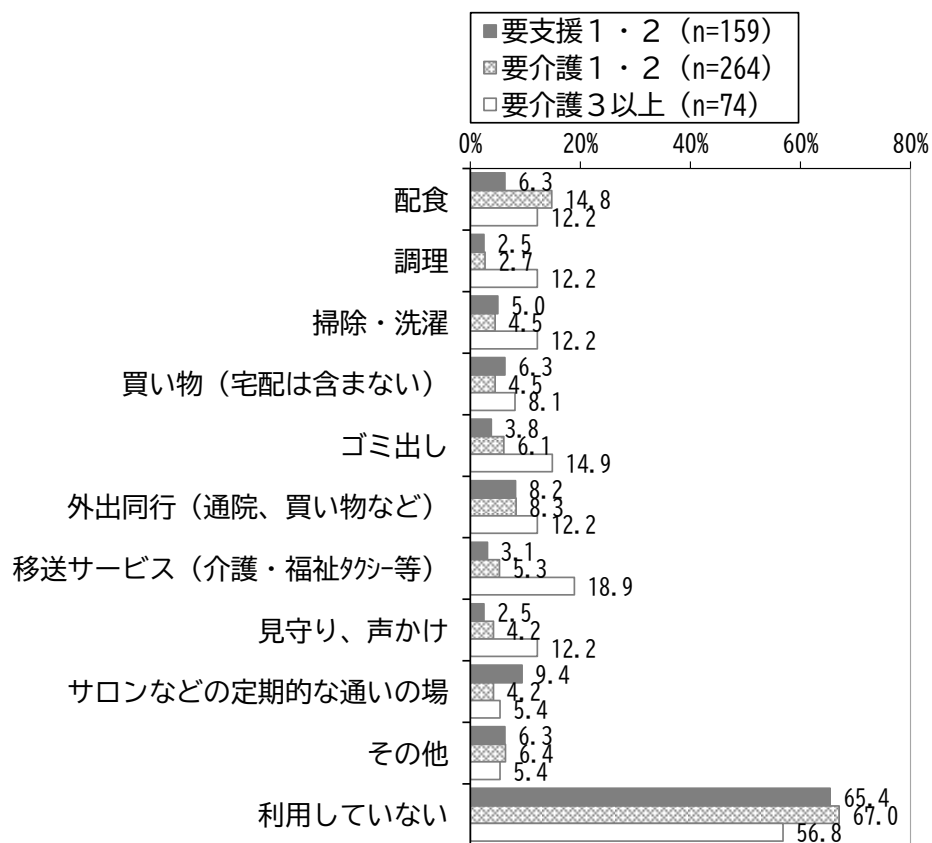
【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が65.4%と最も割合が高く、次いで「サロンなどの定期的な通いの場」が9.4%、「外出同行（通院、買い物など）」が8.2%となっています。

「要介護1・2」では「利用していない」が67.0%と最も割合が高く、次いで「配食」が14.8%、「外出同行（通院、買い物など）」が8.3%となっています。

「要介護3以上」では「利用していない」が56.8%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が18.9%、「ゴミ出し」が14.9%となっています。

図表 3-3-5 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況



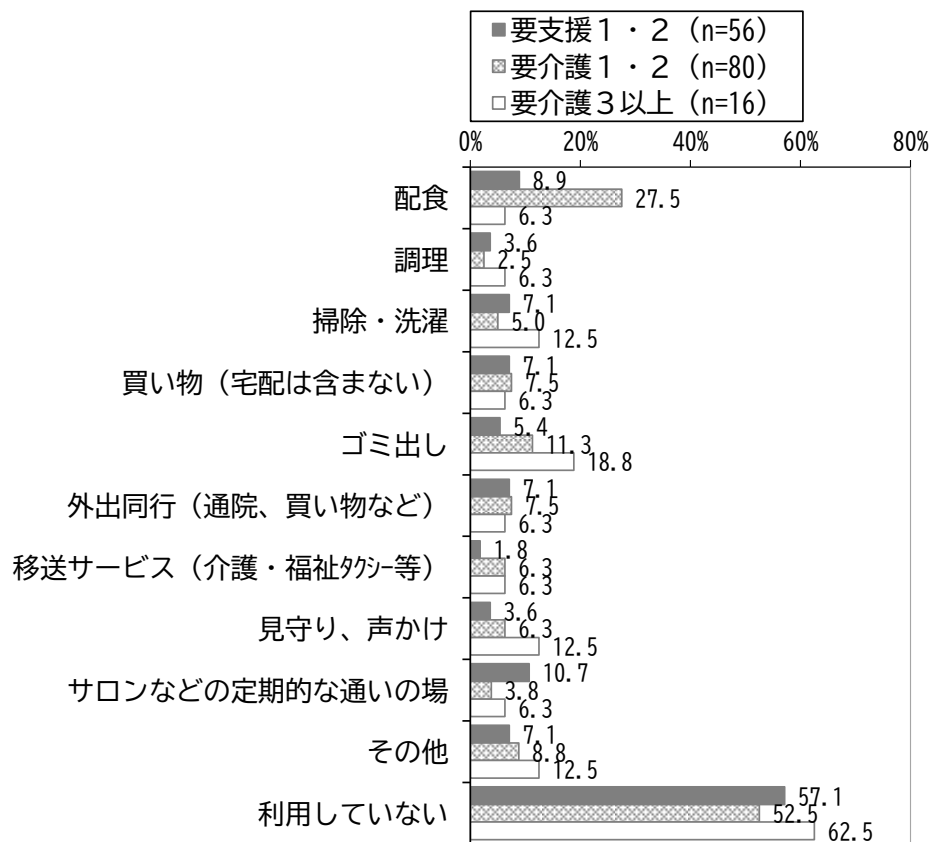
【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が57.1%と最も割合が高く、次いで「サロンなどの定期的な通いの場」が10.7%、「配食」が8.9%となっています。

「要介護1・2」では「利用していない」が52.5%と最も割合が高く、次いで「配食」が27.5%、「ゴミ出し」が11.3%となっています。

「要介護3以上」では「利用していない」が62.5%と最も割合が高く、次いで「ゴミ出し」が18.8%、「掃除・洗濯」が12.5%となっています。

図表 3-3-6 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）



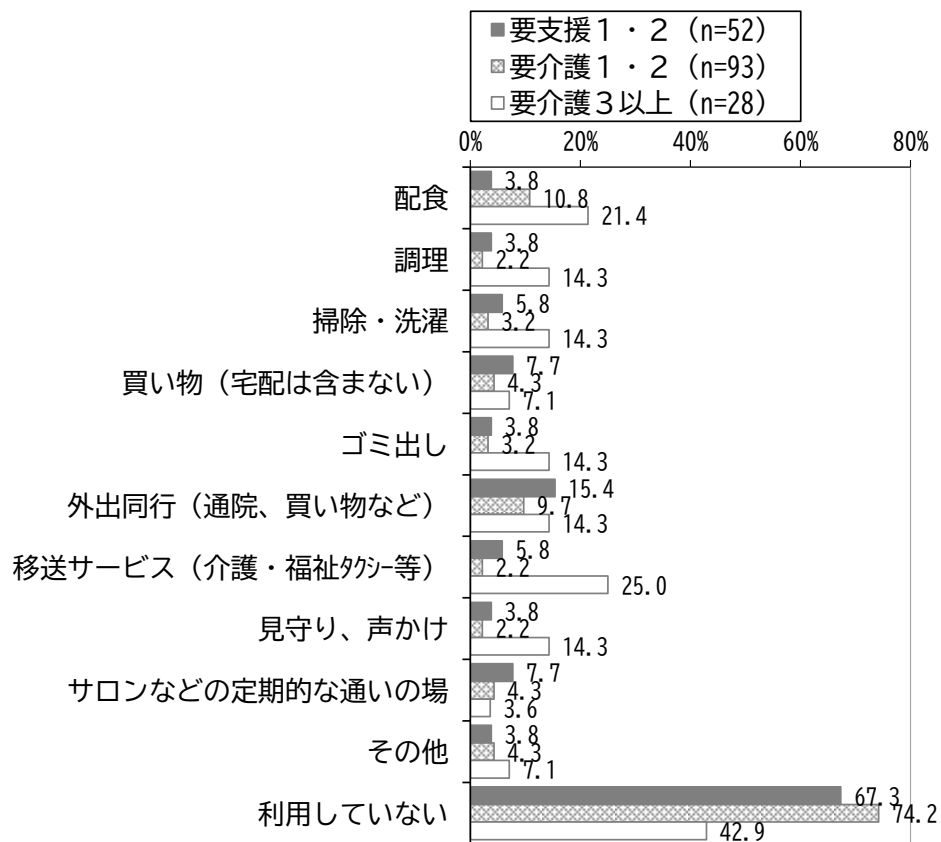
【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が67.3%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が15.4%、「買い物（宅配は含まない）」、「サロンなどの定期的な通いの場」がいずれも7.7%となっています。

「要介護1・2」では「利用していない」が74.2%と最も割合が高く、次いで「配食」が10.8%、「外出同行（通院、買い物など）」が9.7%となっています。

「要介護3以上」では「利用していない」が42.9%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が25.0%、「配食」が21.4%となっています。

図表 3-3-7 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）



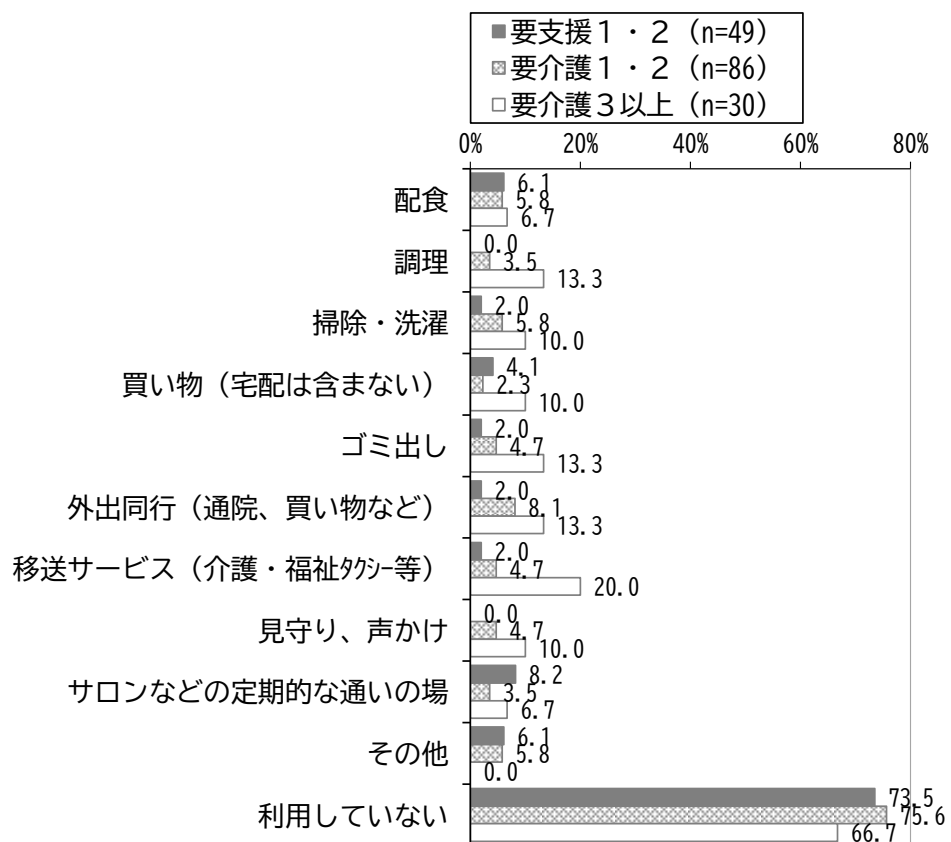
【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が73.5%と最も割合が高く、次いで「サロンなどの定期的な通いの場」が8.2%、「配食」、「その他」が6.1%となっています。

「要介護1・2」では「利用していない」が75.6%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が8.1%、「配食」、「掃除・洗濯」、「その他」がいずれも5.8%となっています。

「要介護3以上」では「利用していない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が20.0%、「調理」、「ゴミ出し」、「外出同行（通院、買い物など）」がいずれも13.3%となっています。

図表 3-3-8 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）



(4)「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」

- 世帯類型別・要介護度別に「必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています。

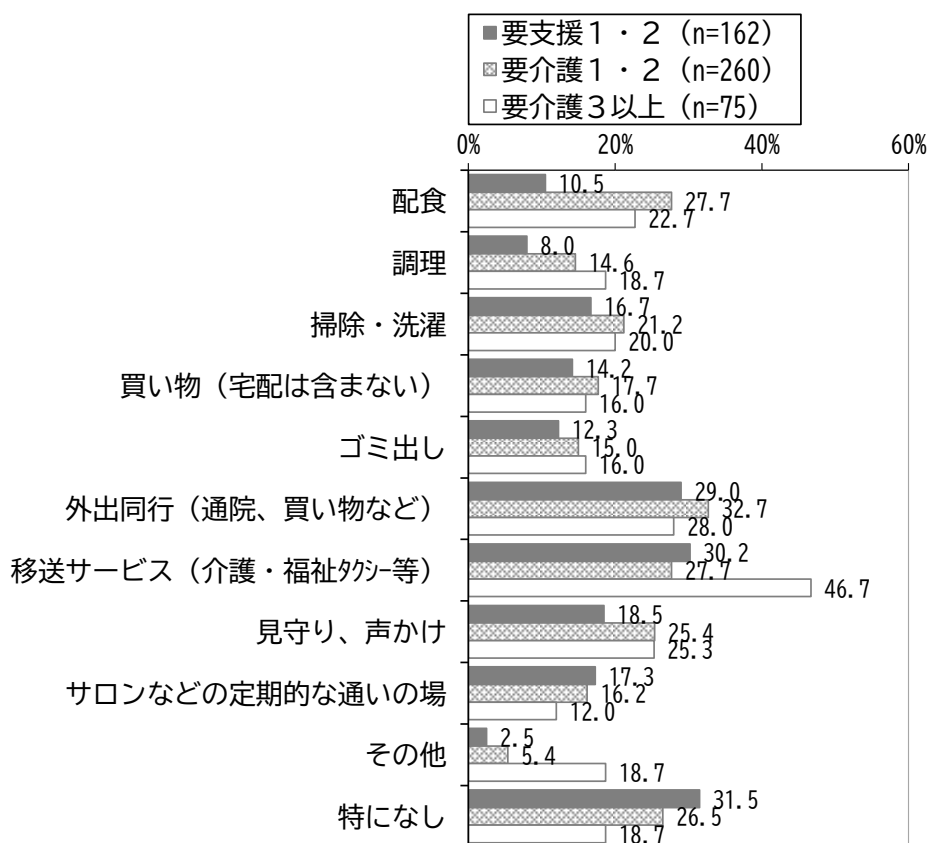
【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が31.5%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が30.2%、「外出同行（通院、買い物など）」が29.0%となっています。

「要介護1・2」では「外出同行（通院、買い物など）」が32.7%と最も割合が高く、次いで「配食」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」がいずれも27.7%となっています。

「要介護3以上」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が46.7%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が28.0%、「見守り、声かけ」が25.3%となっています。

図表 3-3-9 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



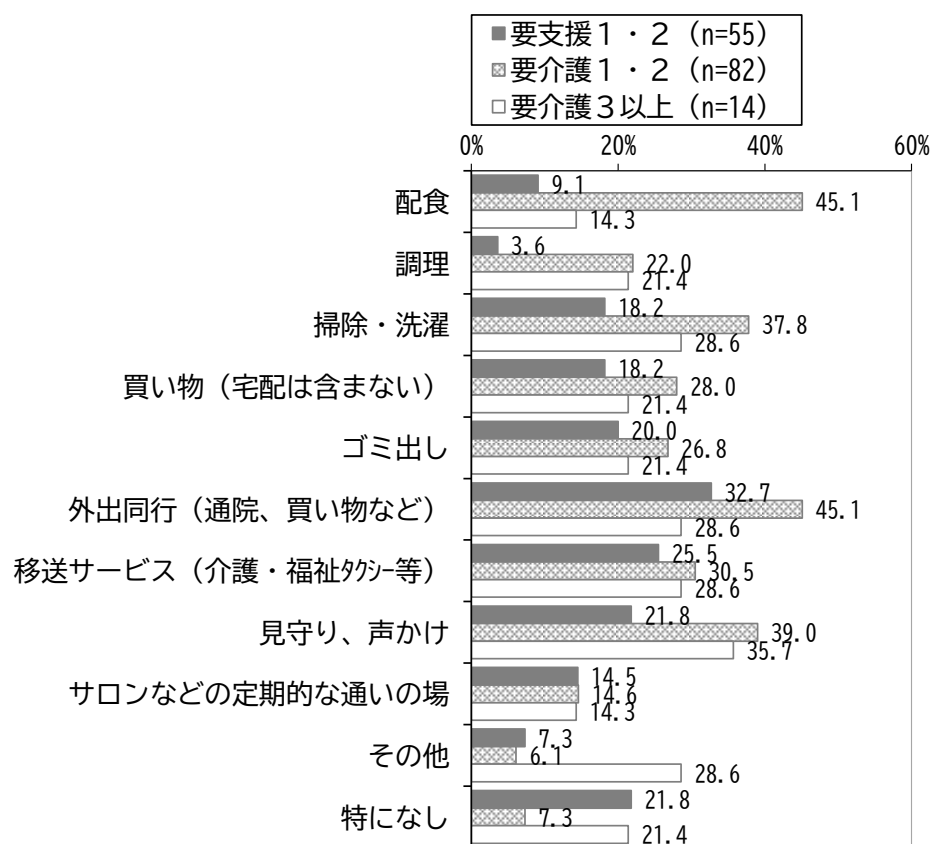
【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「外出同行（通院、買い物など）」が32.7%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が25.5%、「見守り、声かけ」、「特になし」がいずれも21.8%となっています。

「要介護１・２」では「配食」、「外出同行（通院、買い物など）」がいずれも45.1%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が39.0%、「掃除・洗濯」が37.8%となっています。

「要介護３以上」では「見守り、声かけ」が35.7%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」、「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「その他」がいずれも28.6%となっています。

図表 3-3-10 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



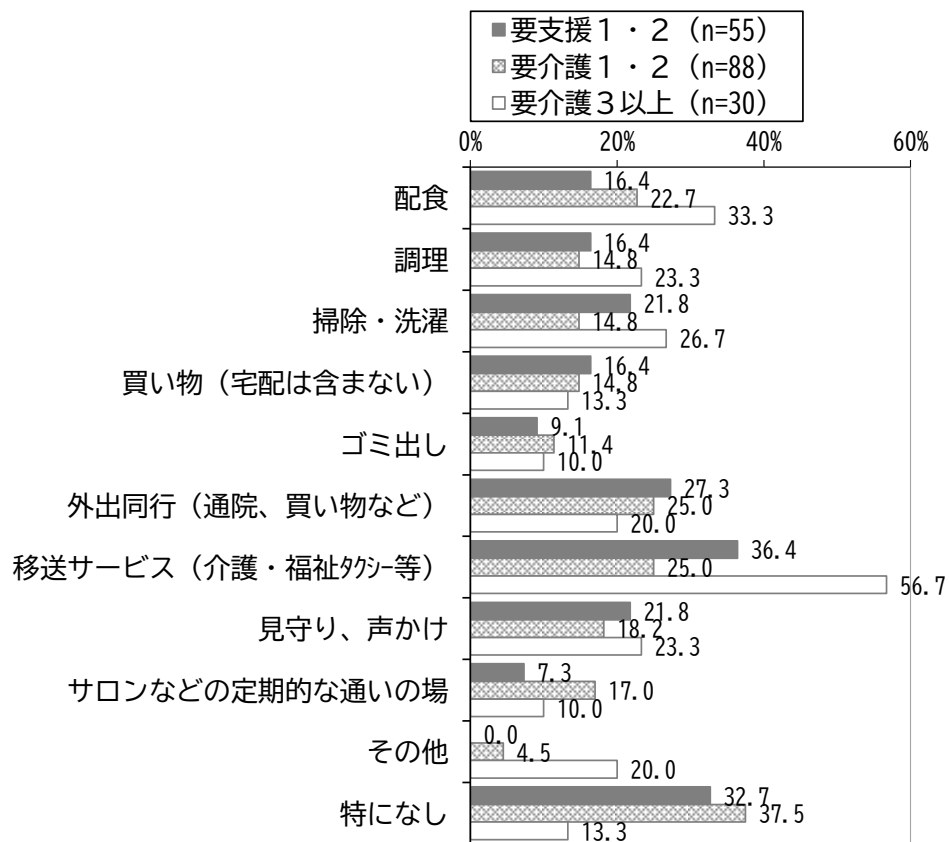
【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が36.4%と最も割合が高く、次いで「特になし」が32.7%、「外出同行（通院、買い物など）」が27.3%となっています。

「要介護1・2」では「特になし」が37.5%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」がいずれも25.0%となっています。

「要介護3以上」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が56.7%と最も割合が高く、次いで「配食」が33.3%、「掃除・洗濯」が26.7%となっています。

図表 3-3-11 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



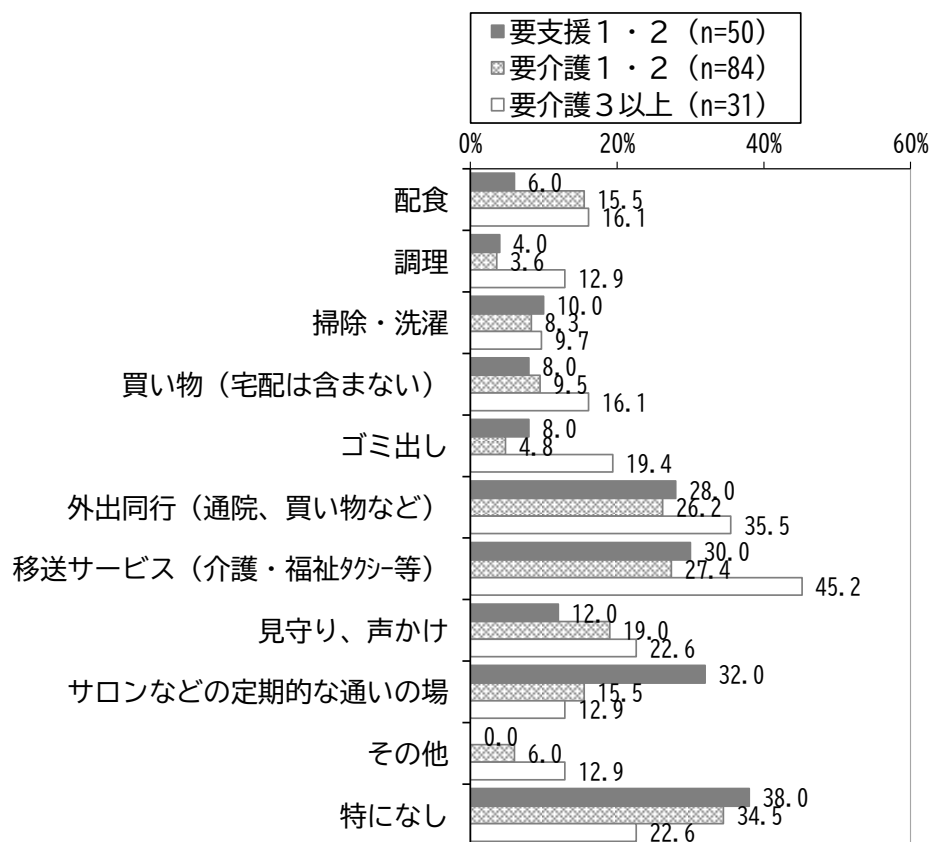
【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「特になし」が38.0%と最も割合が高く、次いで「サロンなどの定期的な通いの場」が32.0%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が30.0%となっています。

「要介護１・２」では「特になし」が34.5%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が27.4%、「外出同行（通院、買い物など）」が26.2%となっています。

「要介護３以上」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が45.2%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が35.5%、「見守り、声かけ」、 「特になし」がいずれも22.6%となっています。

図表 3-3-12 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）



4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

4.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、特に世帯類型別の「サービス利用の特徴」や「施設等検討の状況」に焦点を当てた集計を行っています。
- 具体的には、世帯類型別の「家族等による介護の頻度」、「サービス利用の組み合わせ」、「施設等検討の状況」などの分析を行います。

4.2 集計結果

(1)基礎集計

- 「要介護度別の世帯タイプの割合」および「世帯類型別の要介護度の割合」を集計しています。

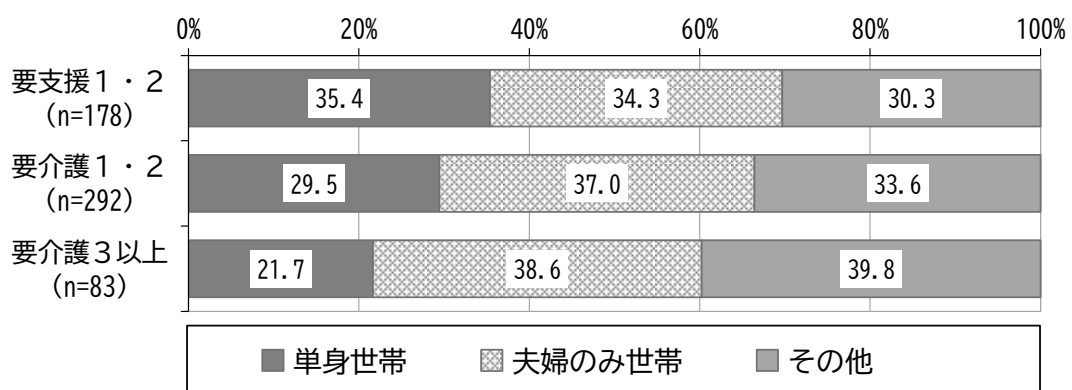
【要介護度別・世帯類型】

世帯類型を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「単身世帯」が35.4%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が34.3%、「その他」が30.3%となっています。

「要介護1・2」では「夫婦のみ世帯」が37.0%と最も割合が高く、次いで「その他」が33.6%、「単身世帯」が29.5%となっています。

「要介護3以上」では「その他」が39.8%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が38.6%、「単身世帯」が21.7%となっています。

図表 3-4-1 要介護度別・世帯類型



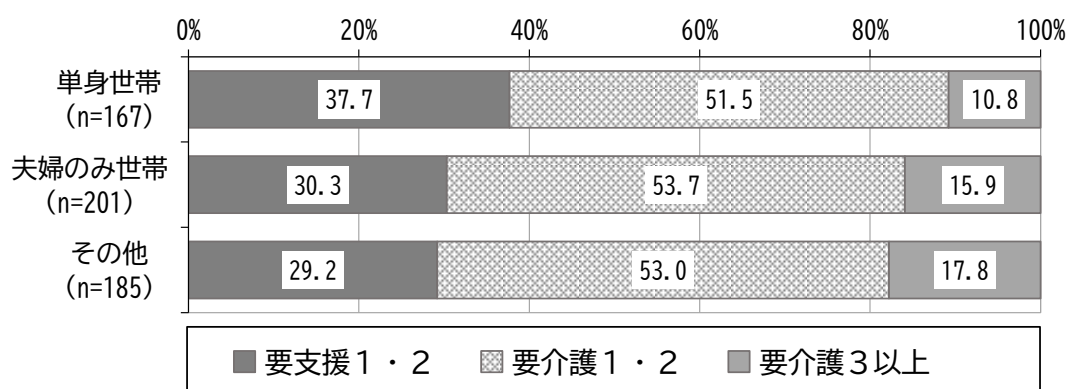
【世帯類型別・要介護度】

二次判定結果を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「要介護1・2」が51.5%と最も割合が高く、次いで「要支援1・2」が37.7%、「要介護3以上」が10.8%となっています。

「夫婦のみ世帯」では「要介護1・2」が53.7%と最も割合が高く、次いで「要支援1・2」が30.3%、「要介護3以上」が15.9%となっています。

「その他」では「要介護1・2」が53.0%と最も割合が高く、次いで「要支援1・2」が29.2%、「要介護3以上」が17.8%となっています。

図表 3-4-2 世帯類型別・要介護度



(2)「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

- ここでは、「世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」の割合を集計しています。また、世帯類型別に「要介護度別」の「家族等による介護の頻度」を集計しています。

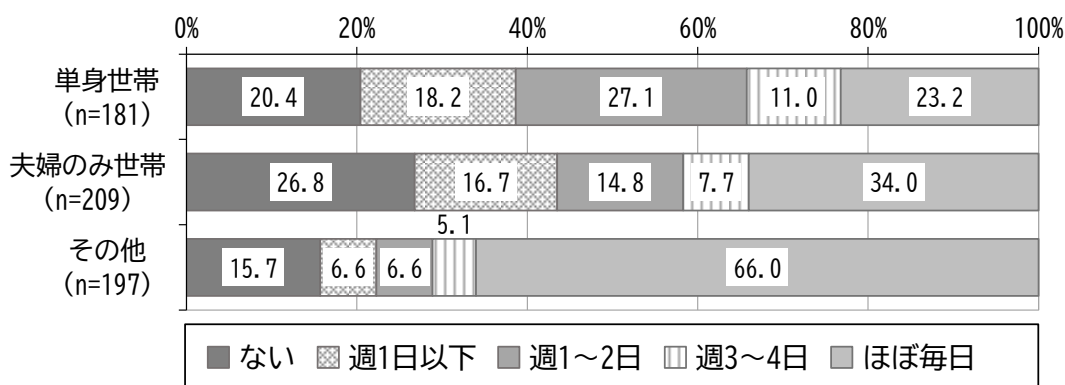
【世帯類型別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「週1～2日」が27.1%と最も割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が23.2%、「ない」が20.4%となっています。

「夫婦のみ世帯」では「ほぼ毎日」が34.0%と最も割合が高く、次いで「ない」が26.8%、「週1日以下」が16.7%となっています。

「その他」では「ほぼ毎日」が66.0%と最も割合が高く、次いで「ない」が15.7%、「週1日以下」が6.6%、「週1～2日」が6.6%、「週3～4日」が5.1%となっています。

図表 3-4-3 世帯類型別・家族等による介護の頻度



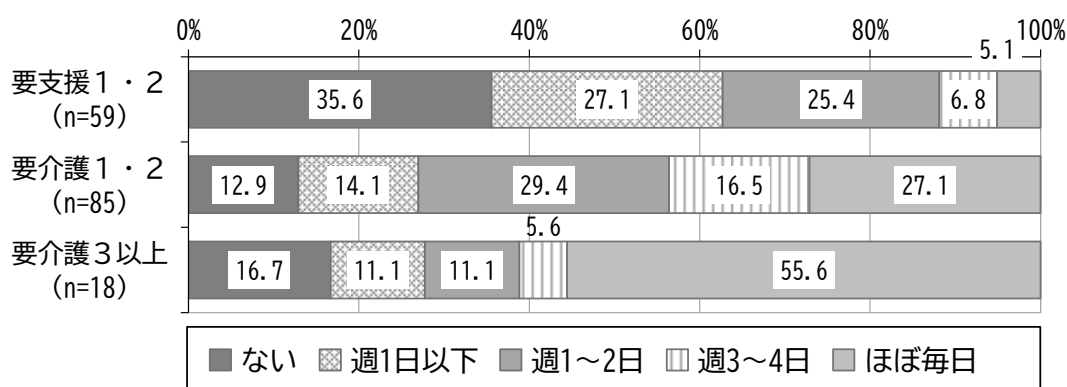
【要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ない」が35.6%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」が27.1%、「週1～2日」が25.4%となっています。

「要介護1・2」では「週1～2日」が29.4%と最も割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が27.1%、「週3～4日」が16.5%となっています。

「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が55.6%と最も割合が高く、次いで「ない」が16.7%、「週1日以下」が11.1%、「週1～2日」が11.1%となっています。

図表 3-4-4 要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）



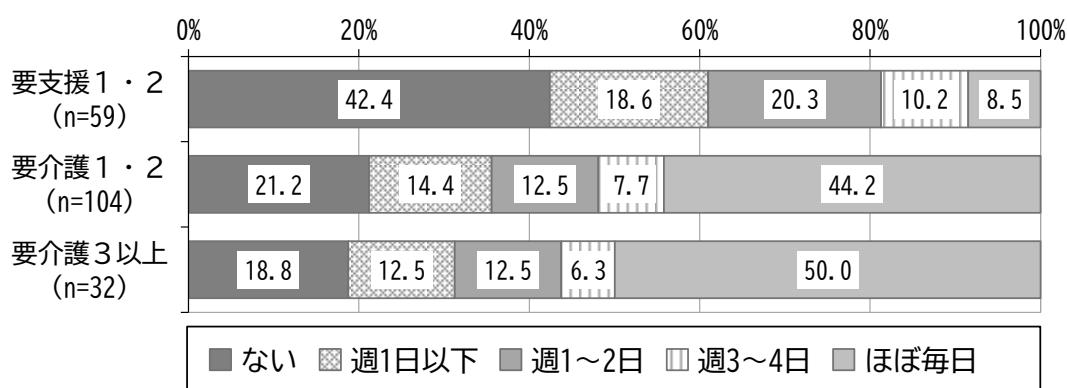
【要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ない」が42.4%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が20.3%、「週1日以下」が18.6%となっています。

「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が44.2%と最も割合が高く、次いで「ない」が21.2%、「週1日以下」が14.4%となっています。

「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が50.0%と最も割合が高く、次いで「ない」が18.8%、「週1日以下」が12.5%、「週1～2日」が12.5%となっています。

図表 3-4-5 要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）



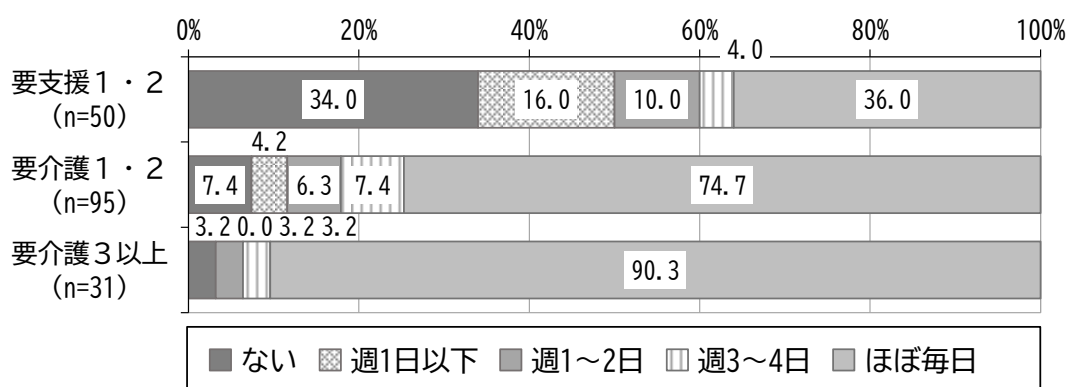
【要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「ほぼ毎日」が36.0%と最も割合が高く、次いで「ない」が34.0%、「週1日以下」が16.0%となっています。

「要介護1・2」では「ほぼ毎日」が74.7%と最も割合が高く、次いで「ない」、「週3～4日」がいずれも7.4%となっています。

「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が90.3%と最も割合が高く、次いで「ない」、「週1～2日」、「週3～4日」がいずれも3.2%となっています。

図表 3-4-6 要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）



(3)「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

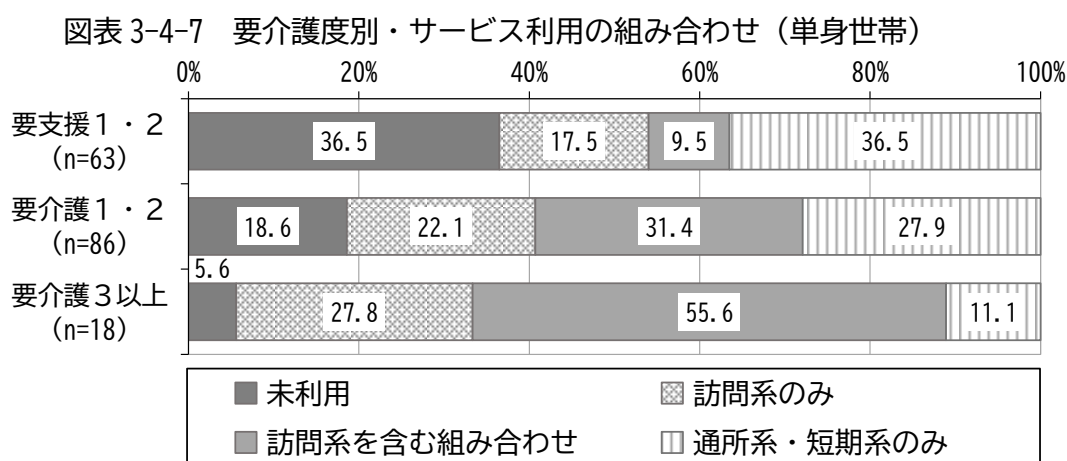
- 要介護度別・認知症自立度別の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています。
- サービス利用の組み合わせは、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に簡略化したものを使用しています。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「未利用」、「通所系・短期系のみ」がいずれも36.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が17.5%となっています。

「要介護1・2」では「訪問系を含む組み合わせ」が31.4%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が27.9%、「訪問系のみ」が22.1%となっています。

「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が55.6%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が27.8%、「通所系・短期系のみ」が11.1%となっています。

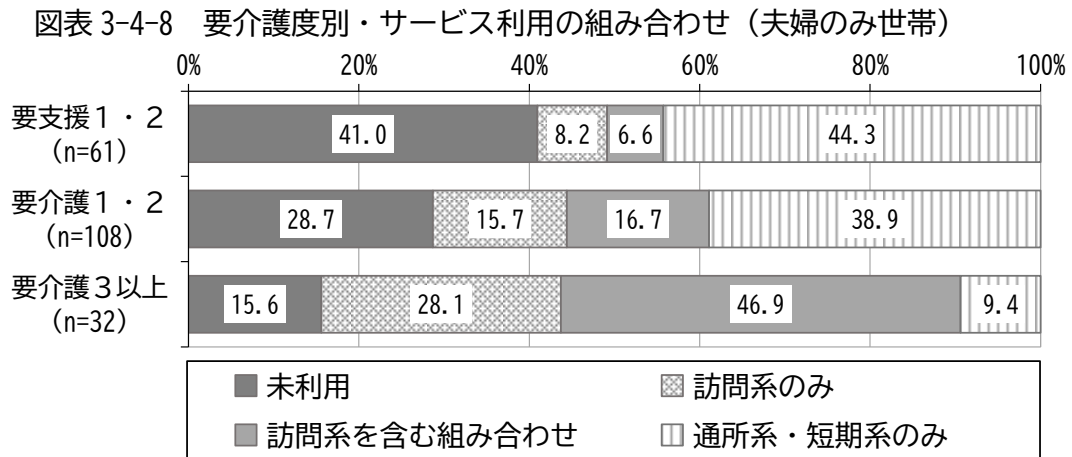


【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「通所系・短期系のみ」が44.3%と最も割合が高く、次いで「未利用」が41.0%、「訪問系のみ」が8.2%となっています。

「要介護１・２」では「通所系・短期系のみ」が38.9%と最も割合が高く、次いで「未利用」が28.7%、「訪問系を含む組み合わせ」が16.7%となっています。

「要介護３以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が46.9%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が28.1%、「未利用」が15.6%となっています。

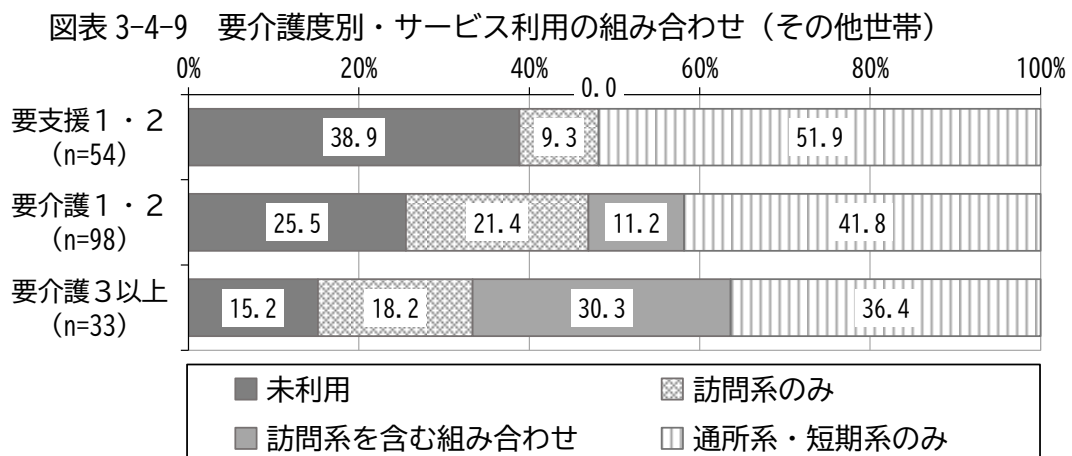


【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「通所系・短期系のみ」が51.9%と最も割合が高く、次いで「未利用」が38.9%、「訪問系のみ」が9.3%となっています。

「要介護１・２」では「通所系・短期系のみ」が41.8%と最も割合が高く、次いで「未利用」が25.5%、「訪問系のみ」が21.4%となっています。

「要介護３以上」では「通所系・短期系のみ」が36.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が30.3%、「訪問系のみ」が18.2%となっています。



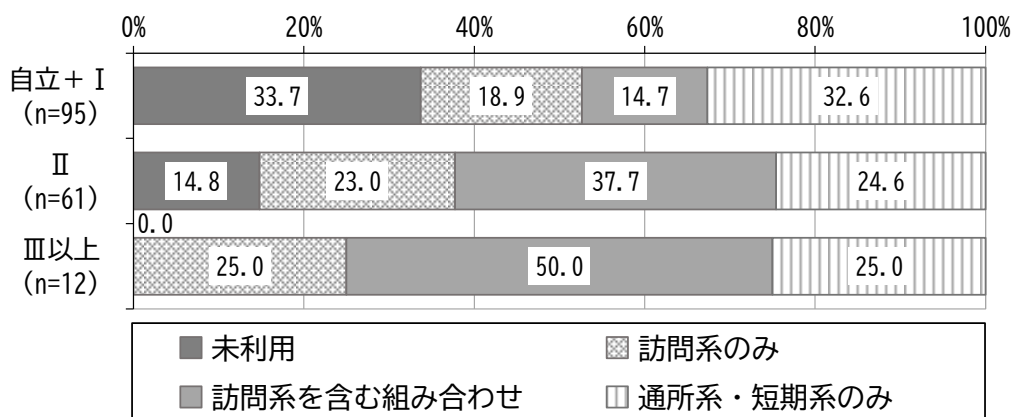
【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「未利用」が33.7%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が32.6%、「訪問系のみ」が18.9%となっています。

「Ⅱ」では「訪問系を含む組み合わせ」が37.7%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が24.6%、「訪問系のみ」が23.0%となっています。

「Ⅲ以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が50.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」、
「通所系・短期系のみ」がいずれも25.0%となっています。

図表 3-4-10 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



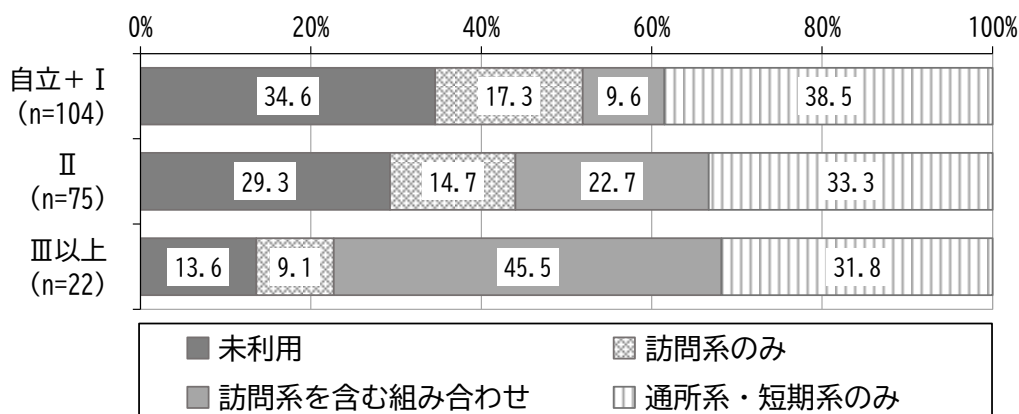
【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が38.5%と最も割合が高く、次いで「未利用」が34.6%、「訪問系のみ」が17.3%となっています。

「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が33.3%と最も割合が高く、次いで「未利用」が29.3%、「訪問系を含む組み合わせ」が22.7%となっています。

「Ⅲ以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が45.5%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が31.8%、「未利用」が13.6%となっています。

図表 3-4-11 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



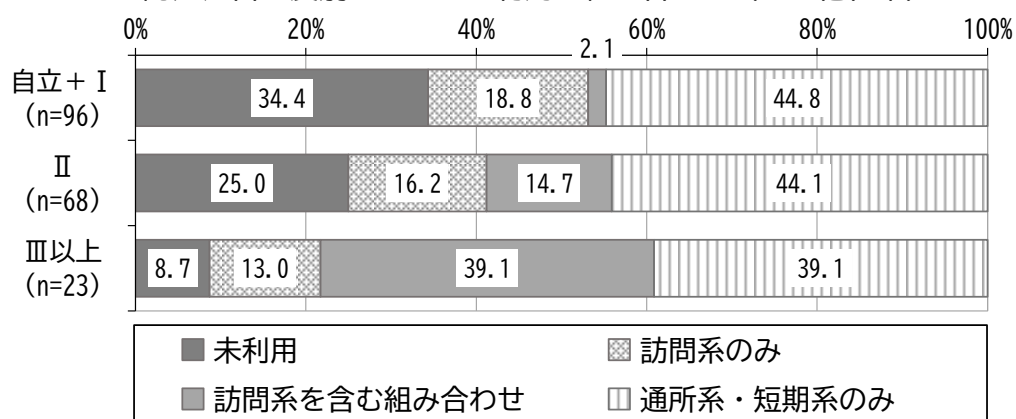
【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が44.8%と最も割合が高く、次いで「未利用」が34.4%、「訪問系のみ」が18.8%となっています。

「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が44.1%と最も割合が高く、次いで「未利用」が25.0%、「訪問系のみ」が16.2%となっています。

「Ⅲ以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が39.1%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が13.0%となっています。

図表 3-4-12 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



(4)「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

- ここでは、「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」について、集計分析をしています。

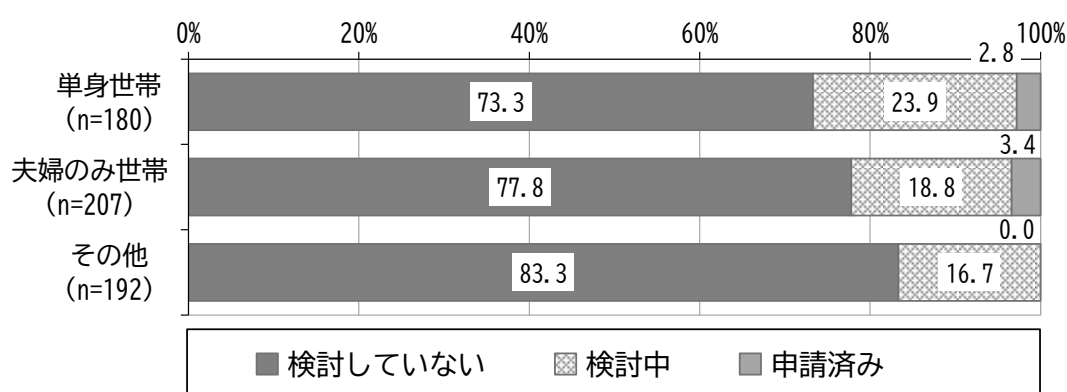
【世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が73.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が23.9%、「申請済み」が2.8%となっています。

「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が77.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.8%、「申請済み」が3.4%となっています。

「その他」では「検討していない」が83.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が16.7%となっています。

図表 3-4-13 世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）

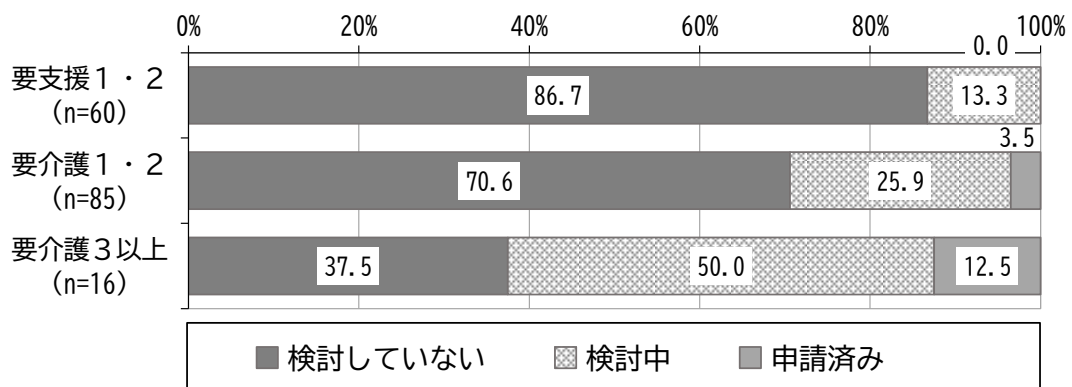


【要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が86.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が13.3%となっています。「要介護１・２」では「検討していない」が70.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.9%、「申請済み」が3.5%となっています。

「要介護３以上」では「検討中」が50.0%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が37.5%、「申請済み」が12.5%となっています。

図表 3-4-14 要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



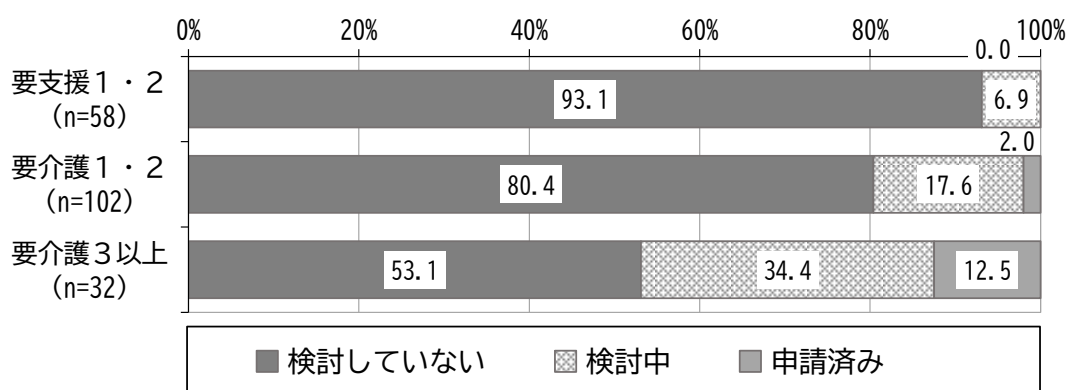
【要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が93.1%と最も割合が高く、次いで「検討中」が6.9%となっています。

「要介護１・２」では「検討していない」が80.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が17.6%、「申請済み」が2.0%となっています。

「要介護３以上」では「検討していない」が53.1%と最も割合が高く、次いで「検討中」が34.4%、「申請済み」が12.5%となっています。

図表 3-4-15 要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



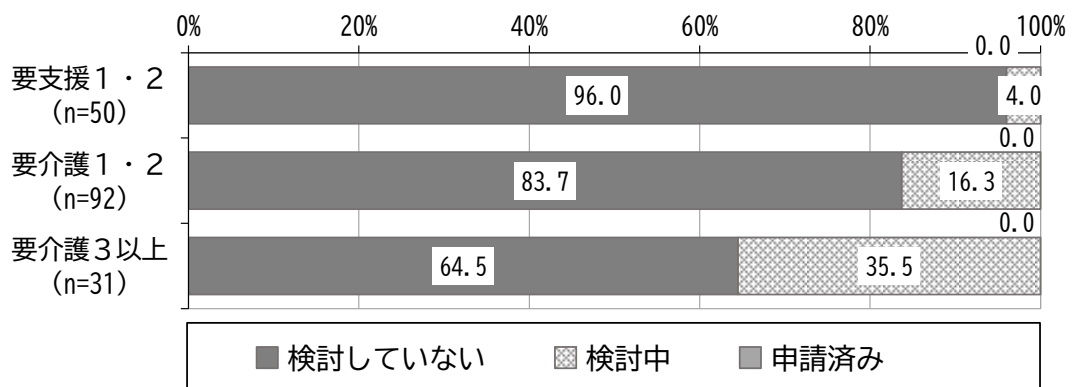
【要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が96.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が4.0%となっています。

「要介護１・２」では「検討していない」が83.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が16.3%となっています。

「要介護３以上」では「検討していない」が64.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が35.5%となっています。

図表 3-4-16 要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）



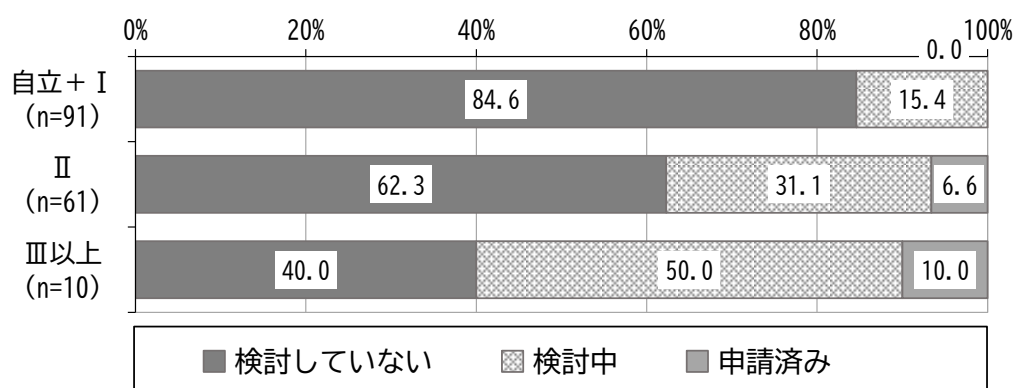
【認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯）】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「検討していない」が84.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が15.4%となっています。

「Ⅱ」では「検討していない」が62.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が31.1%、「申請済み」が6.6%となっています。

「Ⅲ以上」では「検討中」が50.0%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が40.0%、「申請済み」が10.0%となっています。

図表 3-4-17 認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯）



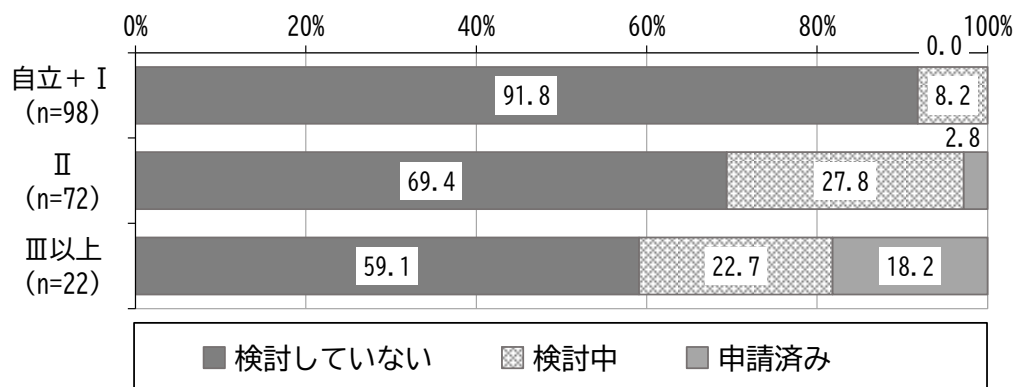
【認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「検討していない」が91.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が8.2%となっています。

「Ⅱ」では「検討していない」が69.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が27.8%、「申請済み」が2.8%となっています。

「Ⅲ以上」では「検討していない」が59.1%と最も割合が高く、次いで「検討中」が22.7%、「申請済み」が18.2%となっています。

図表 3-4-18 認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



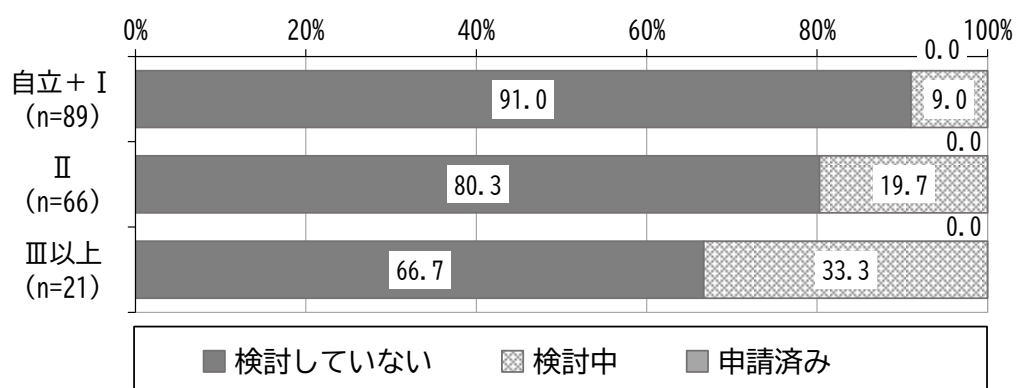
【認知症自立度別・施設等検討の状況（その他の世帯）】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「検討していない」が91.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が9.0%となっています。

「Ⅱ」では「検討していない」が80.3%と最も割合が高く、次いで「検討中」が19.7%となっています。

「Ⅲ以上」では「検討していない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が33.3%となっています。

図表 3-4-19 認知症自立度別・施設等検討の状況（その他の世帯）



5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

5.1 集計・分析の狙い

- ここでは、医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの検討につなげるための集計を行います。
- 具体的には、世帯類型別・要介護度別の「主な介護者が行っている介護」や「訪問診療の利用の有無」、「訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ」などの分析を行います。

5.2 集計結果

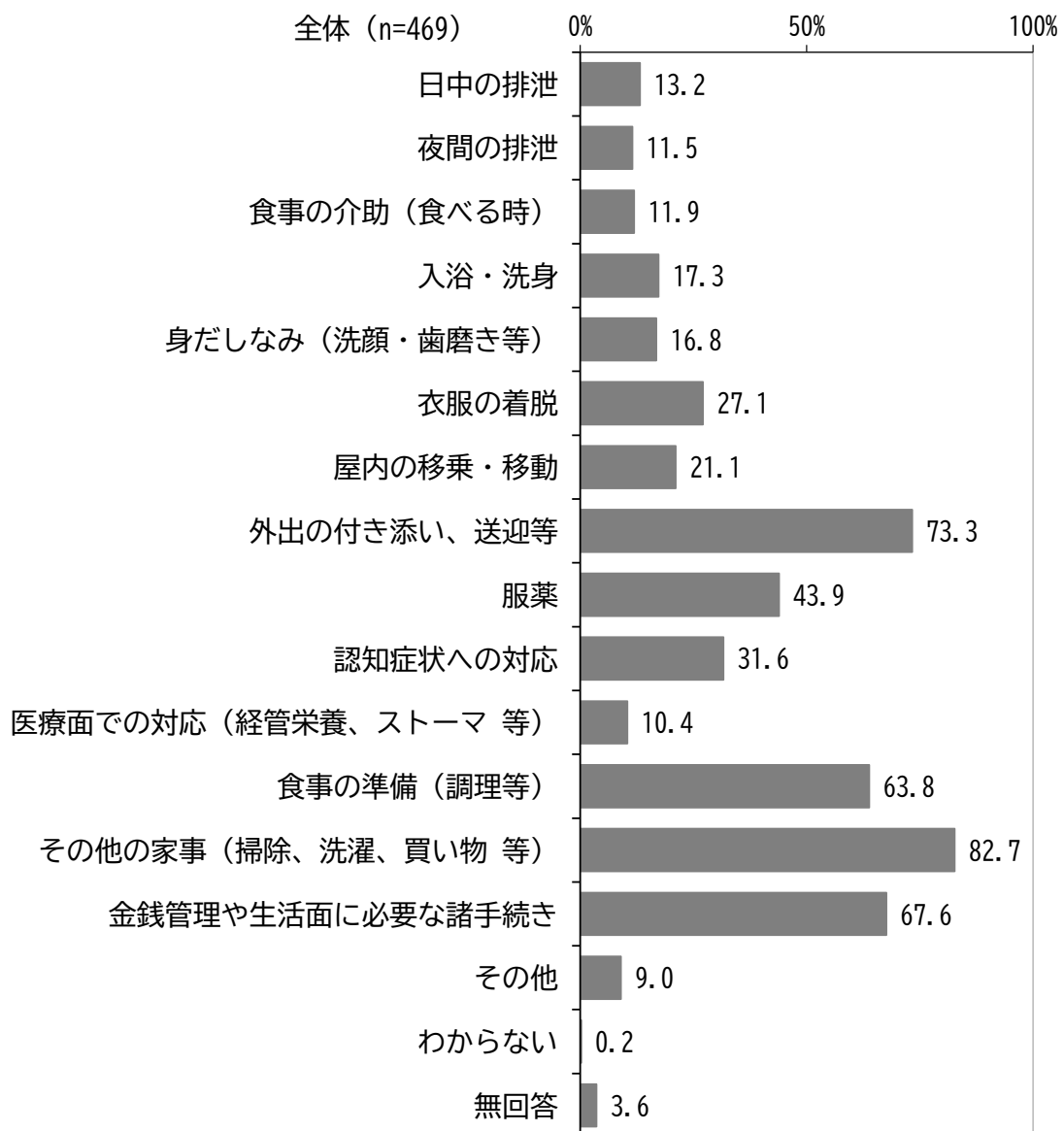
(1)基礎集計

- 「主な介護者が行っている介護」について、要介護度別・世帯類型別の集計を行っています。
- ここでは、特に「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」に着目し、家族等の主な介護者が「医療面での対応」を行っている割合を把握することができます。

【主な介護者が行っている介護】

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」の割合が最も高く 82.7%となっています。次いで、「外出の付き添い、送迎等（73.3%）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き（67.6%）」となっています。

図表 3-5-1 主な介護者が行っている介護



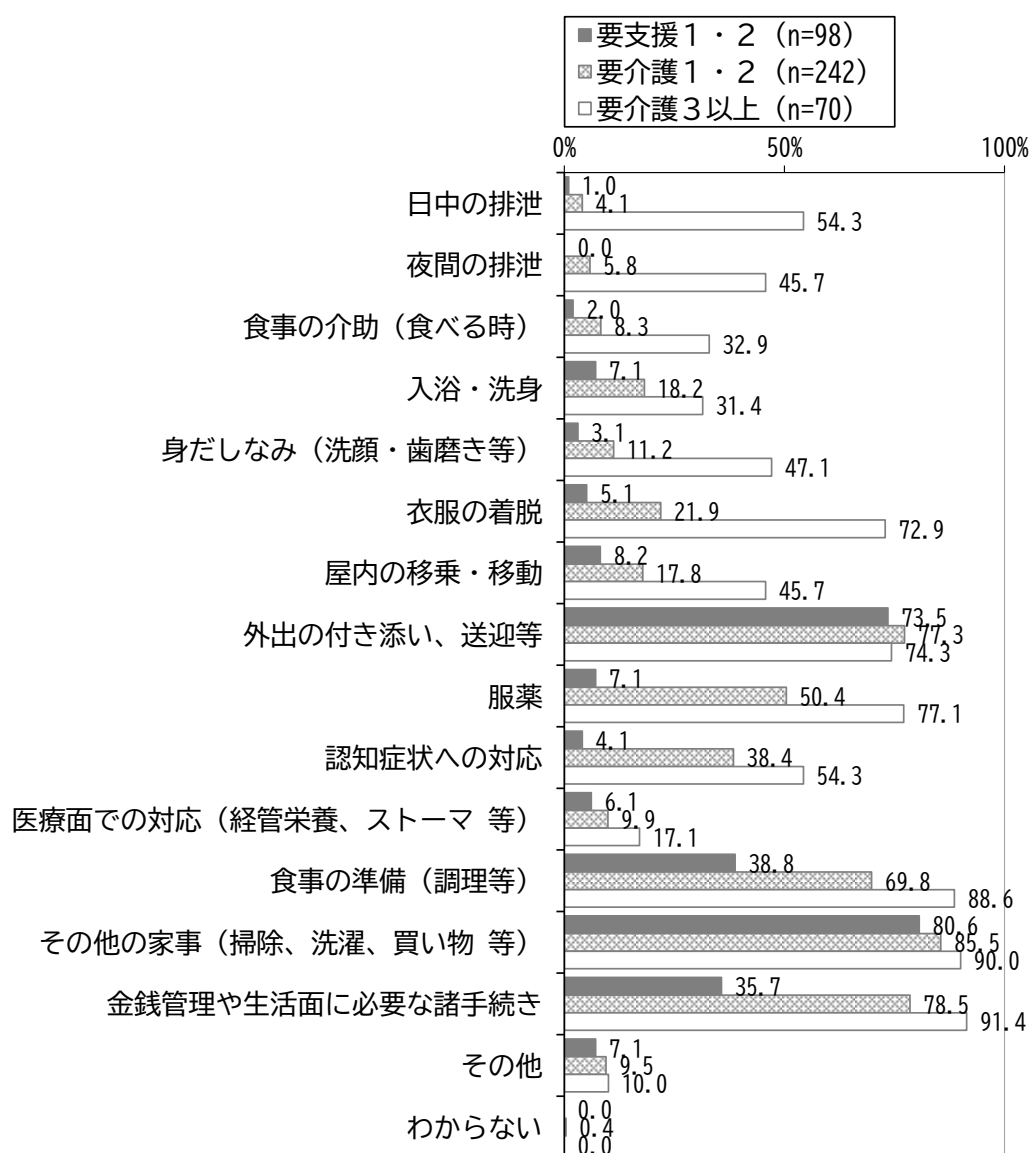
【要介護度別・主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を二次判定結果別にみると、「要支援 1・2」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 80.6%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 73.5%、「食事の準備（調理等）」が 38.8%となっています。

「要介護 1・2」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 85.5%と最も割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 78.5%、「外出の付き添い、送迎等」が 77.3%となっています。

「要介護 3 以上」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 91.4%と最も割合が高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 90.0%、「食事の準備（調理等）」が 88.6%となっています。

図表 3-5-2 要介護度別・主な介護者が行っている介護



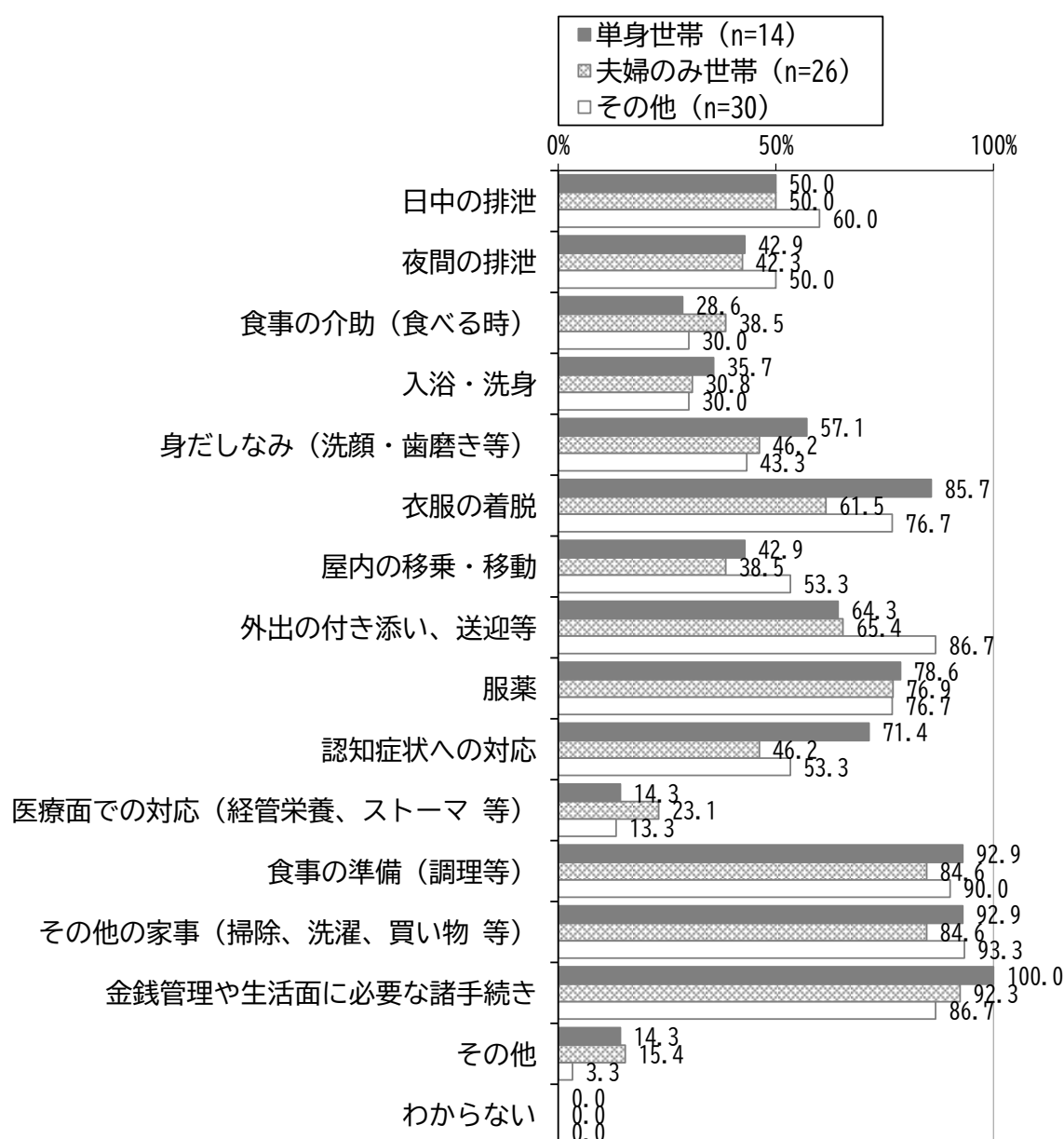
【世帯類型別・主な介護者が行っている介護（要介護3以上）】

介護者が行っている介護を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が100.0%と最も割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」がいずれも92.9%となっています。

「夫婦のみ世帯」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が92.3%と最も割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」がいずれも84.6%となっています。

「その他」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が93.3%と最も割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が90.0%、「外出の付き添い、送迎等」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」がいずれも86.7%となっています。

図表 3-5-3 世帯類型別・主な介護者が行っている介護（要介護3以上）

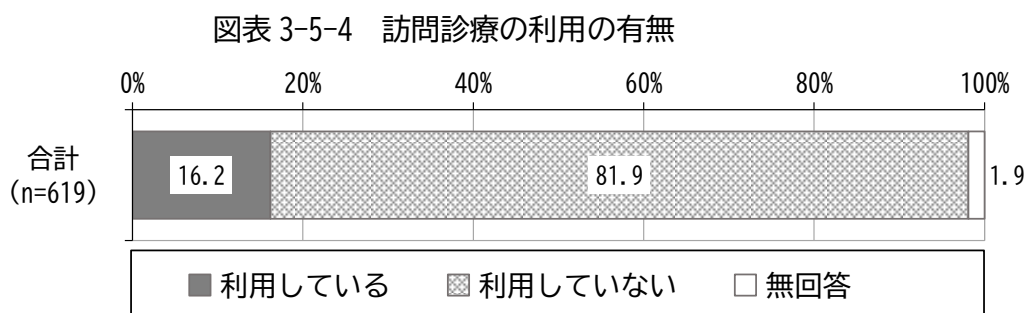


(2)訪問診療の利用割合

○ 「訪問診療の利用の有無」について、世帯類型別・要介護度別の集計を行っています。

【訪問診療の利用の有無】

「利用していない」の割合が最も高く 81.9%となっています。次いで、「利用している(16.2%)」となっています。

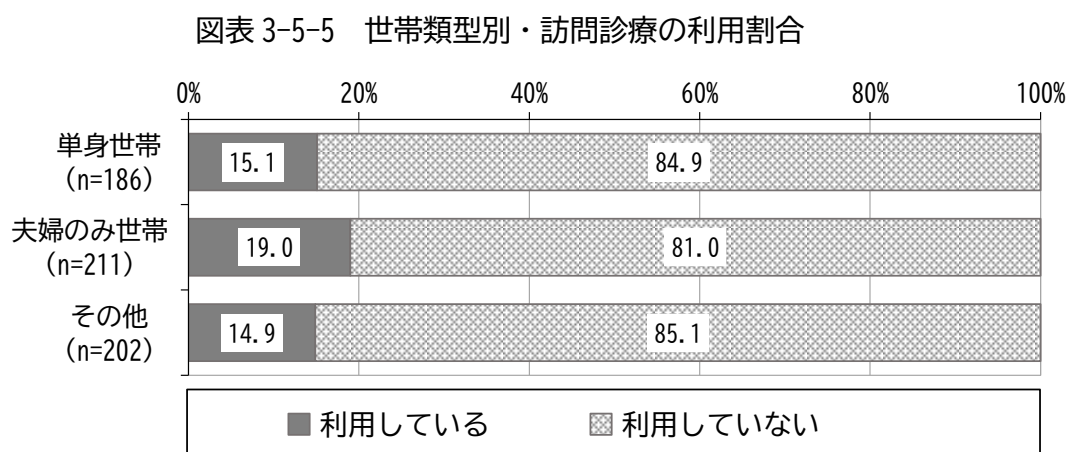


【世帯類型別・訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が 84.9%と最も割合が高く、次いで「利用している」が 15.1%となっています。

「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が 81.0%と最も割合が高く、次いで「利用している」が 19.0%となっています。

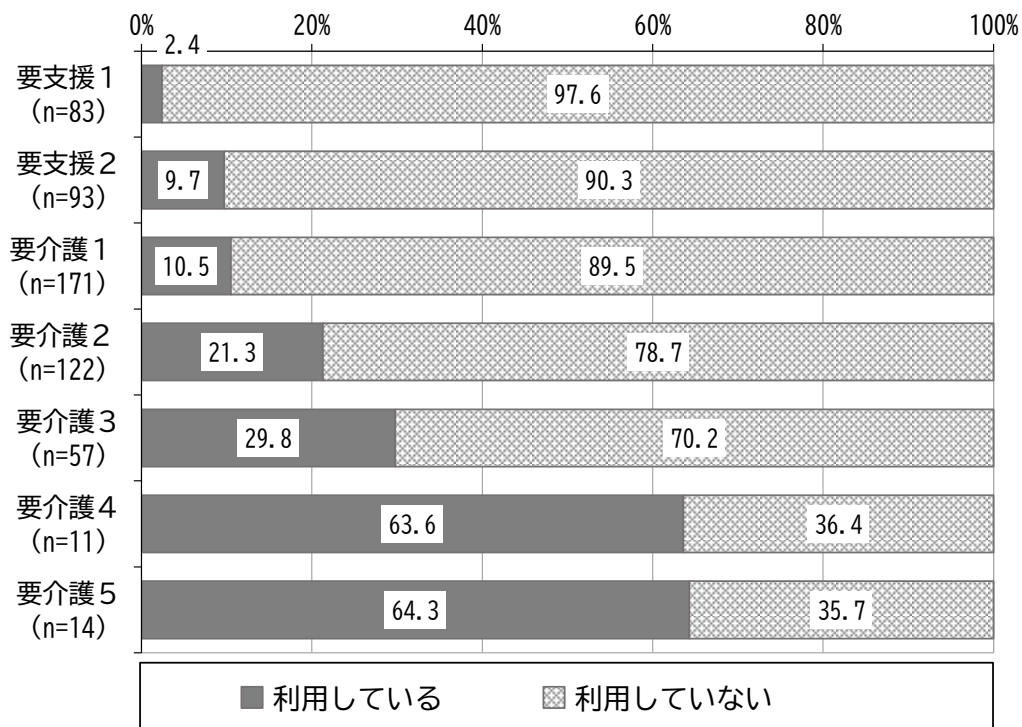
「その他」では「利用していない」が 85.1%と最も割合が高く、次いで「利用している」が 14.9%となっています。



【要介護度別・訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を二次判定結果別にみると、要介護度の重度化に伴い、訪問診療の利用割合が増加しており、「要介護 5」では「利用している」が 64.3%と最も割合が高くなっています。

図表 3-5-6 要介護度別・訪問診療の利用割合



(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

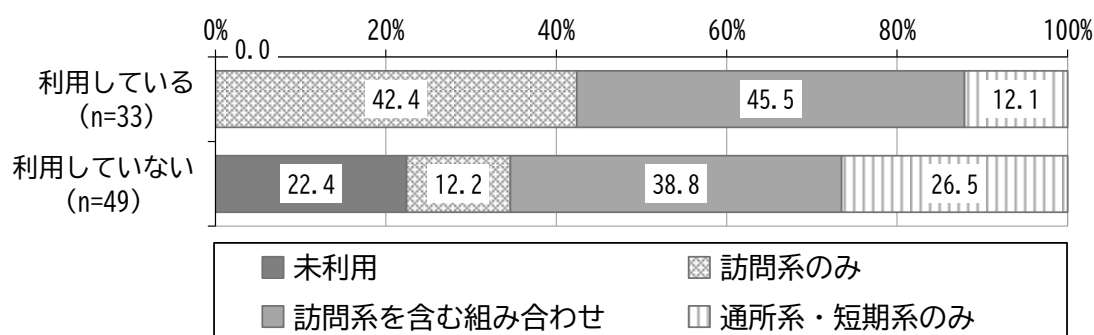
- 訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上の「サービス利用の組み合わせ」を集計しています。

【訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）】

サービス利用の組み合わせを訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系を含む組み合わせ」が45.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が42.4%、「通所系・短期系のみ」が12.1%となっています。

「利用していない」では「訪問系を含む組み合わせ」が38.8%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が22.4%、「通所系・短期系のみ」が26.5%、「未利用」が12.2%となっています。

図表 3-5-7 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）



(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無

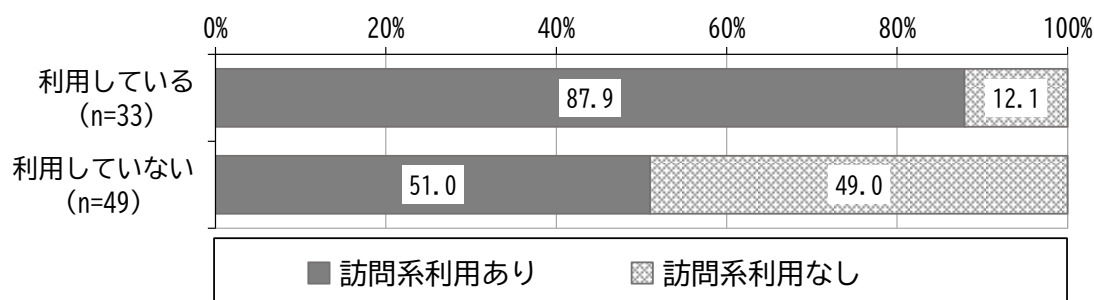
- 訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上について、訪問系・通所系・短期系のそれぞれのサービス利用の有無を集計しています。

【訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）】

訪問系の利用の有無を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系利用あり」が87.9%と最も割合が高く、次いで「訪問系利用なし」が12.1%となっています。

「利用していない」では「訪問系利用あり」が51.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系利用なし」が49.0%となっています。

図表 3-5-8 訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）

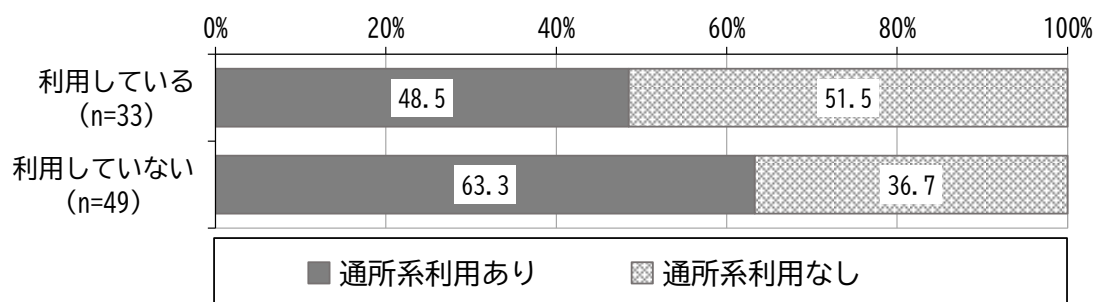


【訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）】

通所系の利用の有無（定期巡回を除く）を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「通所系利用なし」が51.5%と最も割合が高く、次いで「通所系利用あり」が48.5%となっています。

「利用していない」では「通所系利用あり」が63.3%と最も割合が高く、次いで「通所系利用なし」が36.7%となっています。

図表 3-5-9 訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）

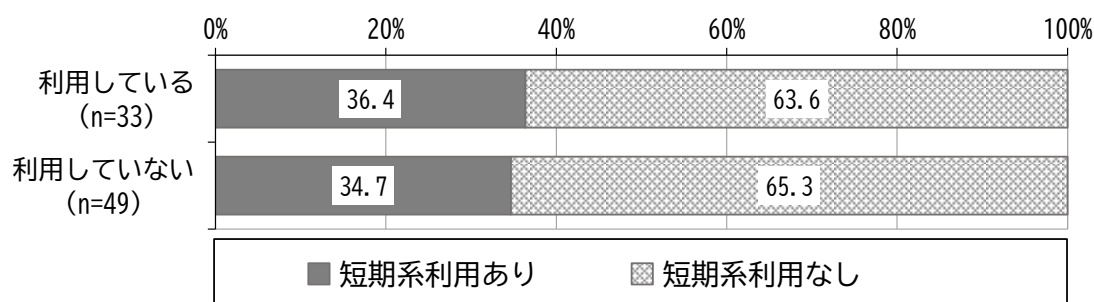


【訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）】

短期系の利用の有無（定期巡回を除く）を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「短期系利用なし」が63.6%と最も割合が高く、次いで「短期系利用あり」が36.4%となっています。

「利用していない」では「短期系利用なし」が65.3%と最も割合が高く、次いで「短期系利用あり」が34.7%となっています。

図表 3-5-10 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）



6 サービス未利用の理由など

6.1 集計・分析の狙い

- ここでは、各地域において支援・サービスの提供体制の構築を含む各種の取組を検討する際に、参考になると考えられるいくつかの集計結果を整理しています。

6.2 集計結果（参考）

(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

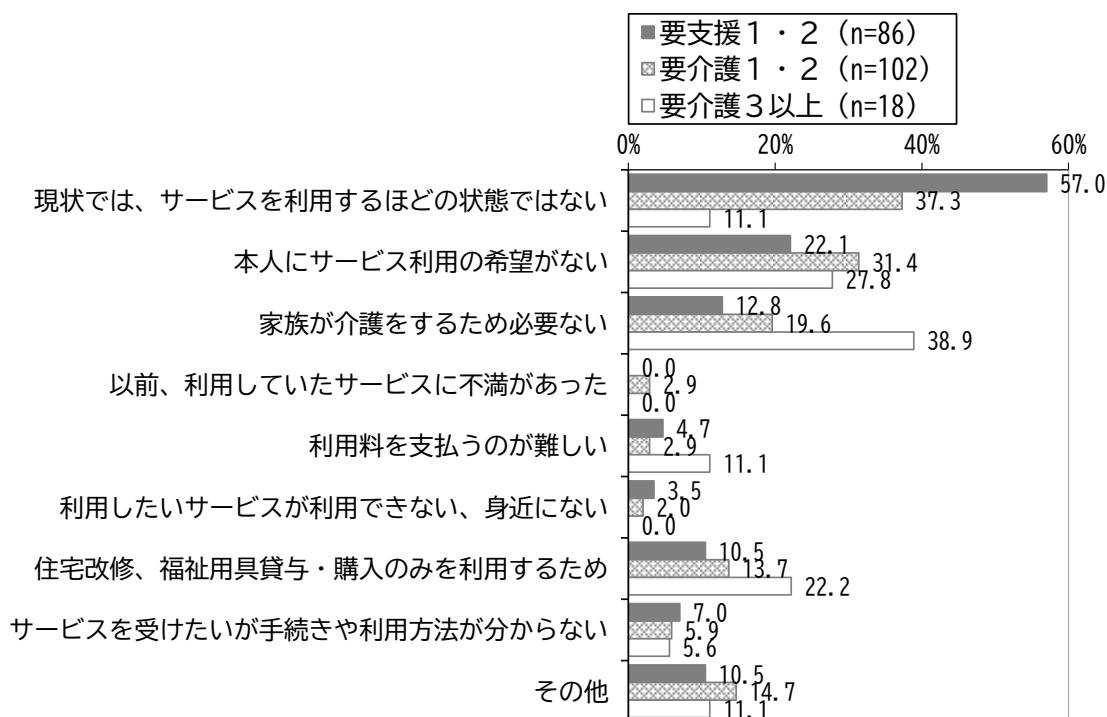
【要介護度別のサービス未利用の理由】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が57.0%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が22.1%、「家族が介護をするため必要ない」が12.8%となっています。

「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が37.3%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が31.4%、「家族が介護をするため必要ない」が19.6%となっています。

「要介護3以上」では「家族が介護をするため必要ない」が38.9%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が27.8%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が22.2%となっています。

図表 3-6-1 要介護度別のサービス未利用の理由

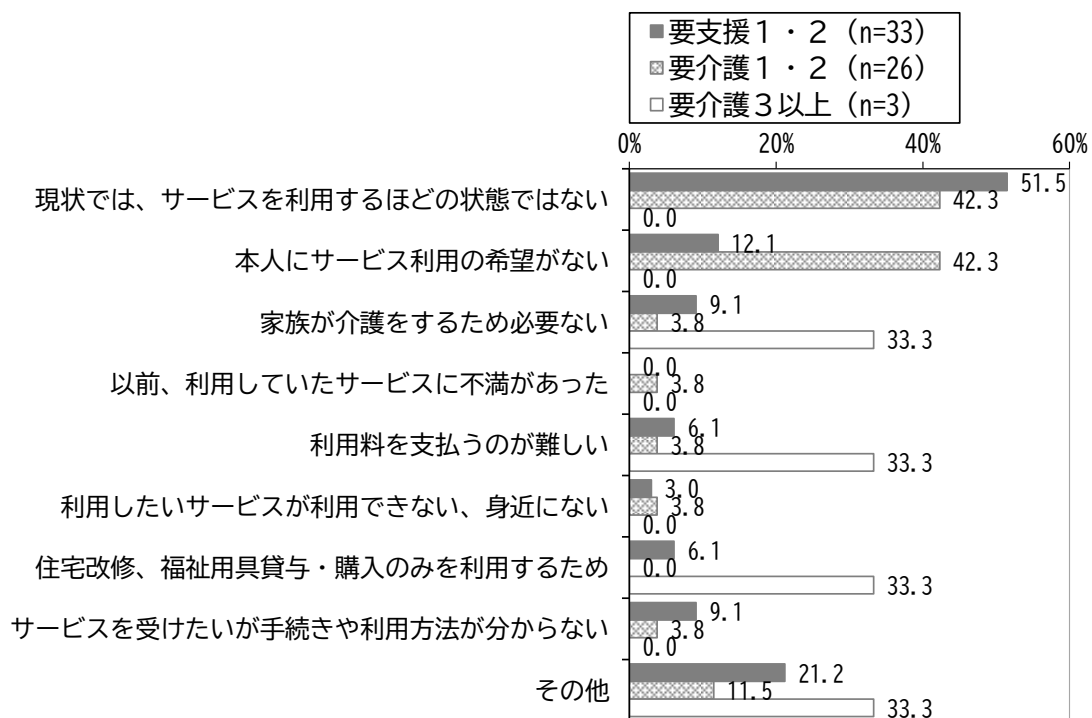


【要介護度別のサービス未利用の理由（単身世帯）】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が51.5%と最も割合が高く、次いで「その他」が21.2%、「本人にサービス利用の希望がない」が12.1%となっています。

「要介護１・２」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」がいずれも42.3%と最も割合が高く、次いで「その他」が11.5%となっています。

図表 3-6-2 要介護度別のサービス未利用の理由（単身世帯）



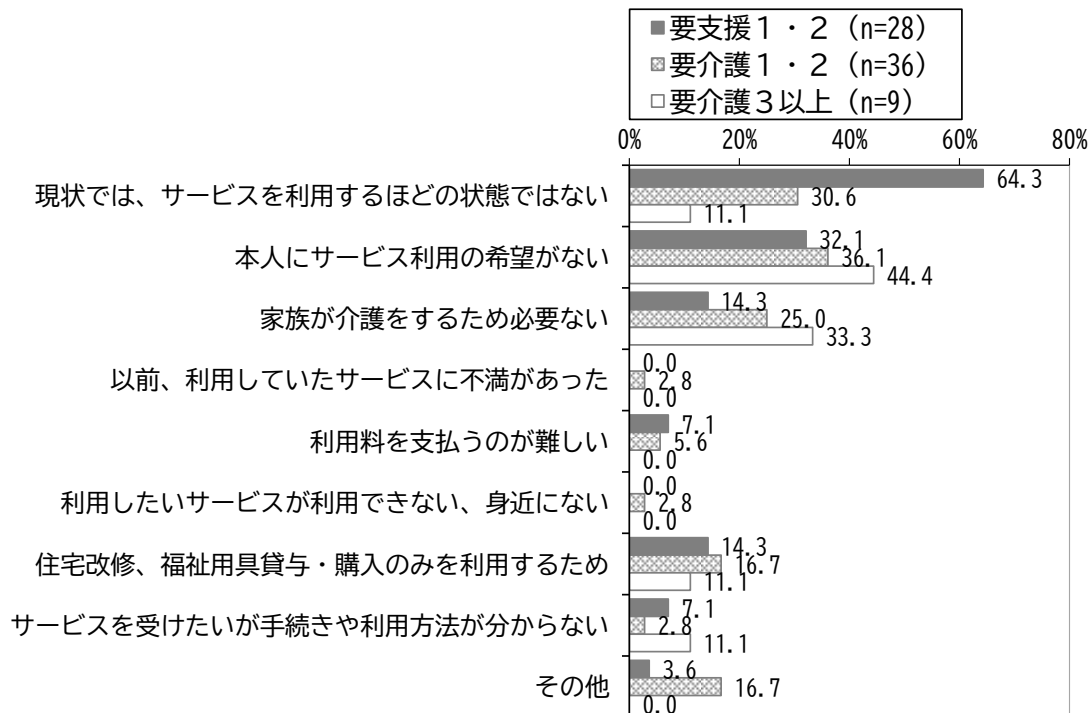
【要介護度別のサービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が64.3%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が32.1%、「家族が介護をするため必要ない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」がいずれも14.3%となっています。

「要介護１・２」では「本人にサービス利用の希望がない」が36.1%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が30.6%、「家族が介護をするため必要ない」が25.0%となっています。

「要介護３以上」では「本人にサービス利用の希望がない」が44.4%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が33.3%、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」がいずれも11.1%となっています。

図表 3-6-3 要介護度別のサービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）



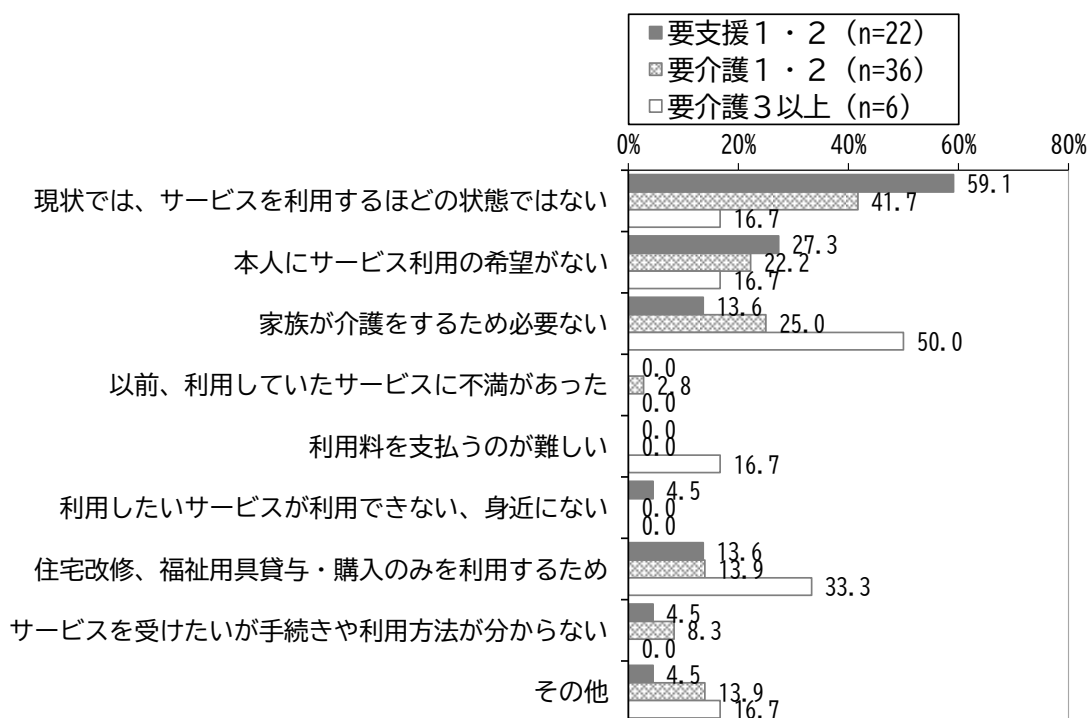
【要介護度別のサービス未利用の理由（その他世帯）】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が59.1%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が27.3%、「家族が介護をするため必要ない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」がいずれも13.6%となっています。

「要介護１・２」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が41.7%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が25.0%、「本人にサービス利用の希望がない」が22.2%となっています。

「要介護３以上」では「家族が介護をするため必要ない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が33.3%、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」、「利用料を支払うのが難しい」、「その他」がいずれも16.7%となっています。

図表 3-6-4 要介護度別のサービス未利用の理由（その他世帯）



(2)認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

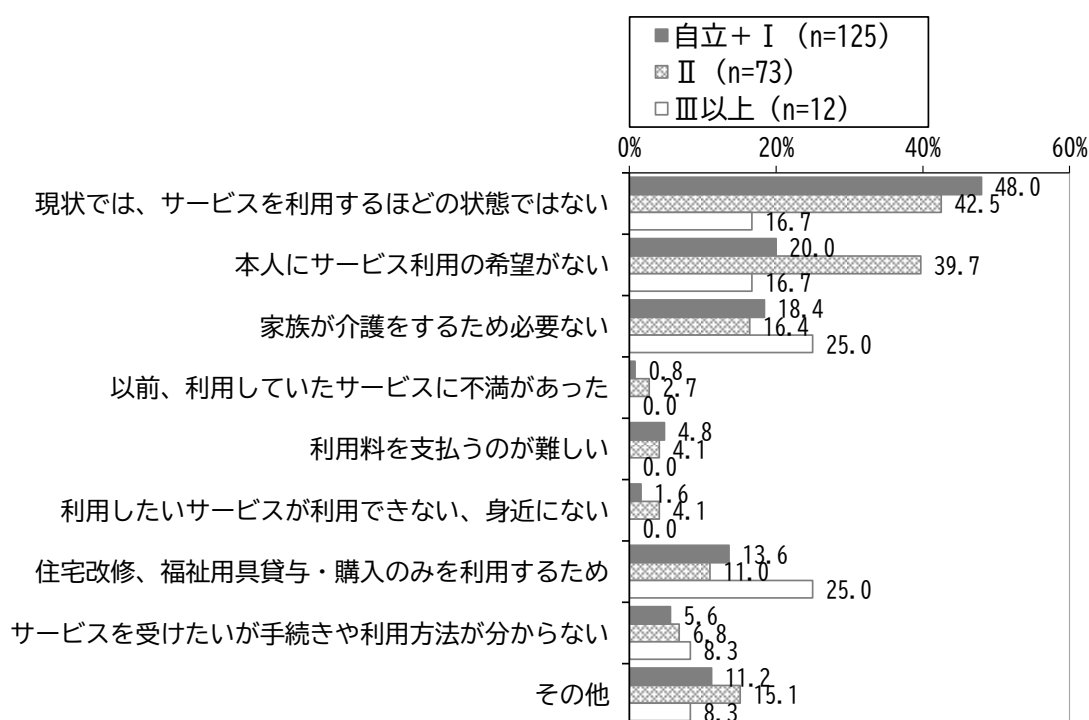
【認知症自立度別のサービス未利用の理由】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が48.0%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が20.0%、「家族が介護をするため必要ない」が18.4%となっています。

「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が42.5%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が39.7%、「家族が介護をするため必要ない」が16.4%となっています。

「Ⅲ以上」では「家族が介護をするため必要ない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」がいずれも25.0%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」がいずれも16.7%となっています。

図表 3-6-5 認知症自立度別のサービス未利用の理由

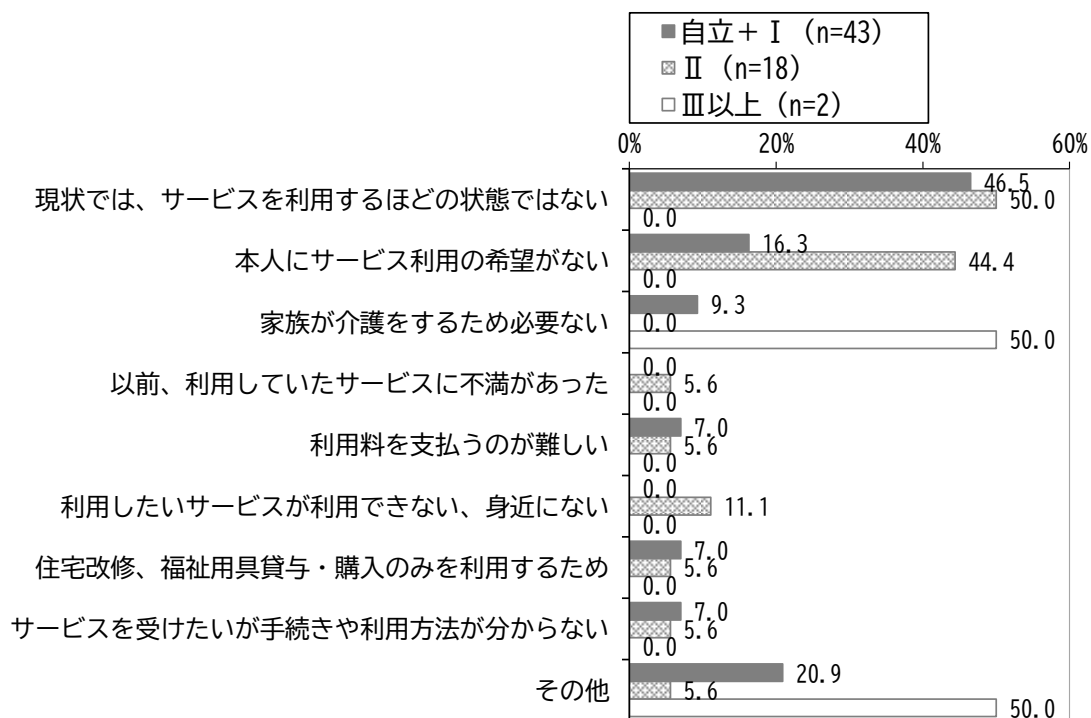


【認知症自立度別のサービス未利用の理由（単身世帯）】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が46.5%と最も割合が高く、次いで「その他」が20.9%、「本人にサービス利用の希望がない」が16.3%となっています。

「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が44.4%、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」が11.1%となっています。

図表 3-6-6 認知症自立度別のサービス未利用の理由（単身世帯）



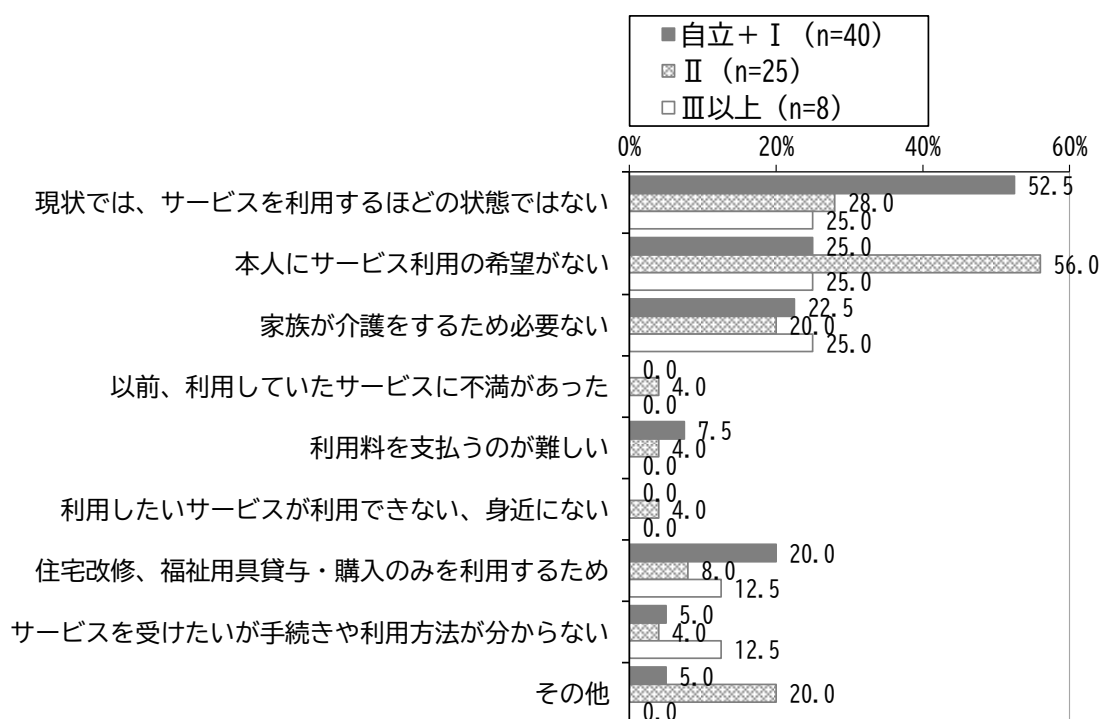
【認知症自立度別のサービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が52.5%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が25.0%、「家族が介護をするため必要ない」が22.5%となっています。

「Ⅱ」では「本人にサービス利用の希望がない」が56.0%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が28.0%、「家族が介護をするため必要ない」、「その他」が20.0%となっています。

「Ⅲ以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」がいずれも25.0%と最も割合が高くなっています。

図表 3-6-7 認知症自立度別のサービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）

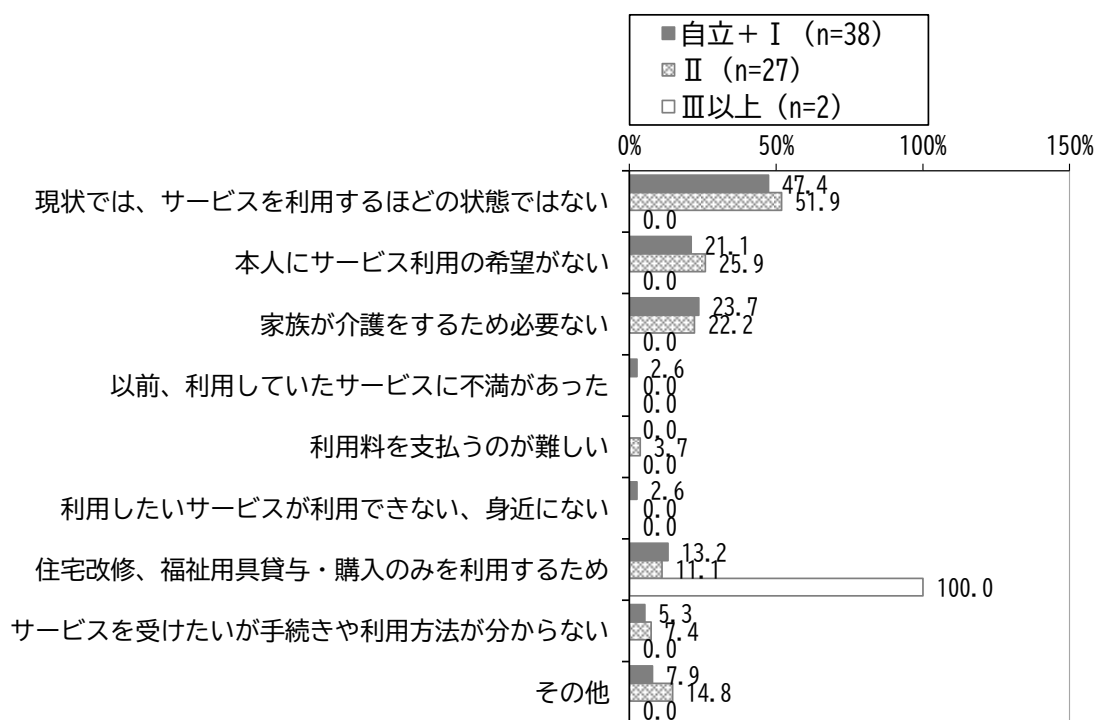


【認知症自立度別のサービス未利用の理由（その他世帯）】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が47.4%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が23.7%、「本人にサービス利用の希望がない」が21.1%となっています。

「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が51.9%と最も割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が25.9%、「家族が介護をするため必要ない」が22.2%となっています。

図表 3-6-8 認知症自立度別のサービス未利用の理由（その他世帯）



(3)認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス

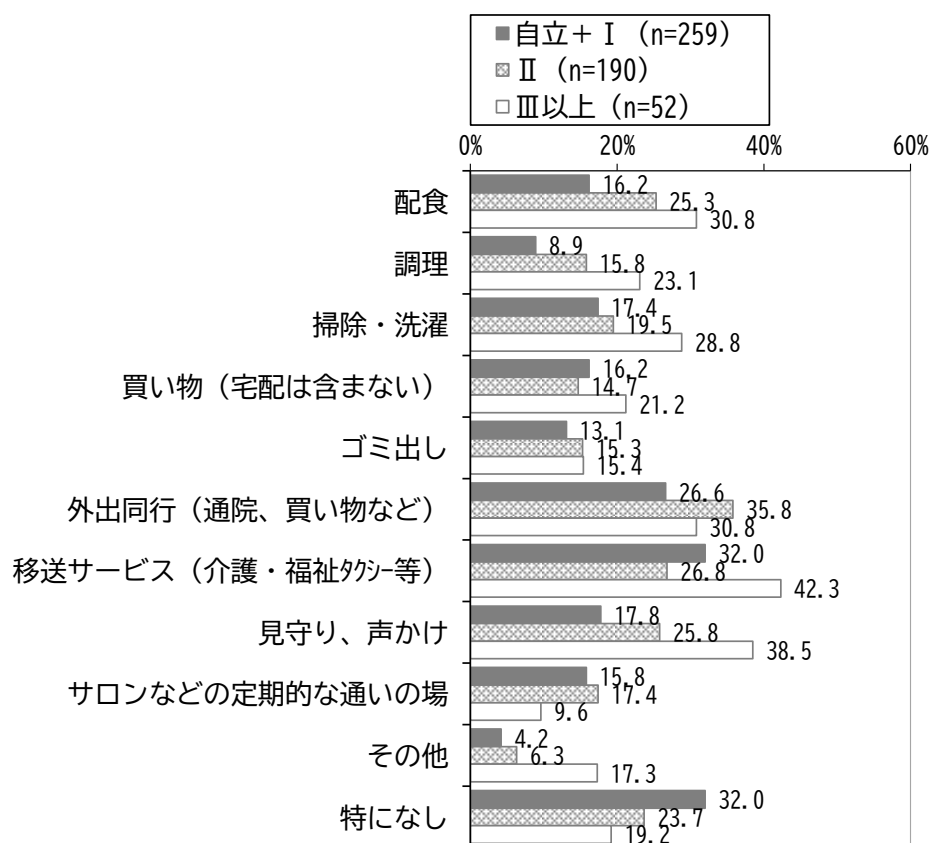
【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「特になし」がいずれも 32.0%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 26.6%となっています。

「Ⅱ」では「外出同行（通院、買い物など）」が 35.8%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 26.8%、「見守り、声かけ」が 25.8%となっています。

「Ⅲ以上」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 42.3%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が 38.5%、「配食」、「外出同行（通院、買い物など）」が 30.8%となっています。

図表 3-6-9 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



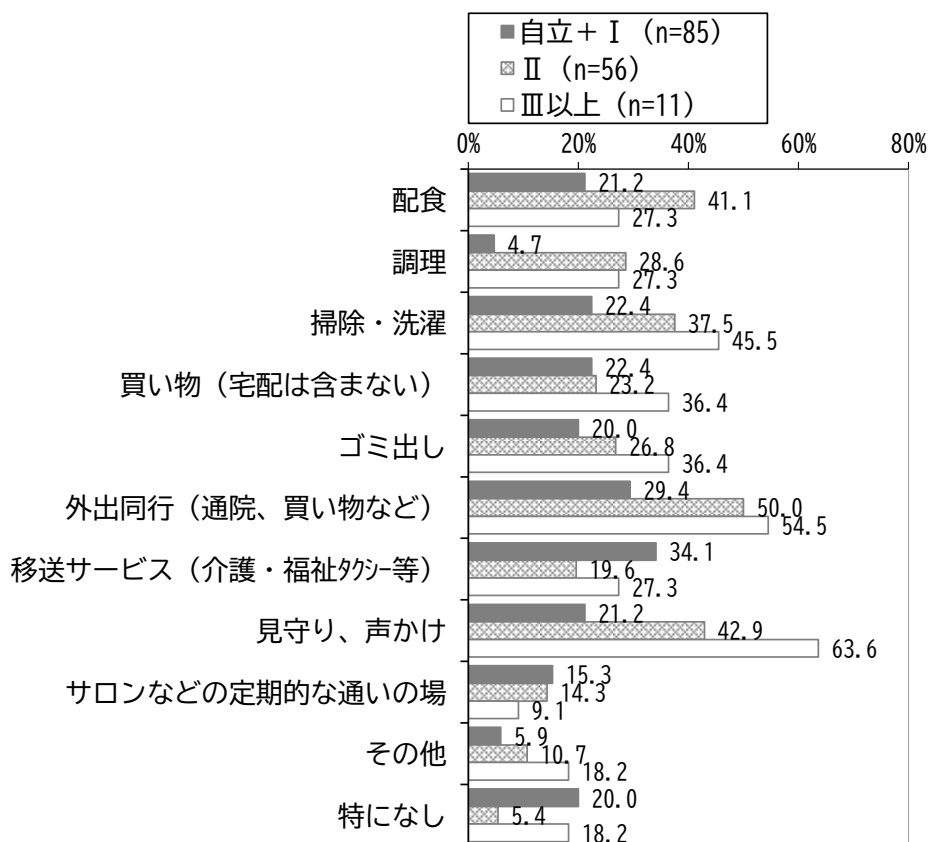
【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が34.1%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が29.4%、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」が22.4%となっています。

「Ⅱ」では「外出同行（通院、買い物など）」が50.0%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が42.9%、「配食」が41.1%となっています。

「Ⅲ以上」では「見守り、声かけ」が63.6%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が54.5%、「掃除・洗濯」が45.5%となっています。

図表 3-6-10 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



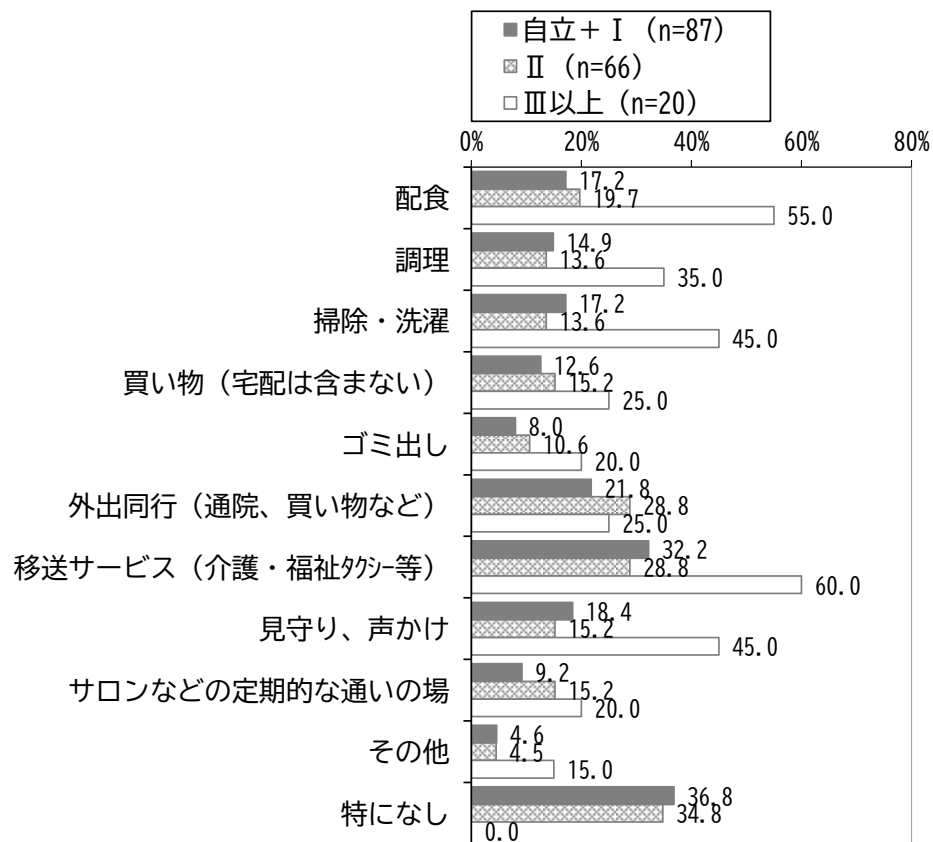
【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「特になし」が 36.8%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 32.2%、「外出同行（通院、買い物など）」が 21.8%となっています。

「Ⅱ」では「特になし」が 34.8%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」がいずれも 28.8%となっています。

「Ⅲ以上」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 60.0%と最も割合が高く、次いで「配食」が 55.0%、「掃除・洗濯」、「見守り、声かけ」がいずれも 45.0%となっています。

図表 3-6-11 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



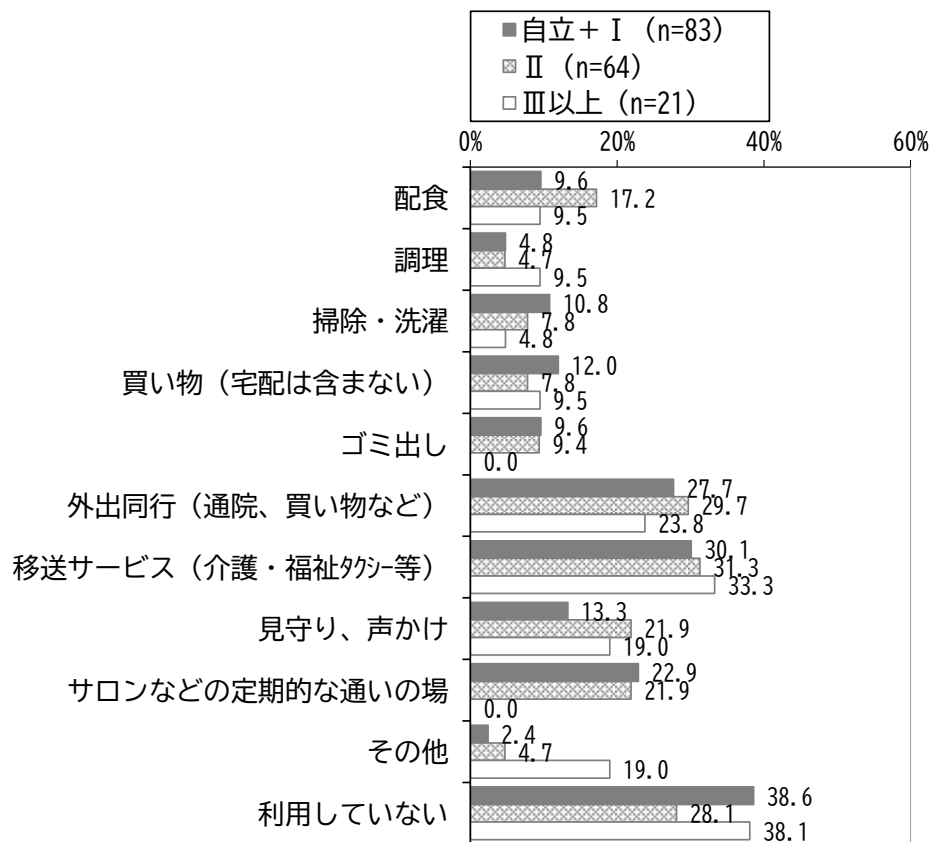
【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「特になし」が 38.6%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 30.1%、「外出同行（通院、買い物など）」が 27.7%となっています。

「Ⅱ」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 31.3%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 29.7%、「特になし」が 28.1%となっています。

「Ⅲ以上」では「特になし」が 38.1%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 33.3%、「外出同行（通院、買い物など）」が 23.8%となっています。

図表 3-6-12 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）



(4) 本人の年齢別・主な介護者の年齢

【本人の年齢別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を本人年齢別にみると、「65歳未満」では「60歳代」が50.0%と最も割合が高く、次いで「50歳代」が33.3%、「40歳未満」が16.7%となっています。

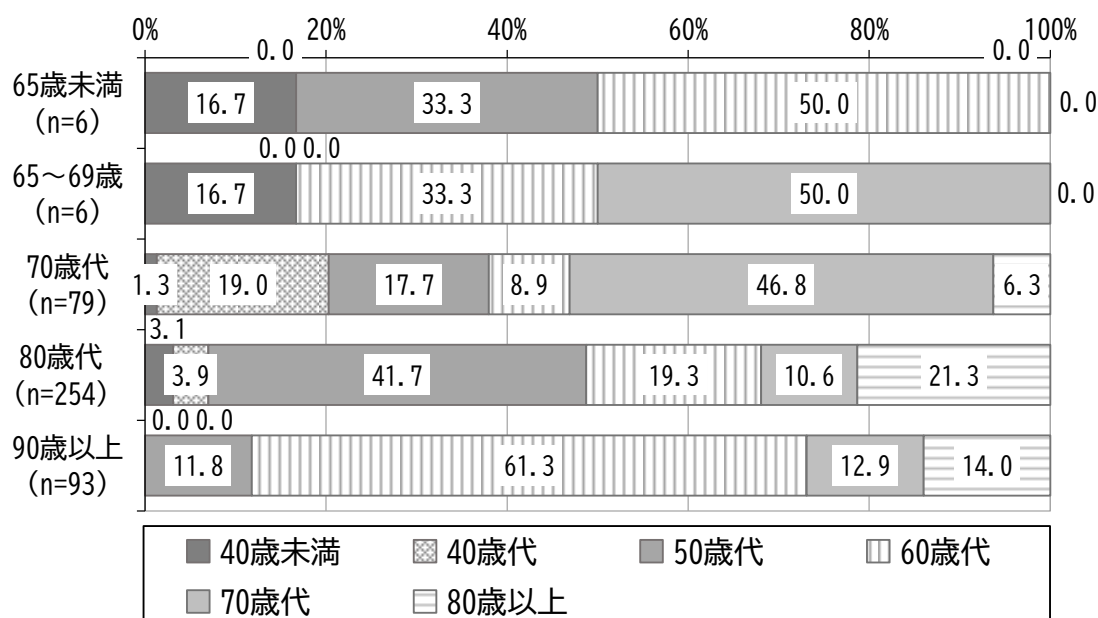
「65～69歳」では「70歳代」が50.0%と最も割合が高く、次いで「60歳代」が33.3%、「40歳未満」が16.7%となっています。

「70歳代」では「70歳代」が46.8%と最も割合が高く、次いで「40歳代」が19.0%、「50歳代」が17.7%となっています。

「80歳代」では「50歳代」が41.7%と最も割合が高く、次いで「80歳以上」が21.3%、「60歳代」が19.3%となっています。

「90歳以上」では「60歳代」が61.3%と最も割合が高く、次いで「80歳以上」が14.0%、「70歳代」が12.9%となっています。

図表 3-6-13 本人の年齢別・主な介護者の年齢



(5)要介護度別の抱えている傷病

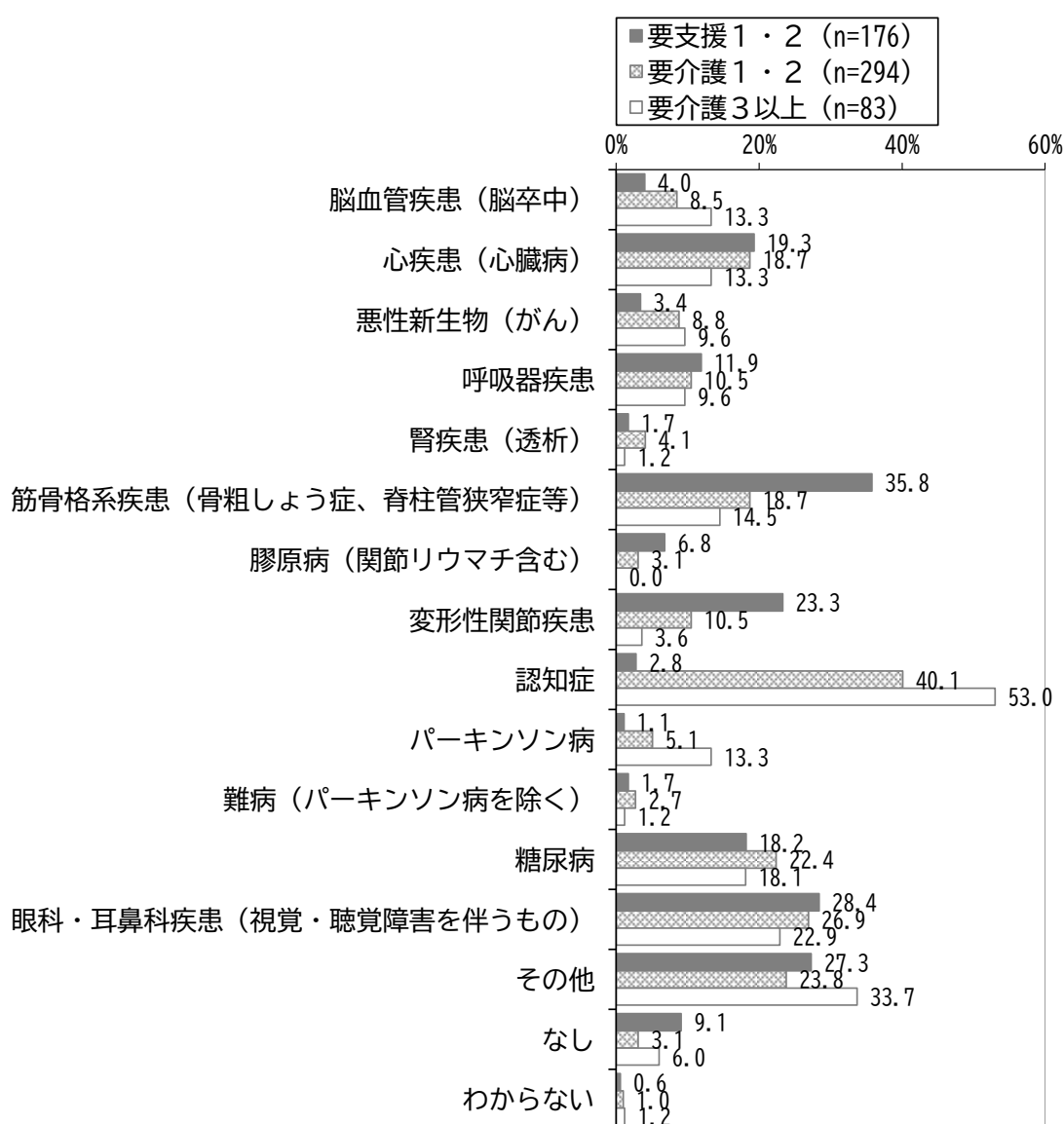
【要介護度別・抱えている傷病】

抱えている傷病を二次判定結果別にみると、「要支援1・2」では「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が35.8%と最も割合が高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が28.4%、「その他」が27.3%となっています。

「要介護1・2」では「認知症」が40.1%と最も割合が高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が26.9%、「その他」が23.8%となっています。

「要介護3以上」では「認知症」が53.0%と最も割合が高く、次いで「その他」が33.7%、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が22.9%となっています。

図表 3-6-14 要介護度別・抱えている傷病



(6)訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病

【訪問診療の利用の有無別・抱えている傷病】

抱えている傷病を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「認知症」が34.3%と最も割合が高く、次いで「糖尿病」が26.3%、「その他」が25.3%となっています。

「利用していない」では「認知症」が29.4%と最も割合が高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が27.0%、「その他」が26.2%となっています。

図表 3-6-15 訪問診療の利用の有無別・抱えている傷病

